

建設専門工事業の労働生産性 に関する調査報告書

(資料編)

平成21年3月

社団法人 建設産業専門団体連合会

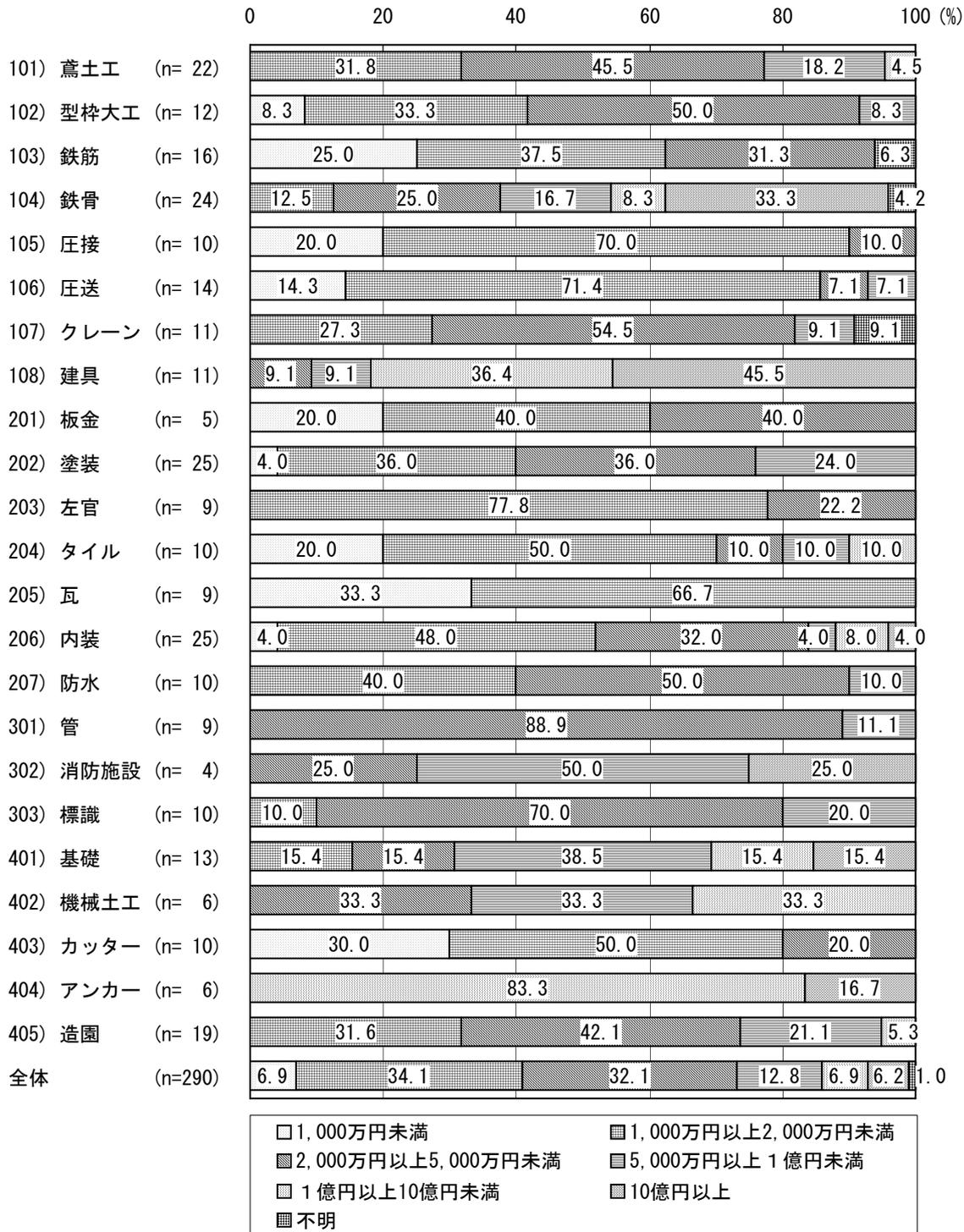
目 次

1. 職種別集計結果	1
回答会社の資本金（職種別）	1
回答会社の従業員数（職種別）	2
回答会社の最も多い請負階層（職種別）	3
回答会社の直近の完工高（職種別）	4
問1 雇用している技能労働者数（職種別）	5
問2 技能労働者の労働生産性についての現状認識（職種別）	6
問3 工事請負契約上の問題の発生頻度（職種別）	7
問4 工事請負契約上の問題対策の実施状況（職種別）	10
問5 工事請負契約上の問題対策の有効性（職種別）	14
問7 工事計画上の問題の発生頻度（職種別）	18
問8 工事計画上の問題対策の実施状況（職種別）	23
問9 工事計画上の問題対策の有効性（職種別）	27
問11 工事管理上の問題の発生頻度（職種別）	31
問12 工事管理上の問題対策の実施状況（職種別）	37
問13 工事管理上の問題対策の有効性（職種別）	41
問15 作業能力上の問題の発生頻度（職種別）	45
問16 作業能力上の問題対策の実施状況（職種別）	47
問17 作業能力上の問題対策の有効性（職種別）	52
問19 省力化・効率化の取組みの実施状況（職種別）	57
問20 省力化・効率化の取組みの有効性（職種別）	61
2. 記述回答一覧	65
問2 技能労働者の労働生産性についての現状認識（その他記述回答）	65
問6 頻繁に発生する工事請負契約上の問題とその対策（記述回答）	66
問10 頻繁に発生する工事計画上の問題とその対策（記述回答）	79
問14 頻繁に発生する工事管理上の問題とその対策（記述回答）	88
問18 頻繁に発生する作業能力上の問題とその対策（記述回答）	96
問21 実施中又は実施予定の省力化・効率化の取組み（記述回答）	103
問22 労働生産性の向上に有効な取組み（記述回答）	107
問23 建設専門工事における労働生産性についての意見（記述回答）	110
3. アンケート調査票	114

1. 職種別集計結果

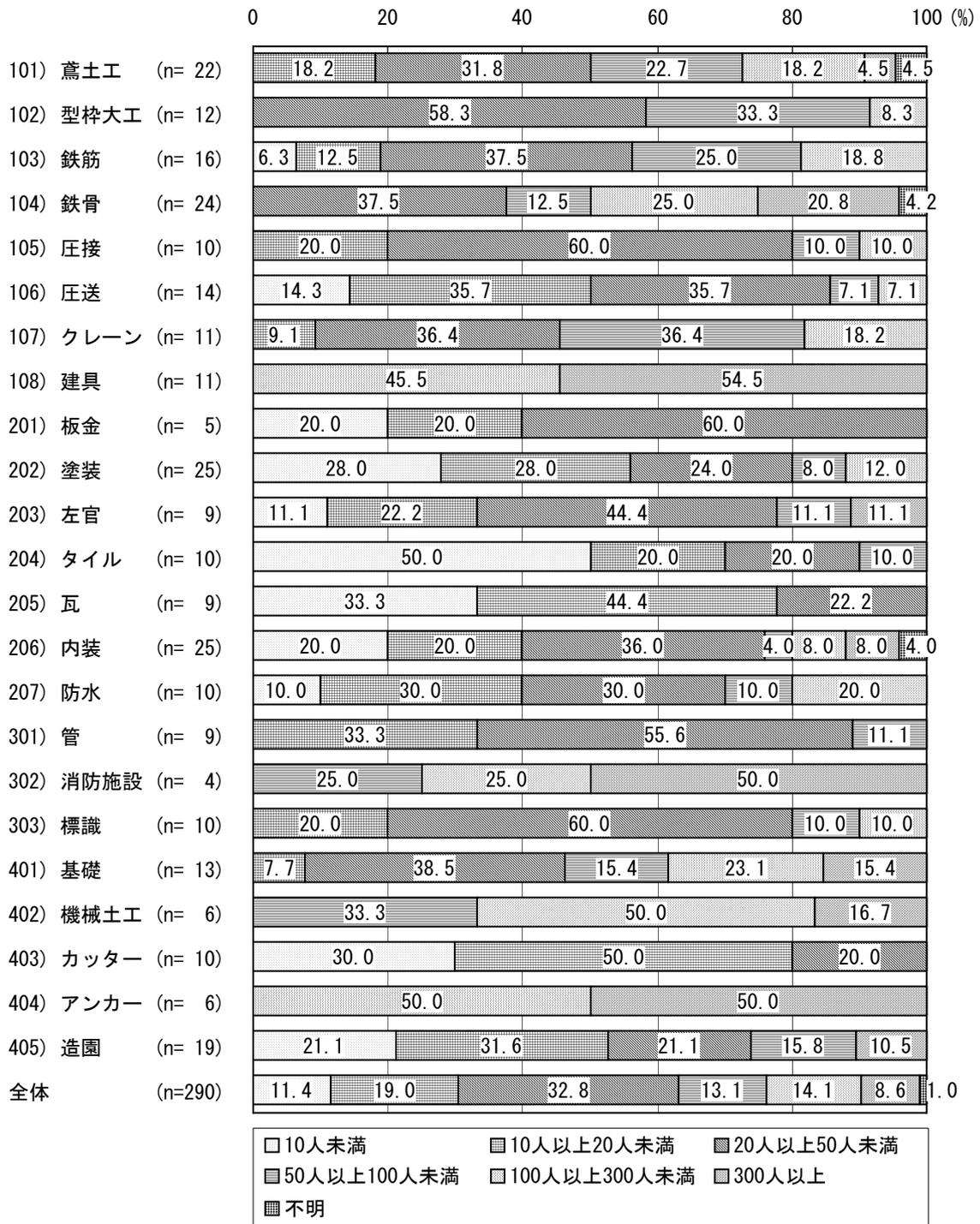
回答会社の資本金（職種別）

資料図 1-1-1 回答会社の資本金（職種別）



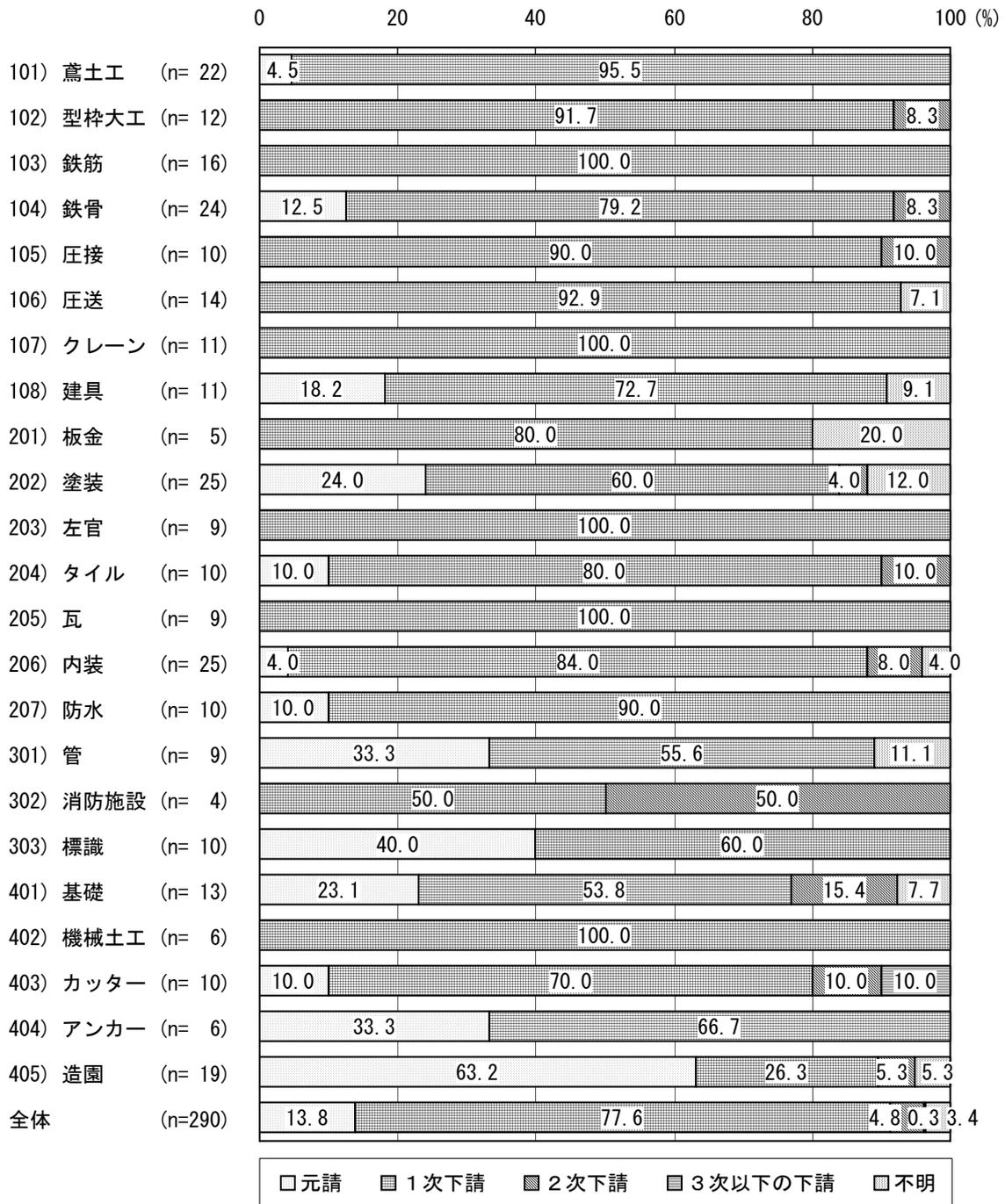
回答会社の従業員数（職種別）

資料図 1-1-2 回答会社の従業員数（職種別）



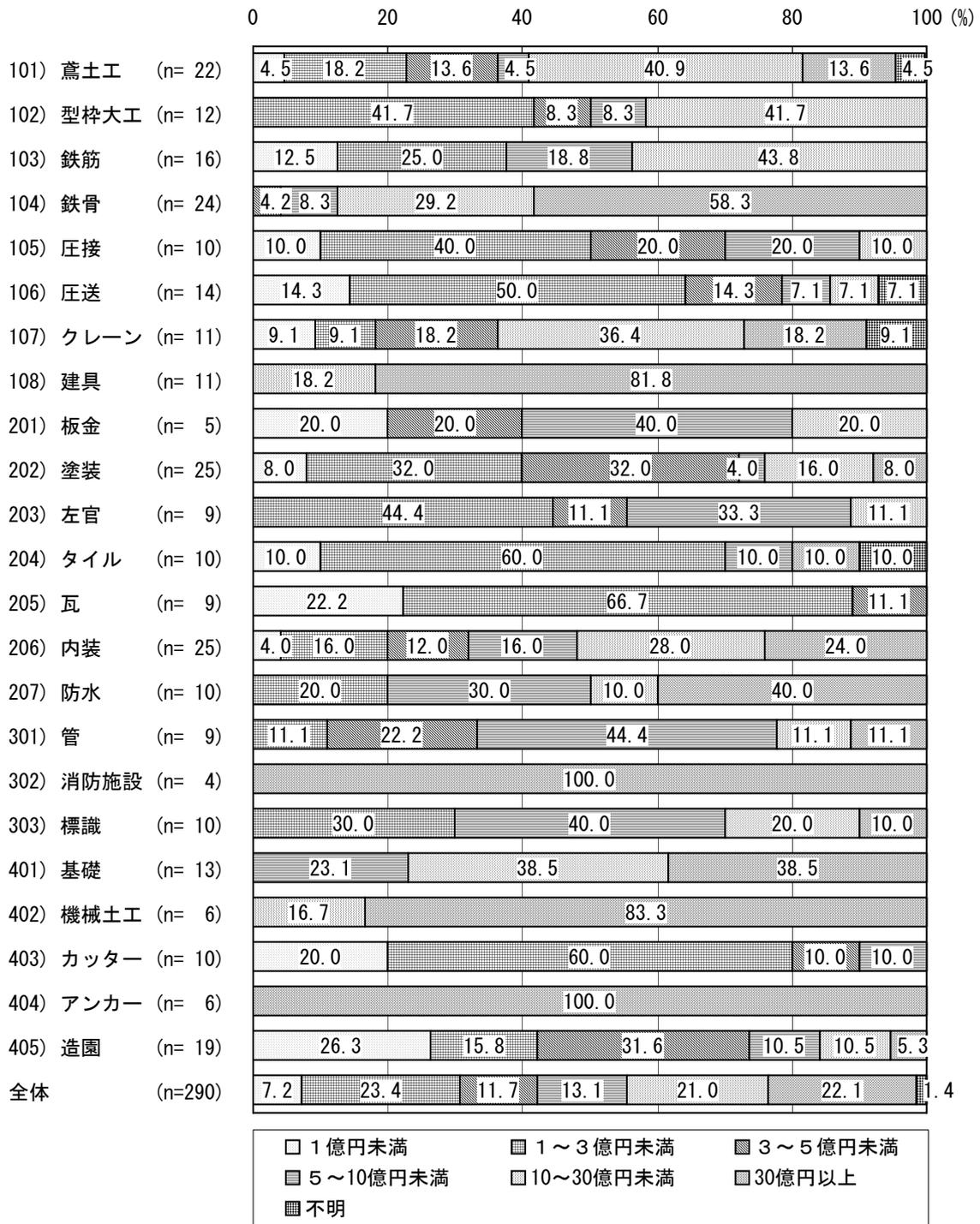
回答会社の最も多い請負階層（職種別）

資料図 1-1-3 回答会社の最も多い請負階層（職種別）



回答会社の直近の完工高（職種別）

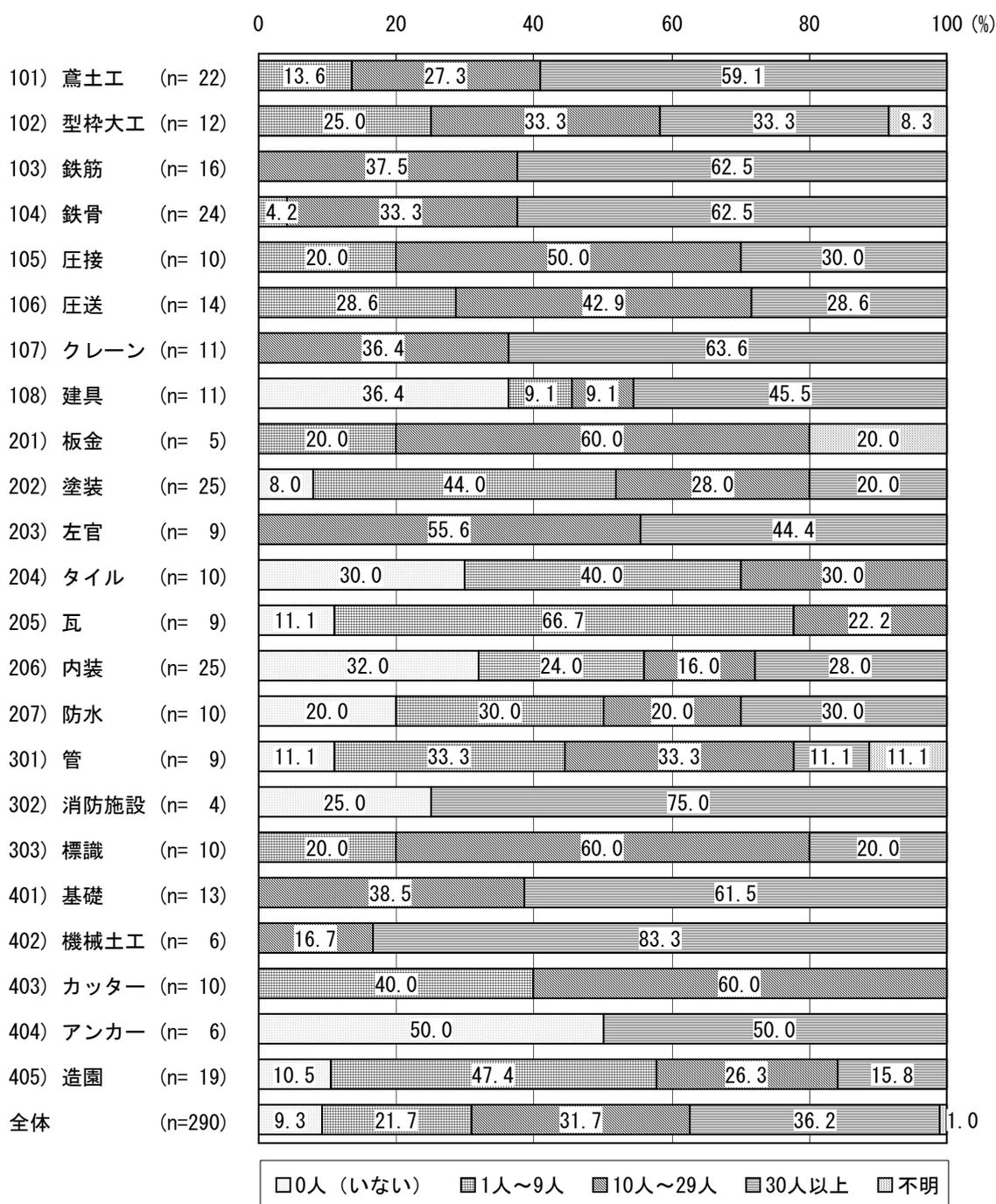
資料図 1-1-4 回答会社の直近の完工高（職種別）



問1 雇用している技能労働者数（職種別）

問1 貴社が直接雇用している（社員又は直用の）技能労働者は何人ですか。（〇は1つ）

資料図 1-2 雇用している技能労働者数（職種別）

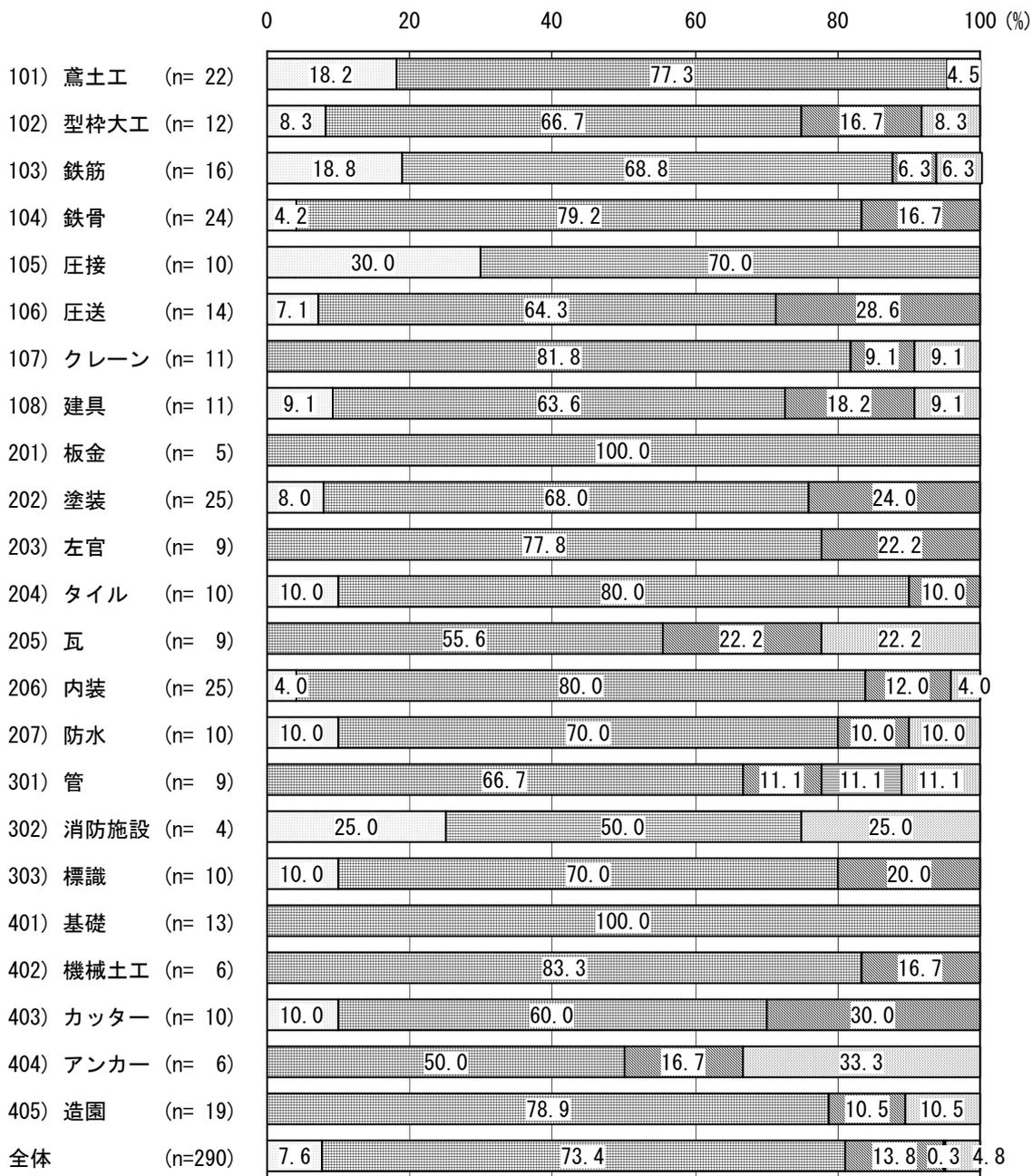


問2 技能労働者の労働生産性についての現状認識（職種別）

問2 貴社の技能労働者の現状の労働生産性について、最も近い考えはどれですか。（○は1つ）

1. 労働生産性は十分に高く、これ以上高くすることは困難である
2. 労働生産性は低くはないと思うが、さらに高める余地はある
3. 労働生産性が低いので、高める努力が必要である
4. その他

資料図 1-3 技能労働者の労働生産性についての現状認識（職種別）



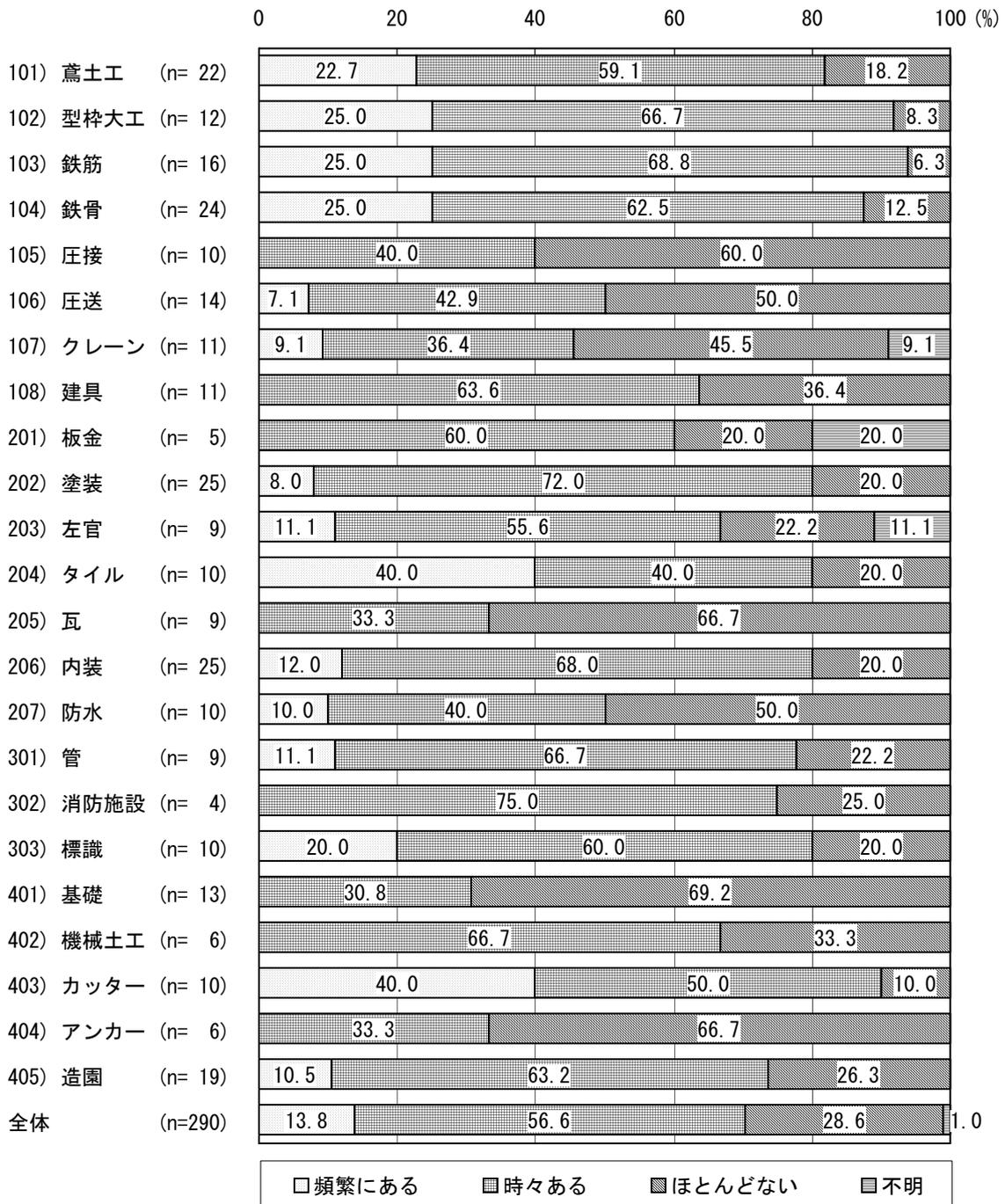
労働生産性は十分に高く、これ以上高くすることは困難である
 労働生産性は低くはないと思うが、さらに高める余地はある
 労働生産性が低いので、高める努力が必要である
 その他
 不明

問3 工事請負契約上の問題の発生頻度（職種別）

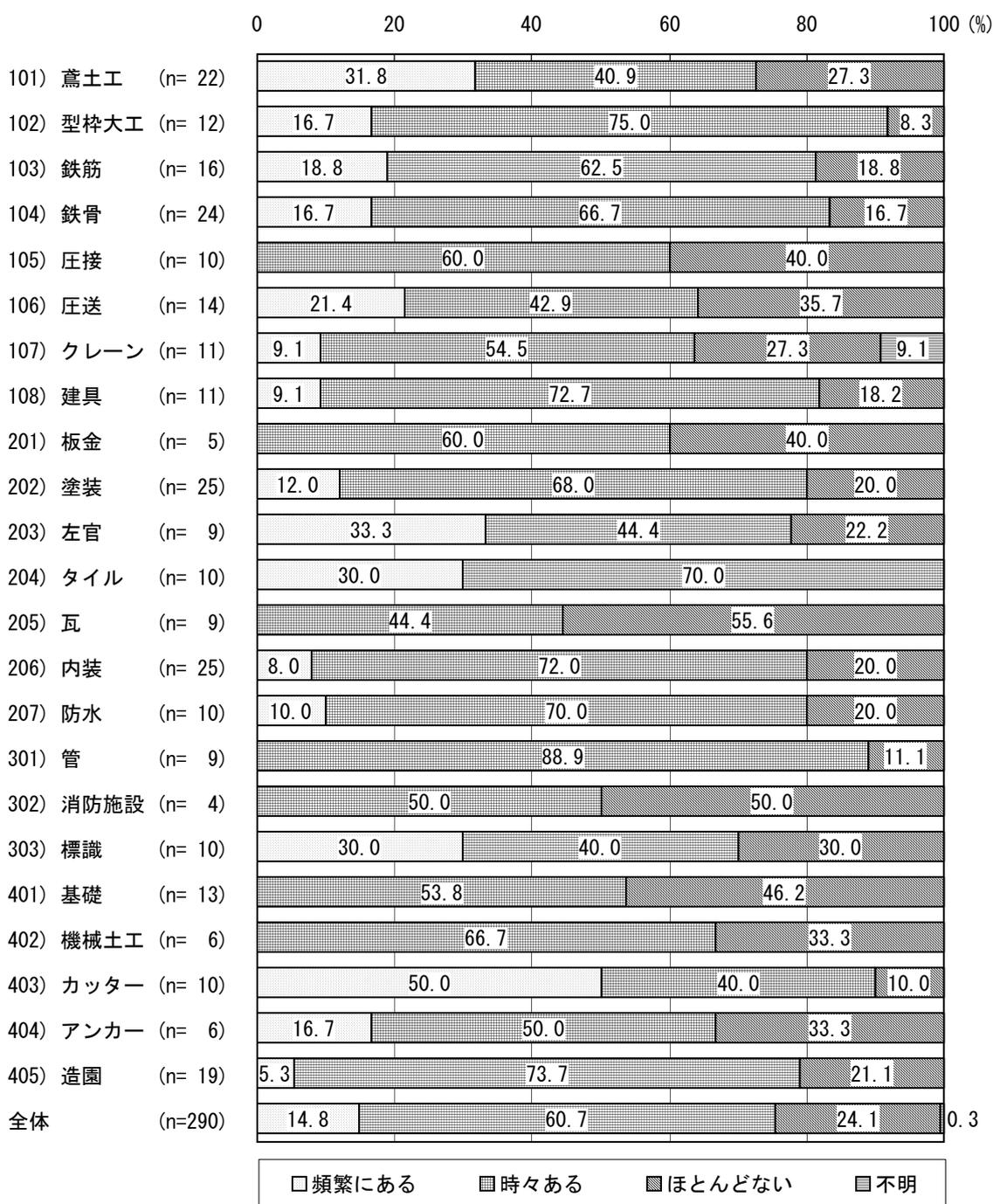
問3 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。（それぞれ○は1つ）

- ①工事対象物（図面等）が不明確
- ②施工条件・範囲（見積条件）が不明確
- ③追加変更処理がなされない

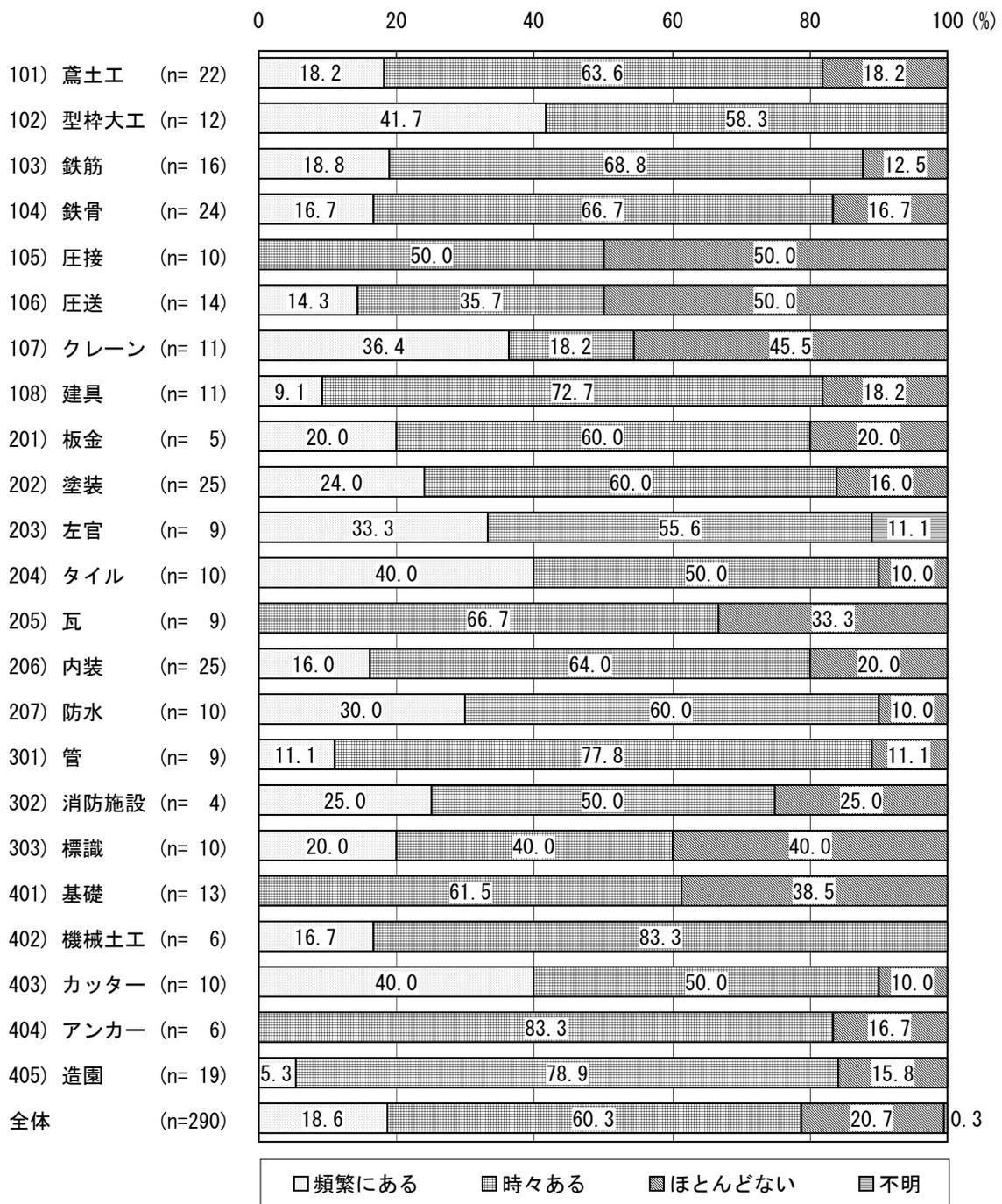
資料図 1-4-1 問題①「工事対象物（図面等）が不明確」の発生頻度（職種別）



資料図 1-4-2 問題②「施工条件・範囲（見積条件）が不明確」の発生頻度（職種別）



資料図 1-4-3 問題③「追加変更処理がなされない」の発生頻度（職種別）

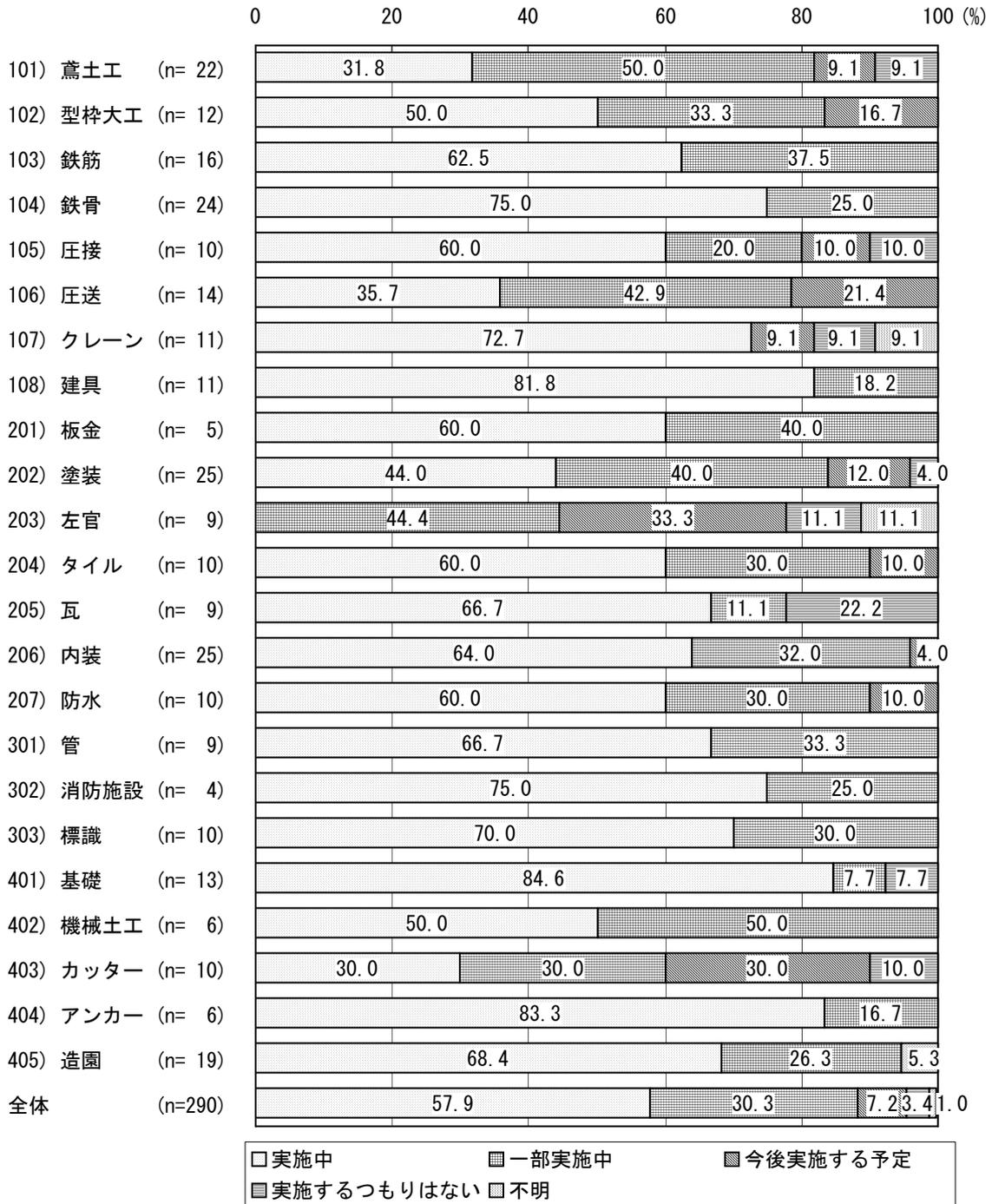


問4 工事請負契約上の問題対策の実施状況（職種別）

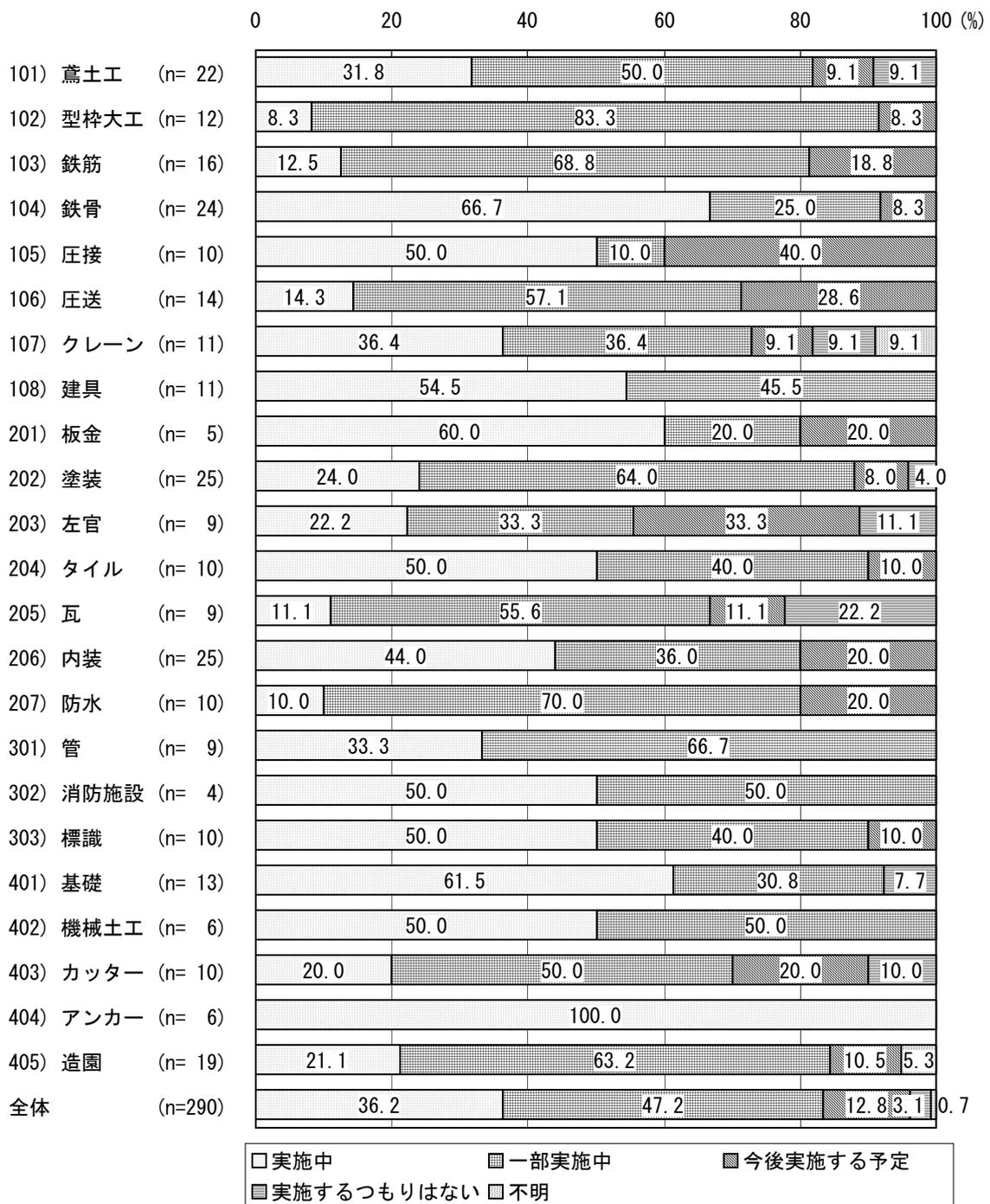
問4 貴社は、問3の対策として、以下の取組みを実施していますか。（それぞれ○は1つ）

- ① 図面等の精査と不明点の確認
- ② 詳細な施工条件・範囲の文書化
- ③ 契約内容に関する注文者との協議
- ④ 追加変更時の処理方法の事前取決め

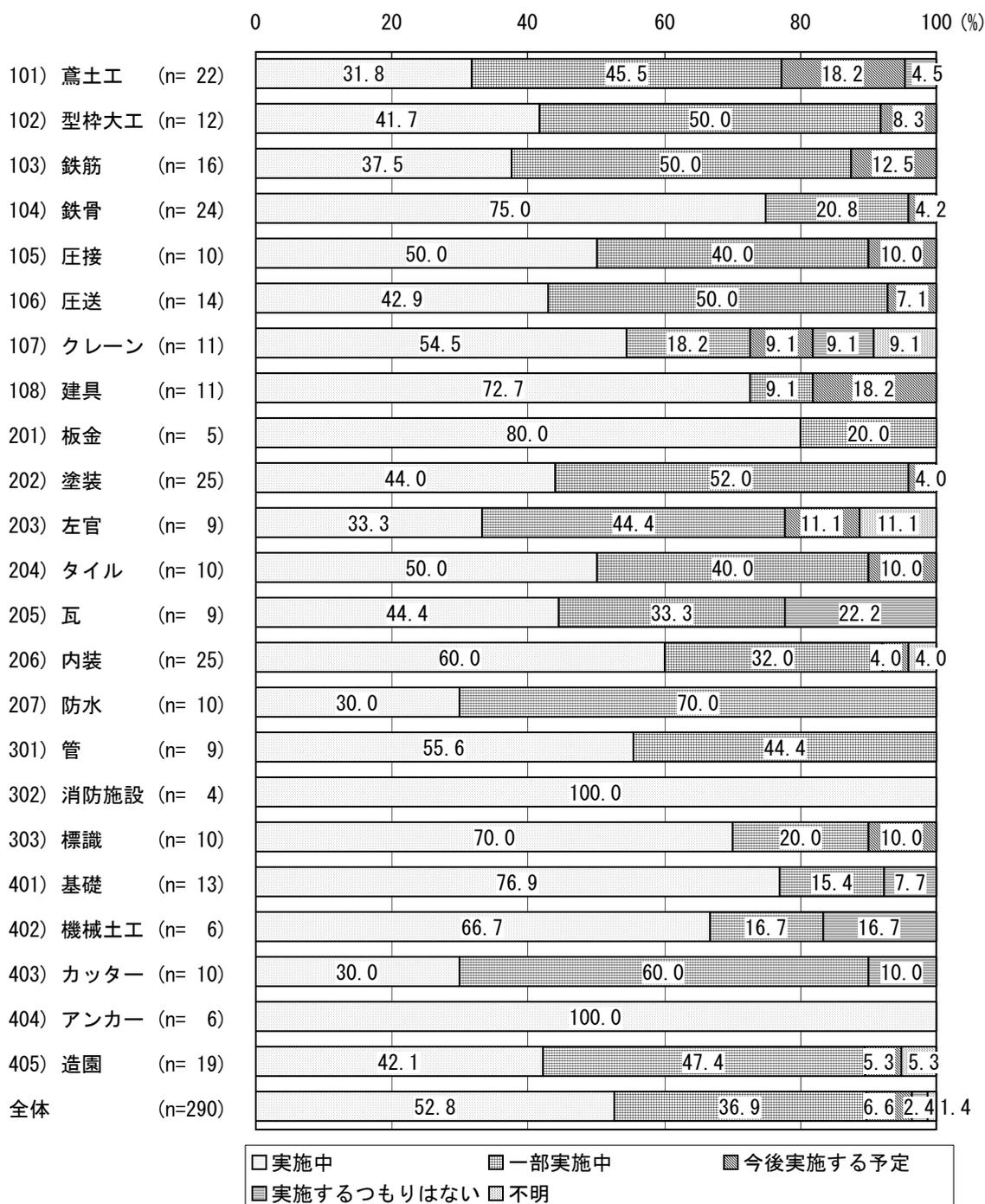
資料図 1-5-1 対策①「図面等の精査と不明点の確認」の実施状況（職種別）



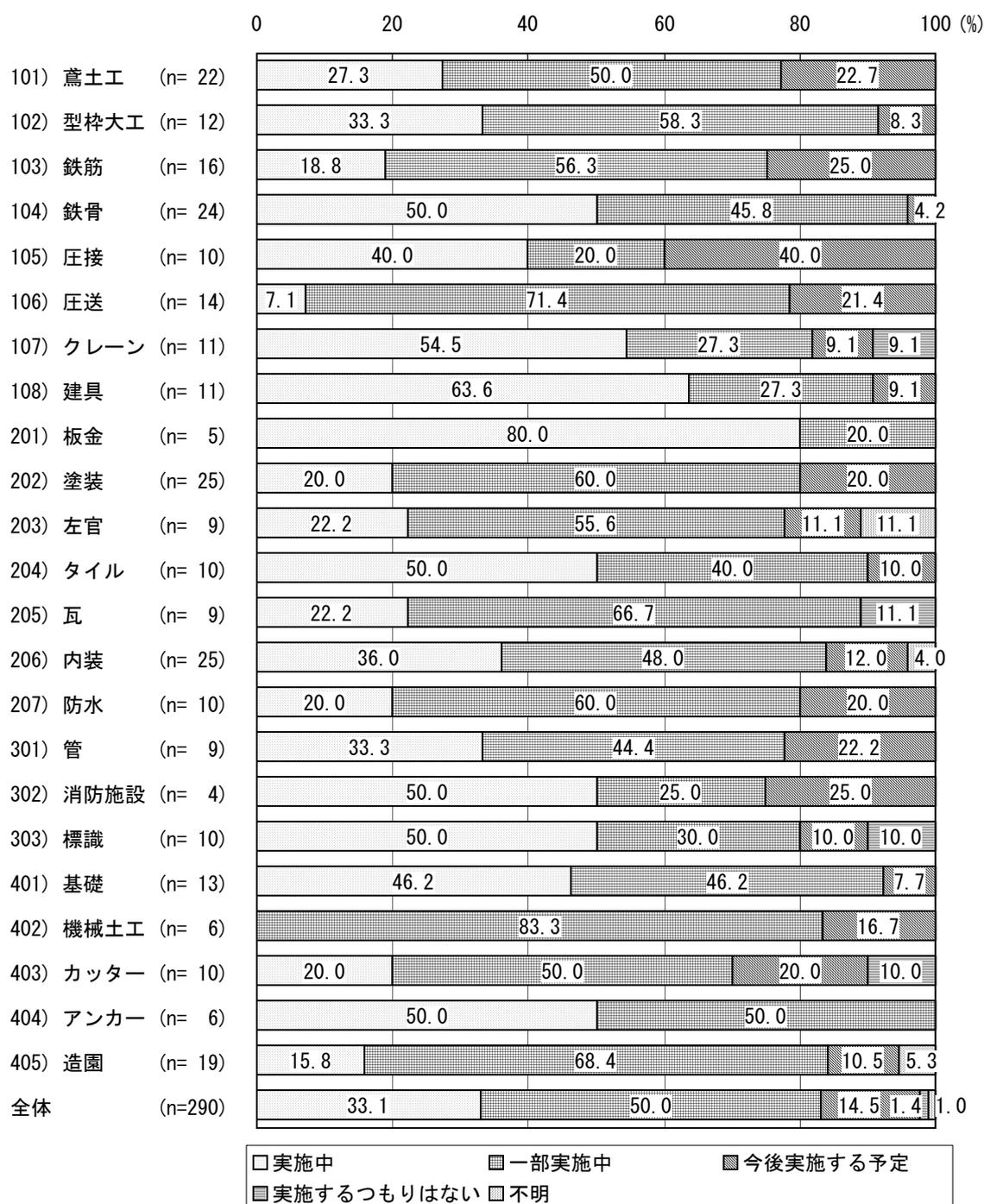
資料図 1-5-2 対策②「詳細な施工条件・範囲の文書化」の実施状況（職種別）



資料図 1-5-3 対策③「契約内容に関する注文者との協議」の実施状況（職種別）



資料図 1-5-4 対策④「追加変更時の処理方法の事前取決め」の実施状況（職種別）

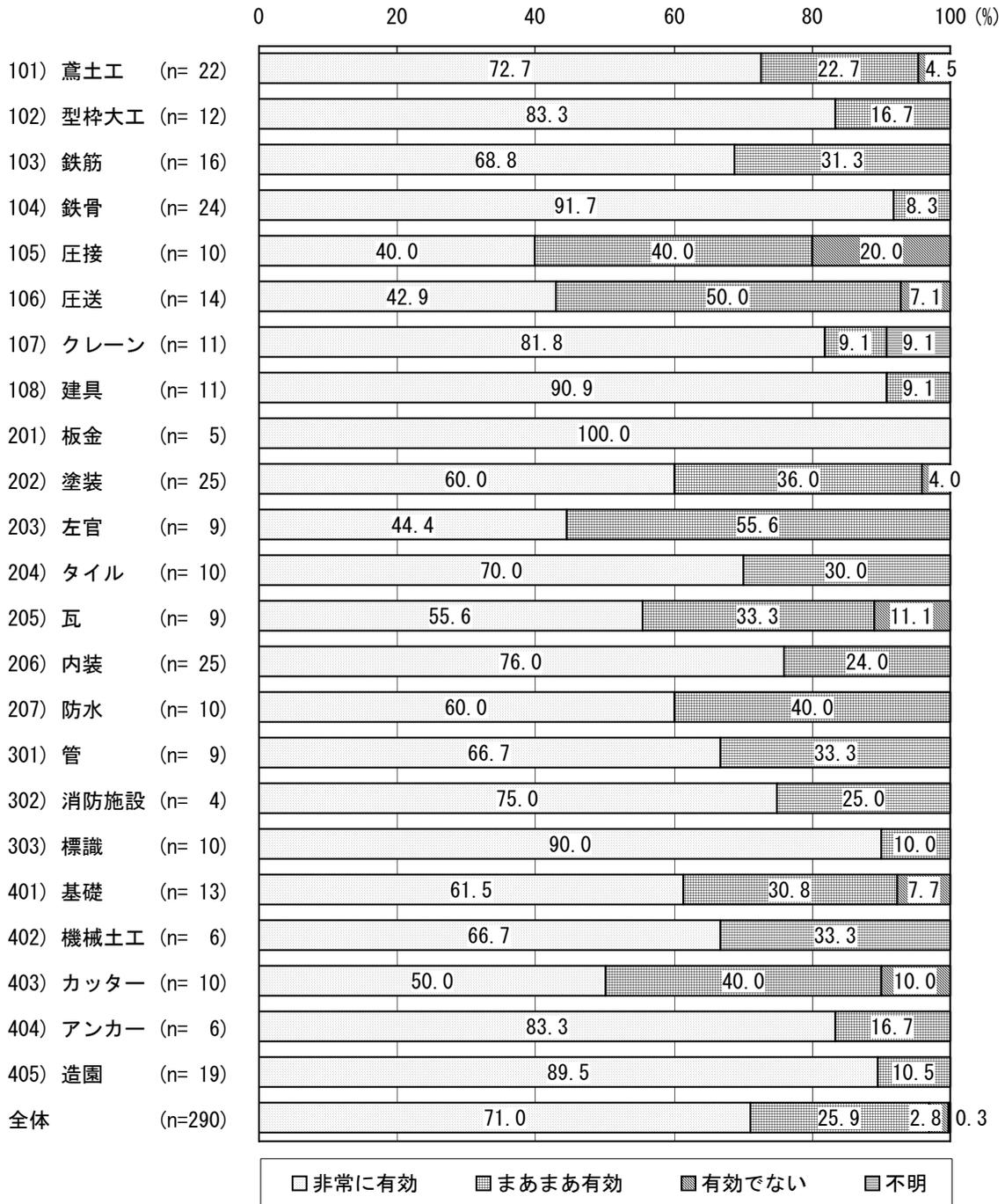


問5 工事請負契約上の問題対策の有効性（職種別）

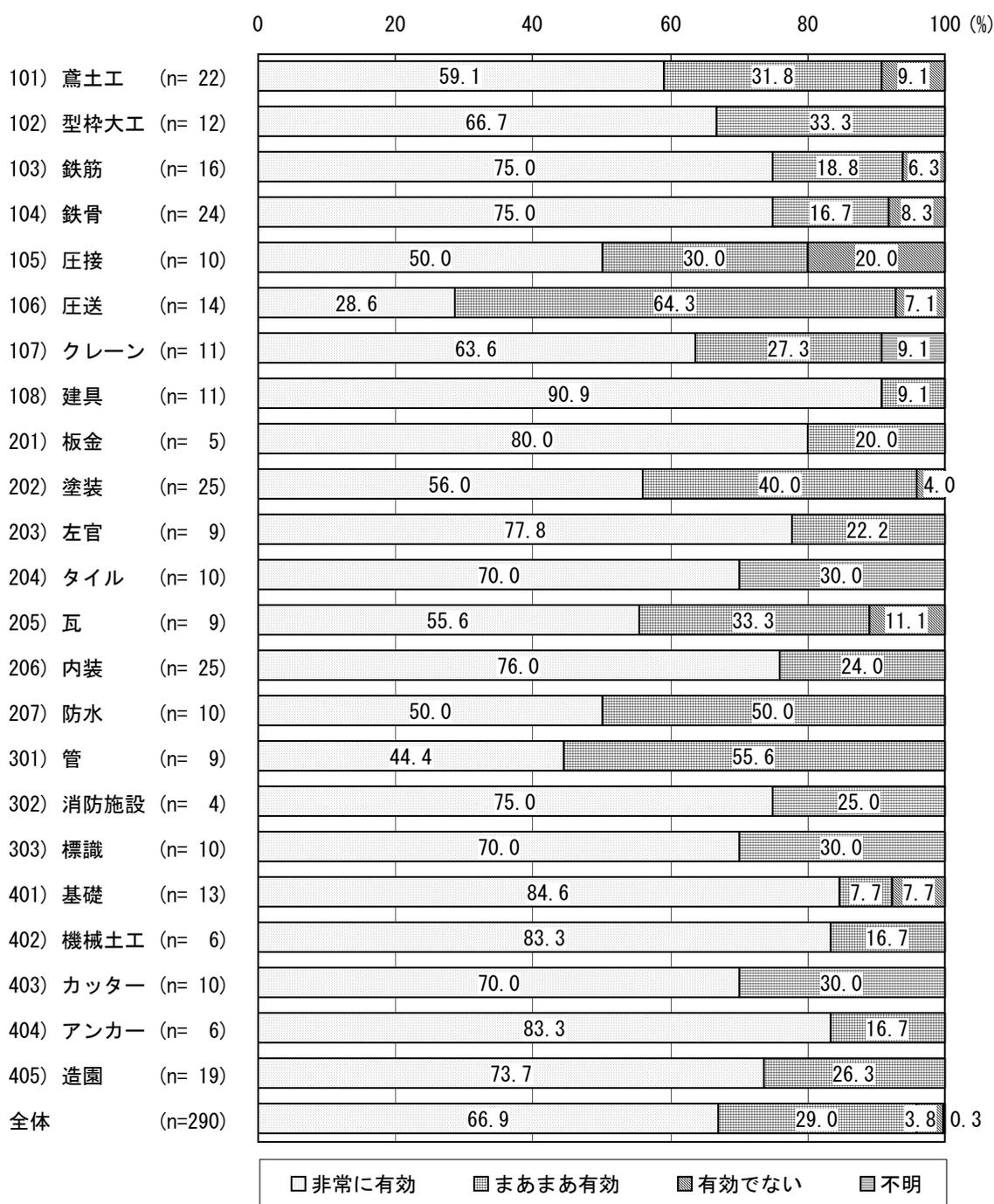
問5 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。（それぞれ○は1つ）

- ①図面等の精査と不明点の確認
- ②詳細な施工条件・範囲の文書化
- ③契約内容に関する注文者との協議
- ④追加変更時の処理方法の事前取決め

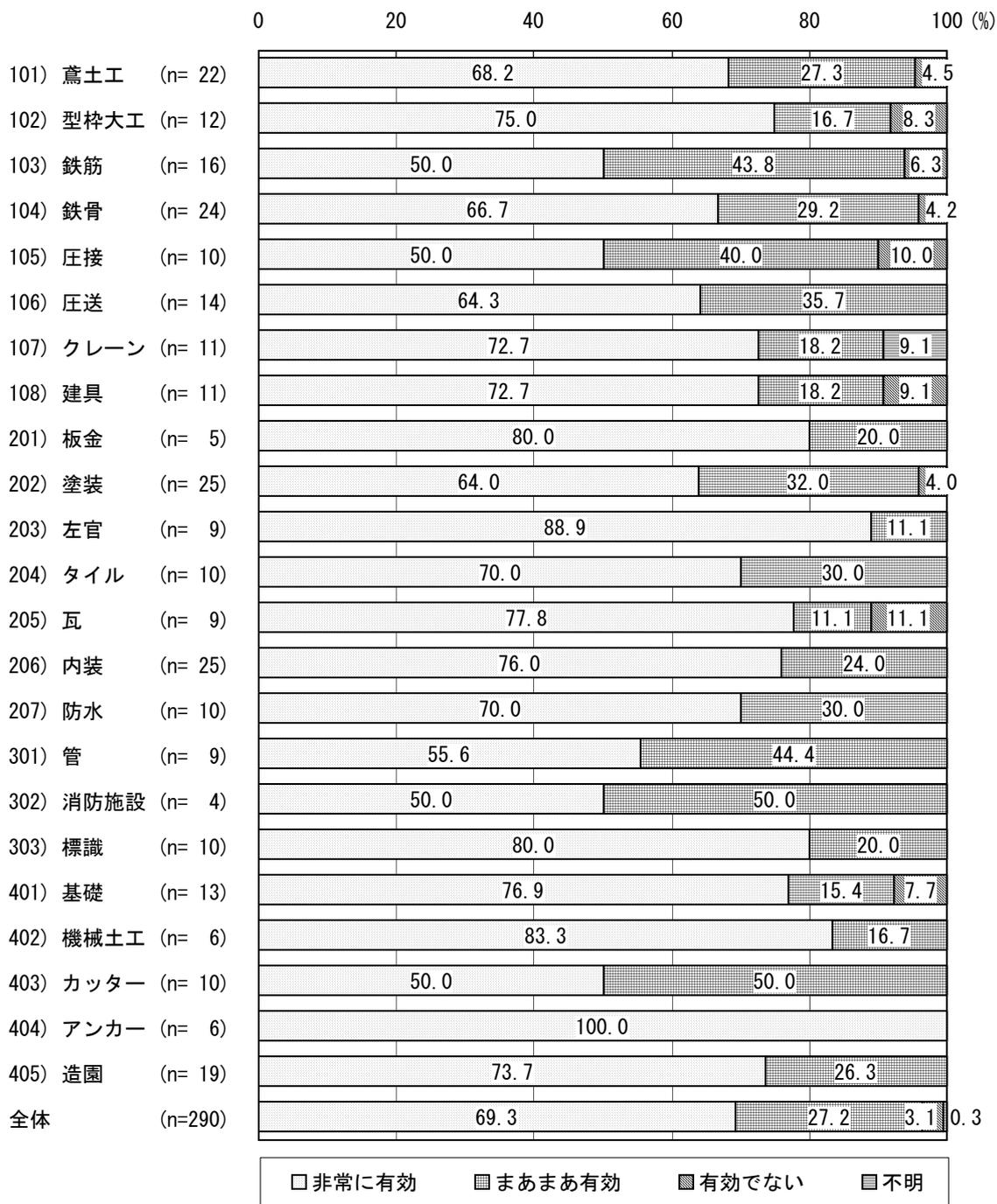
資料図 1-6-1 対策①「図面等の精査と不明点の確認」の有効性（職種別）



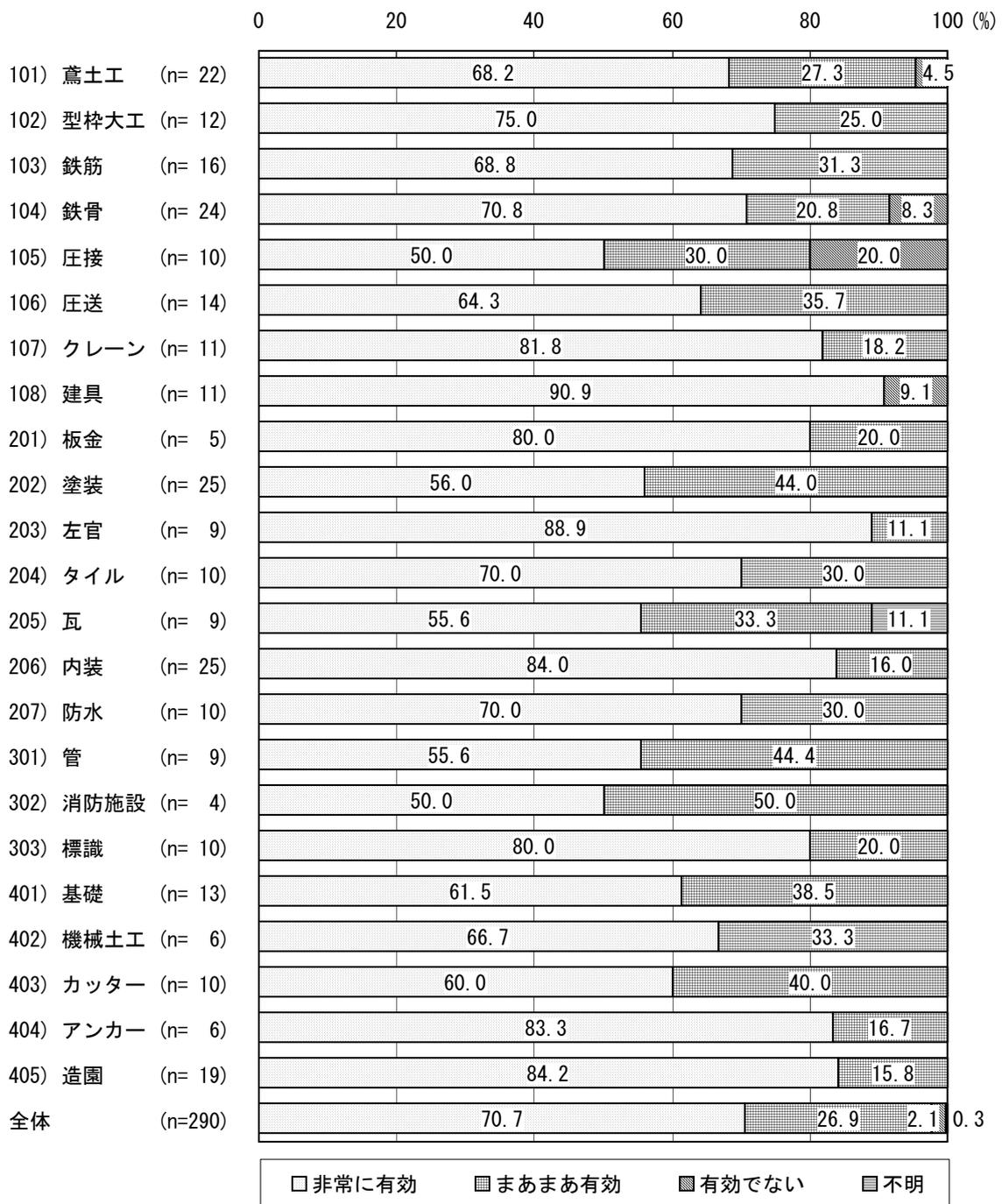
資料図 1-6-2 対策②「詳細な施工条件・範囲の文書化」の有効性（職種別）



資料図 1-6-3 対策③「契約内容に関する注文者との協議」の有効性（職種別）



資料図 1-6-4 対策④「追加変更時の処理方法の事前取決め」の有効性（職種別）

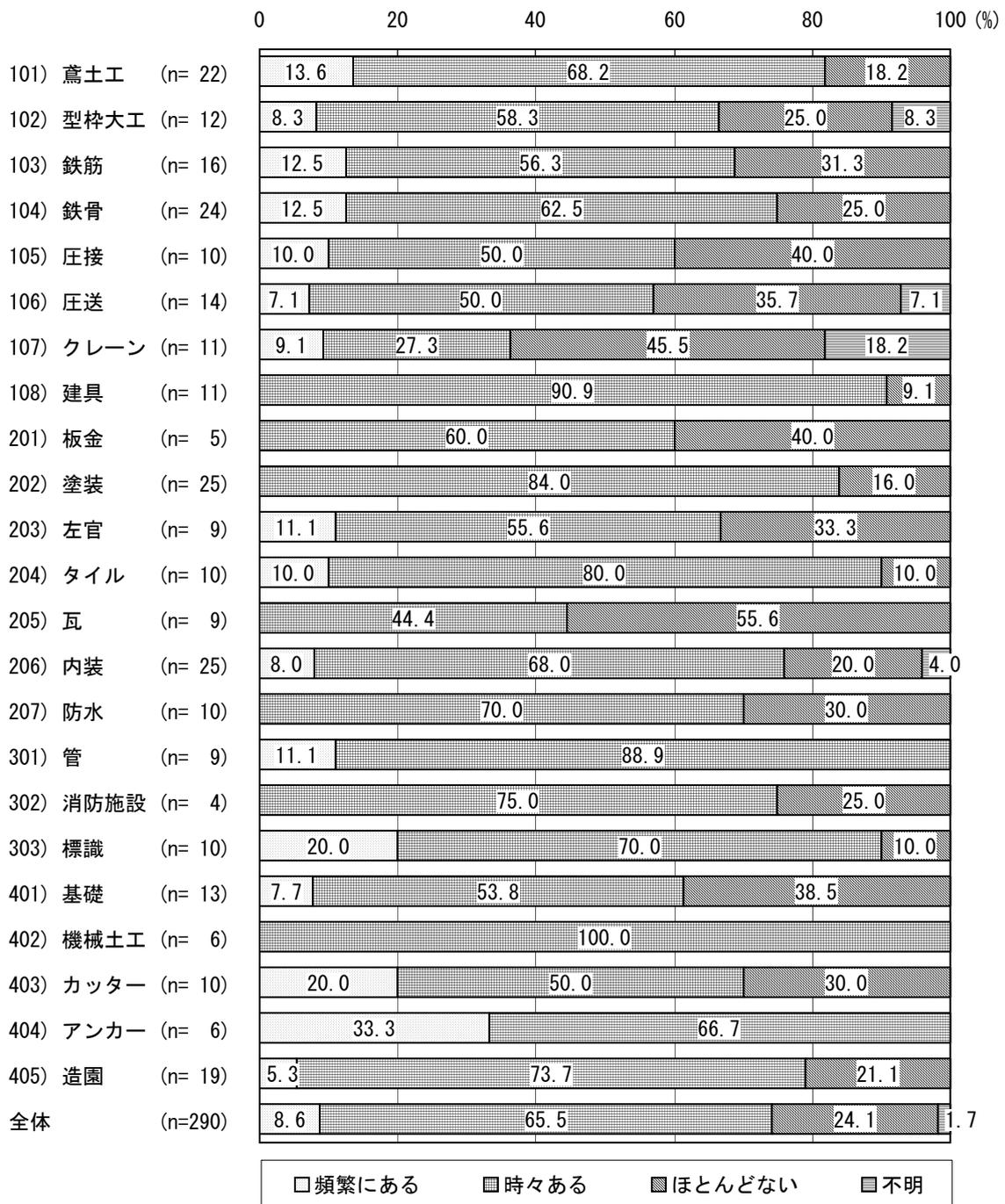


問7 工事計画上の問題の発生頻度（職種別）

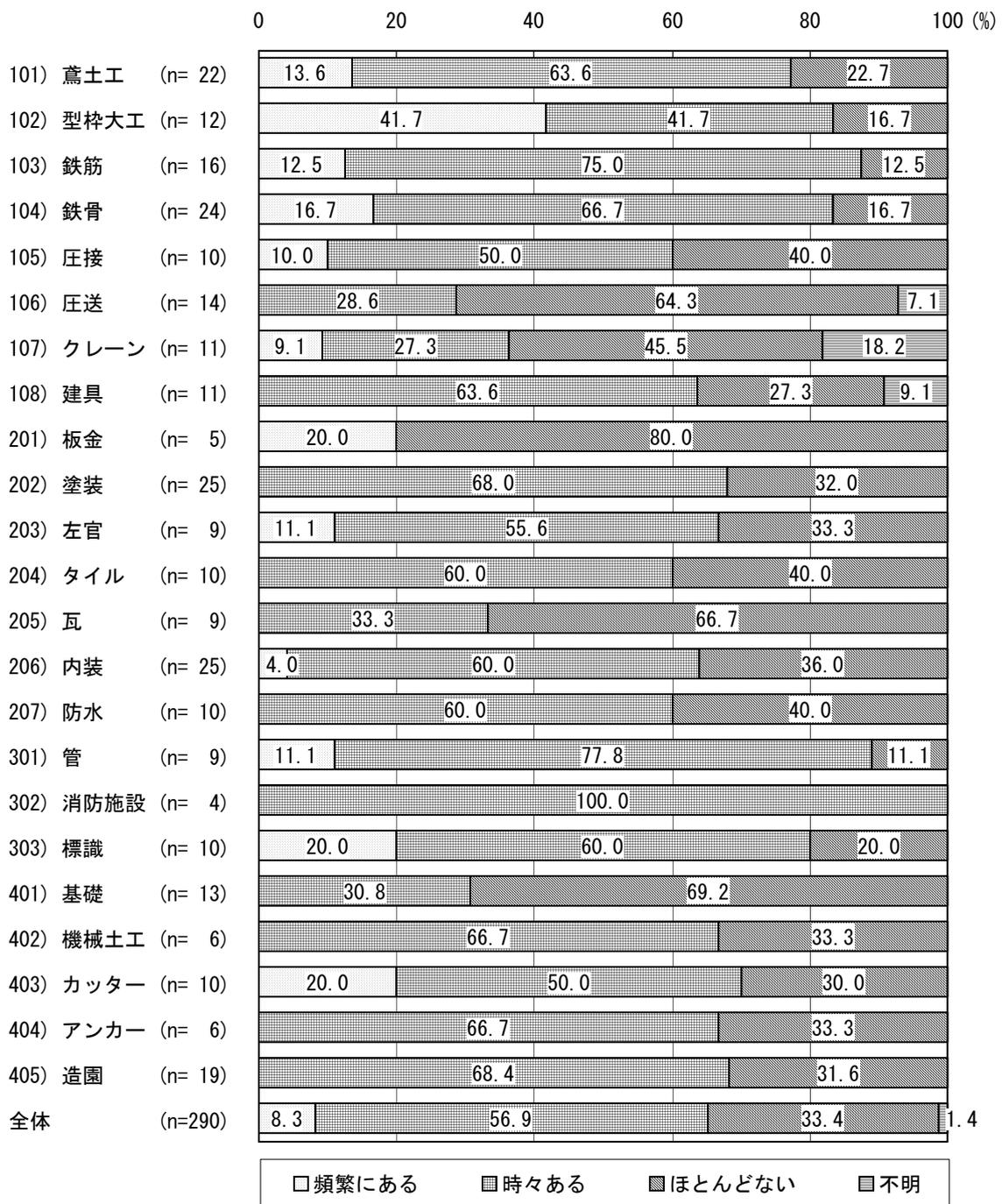
問7 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。（それぞれ○は1つ）

- ①事前調査不足による手待ち・手戻り
- ②図面間違いによる手待ち・手戻り
- ③頻繁な設計変更による手待ち・手戻り
- ④不適切な工程計画による手待ち
- ⑤作業の細分化による効率低下

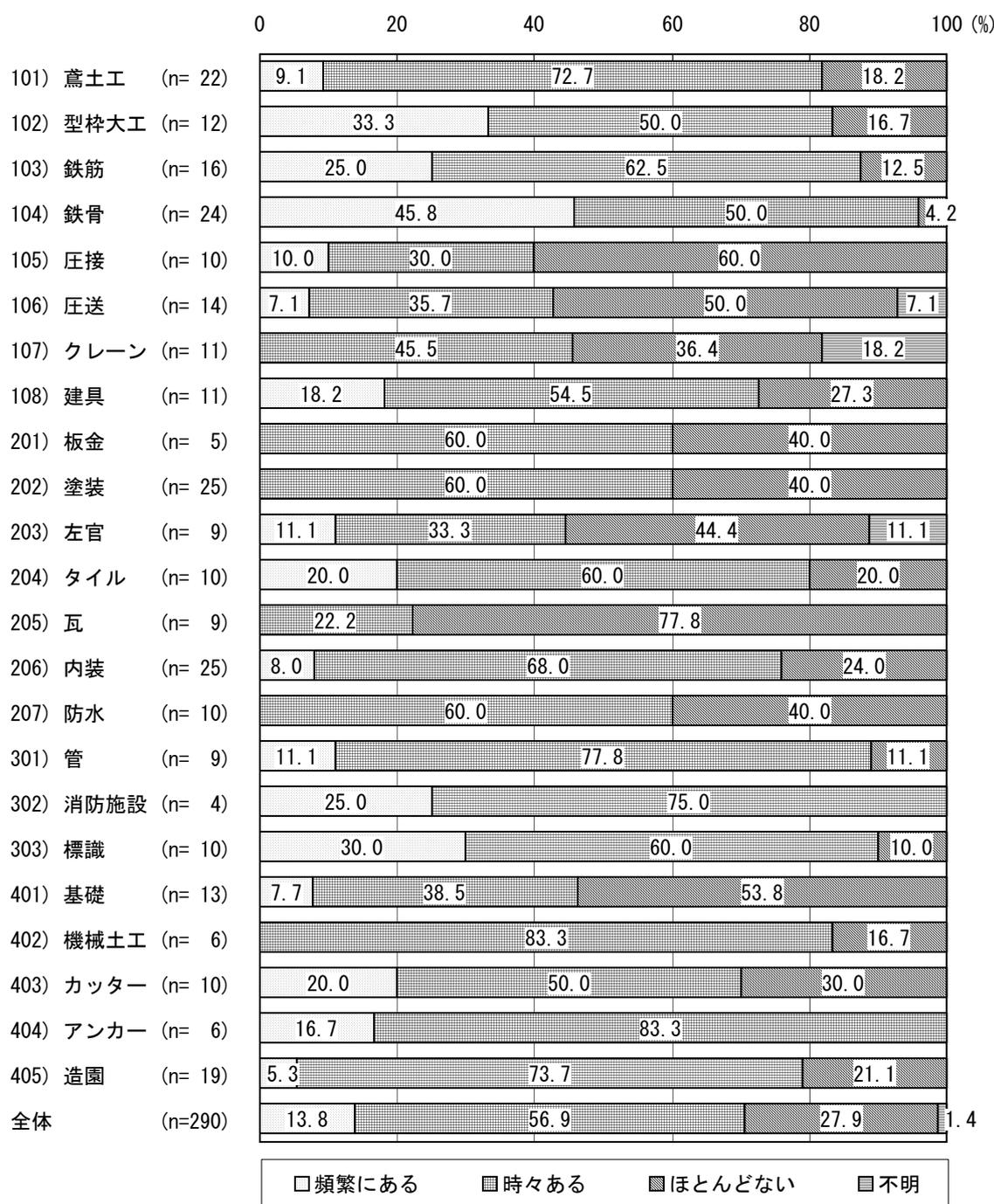
資料図 1-7-1 問題①「事前調査不足による手待ち・手戻り」の発生頻度（職種別）



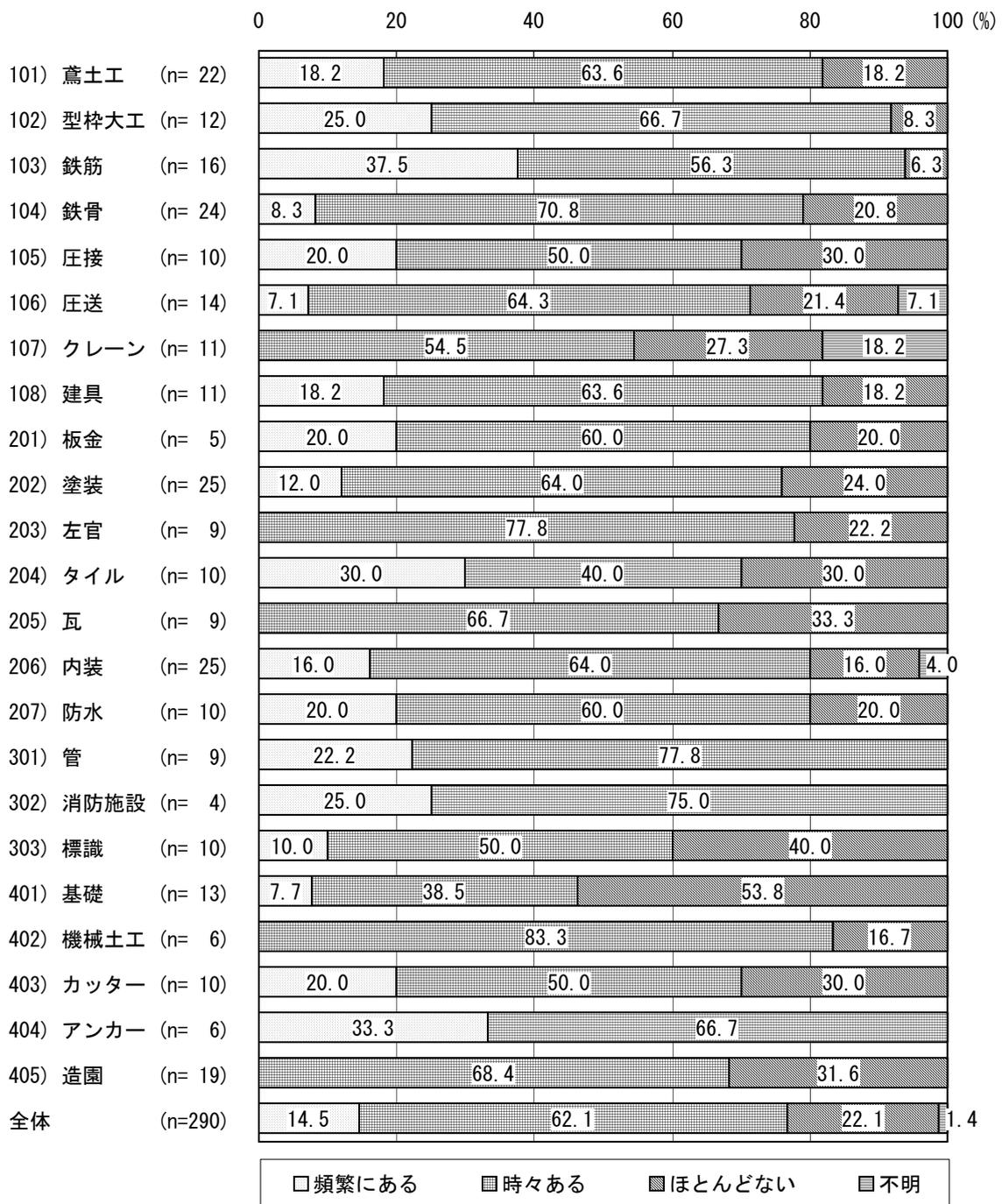
資料図 1-7-2 問題②「図面間違いによる手待ち・手戻り」の発生頻度（職種別）



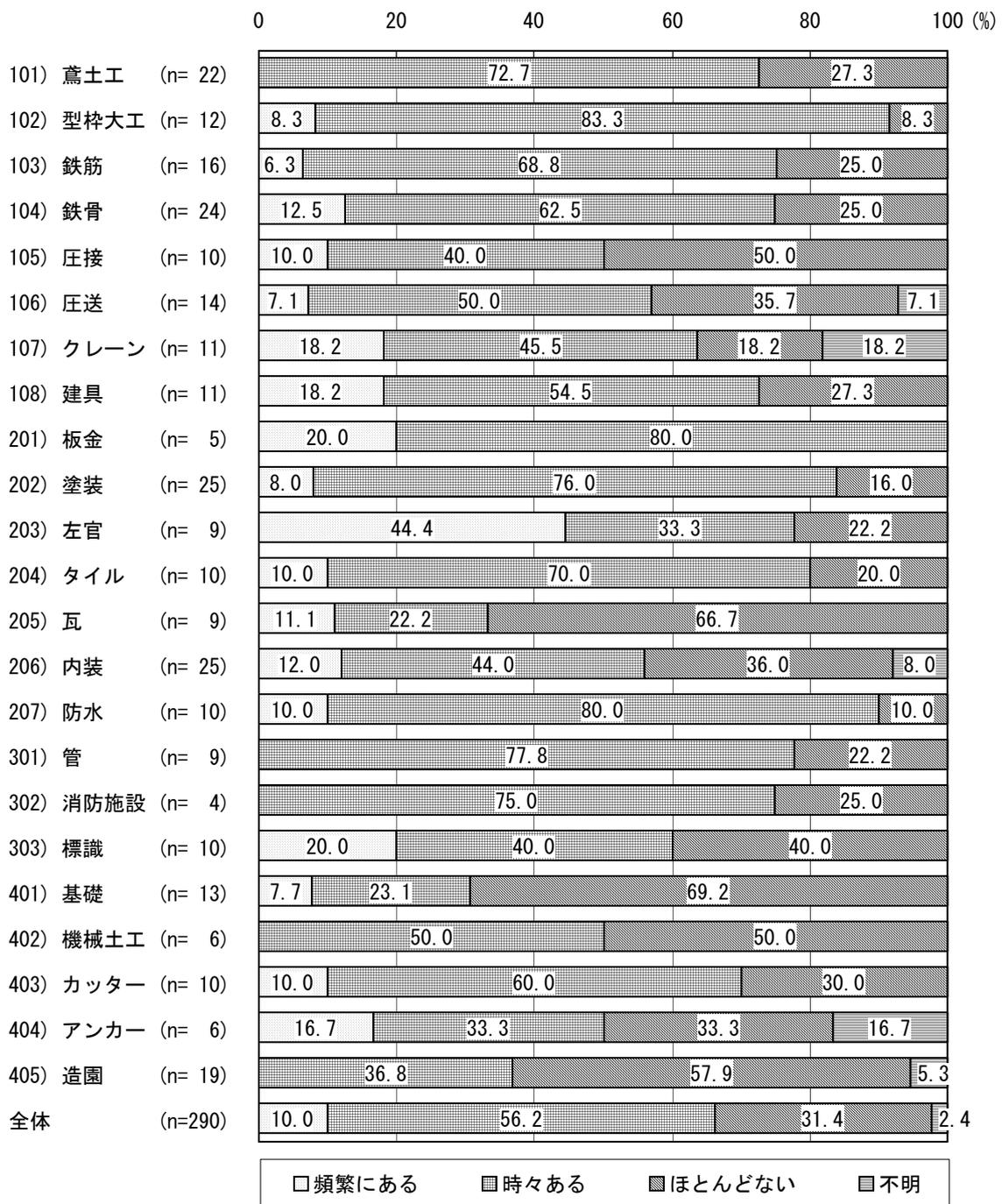
資料図 1-7-3 問題③「頻繁な設計変更による手待ち・手戻り」の発生頻度（職種別）



資料図 1-7-4 問題④「不適切な工程計画による手待ち」の発生頻度（職種別）



資料図 1-7-5 問題⑤「作業の細分化による効率低下」の発生頻度（職種別）

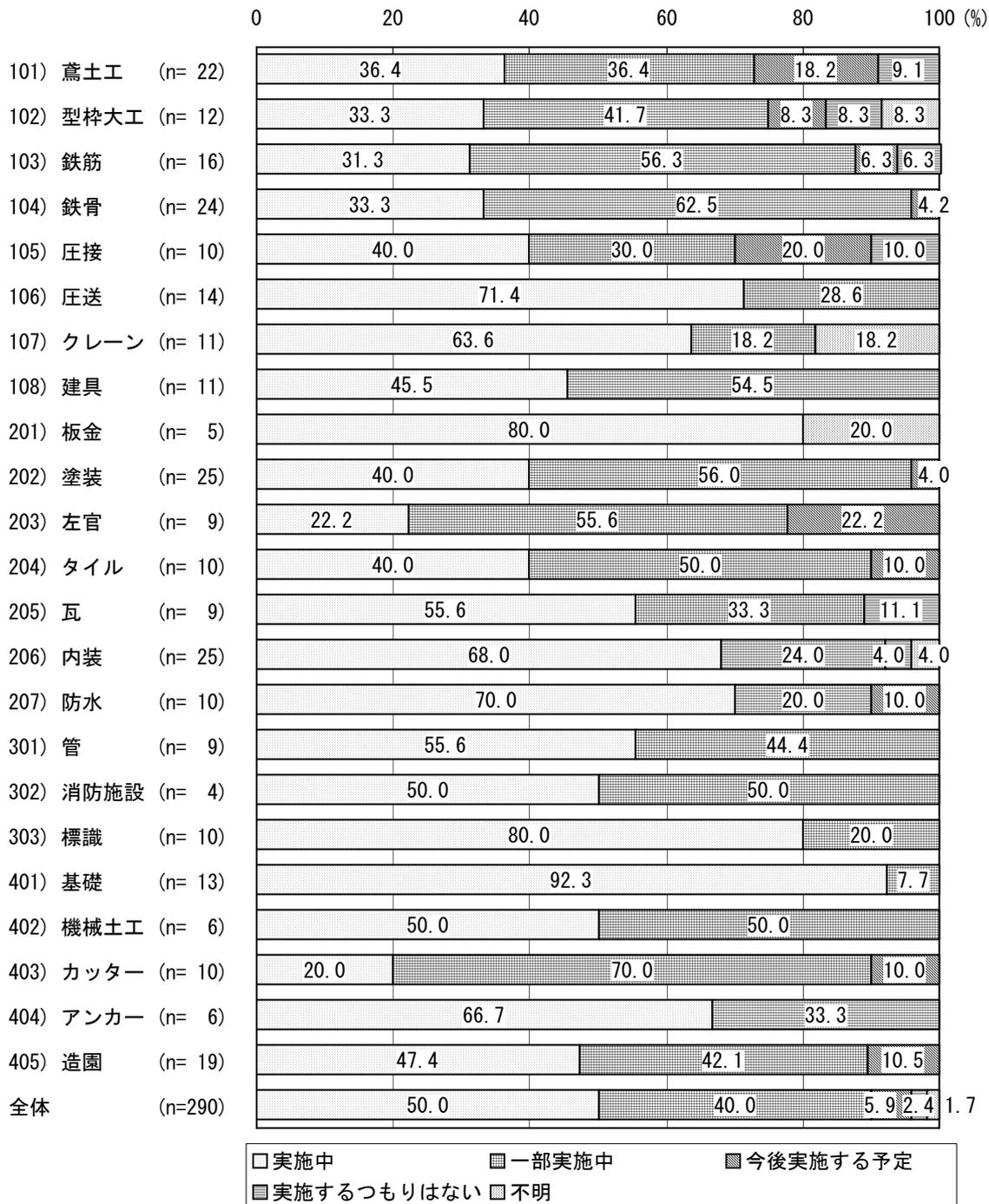


問8 工事計画上の問題対策の実施状況（職種別）

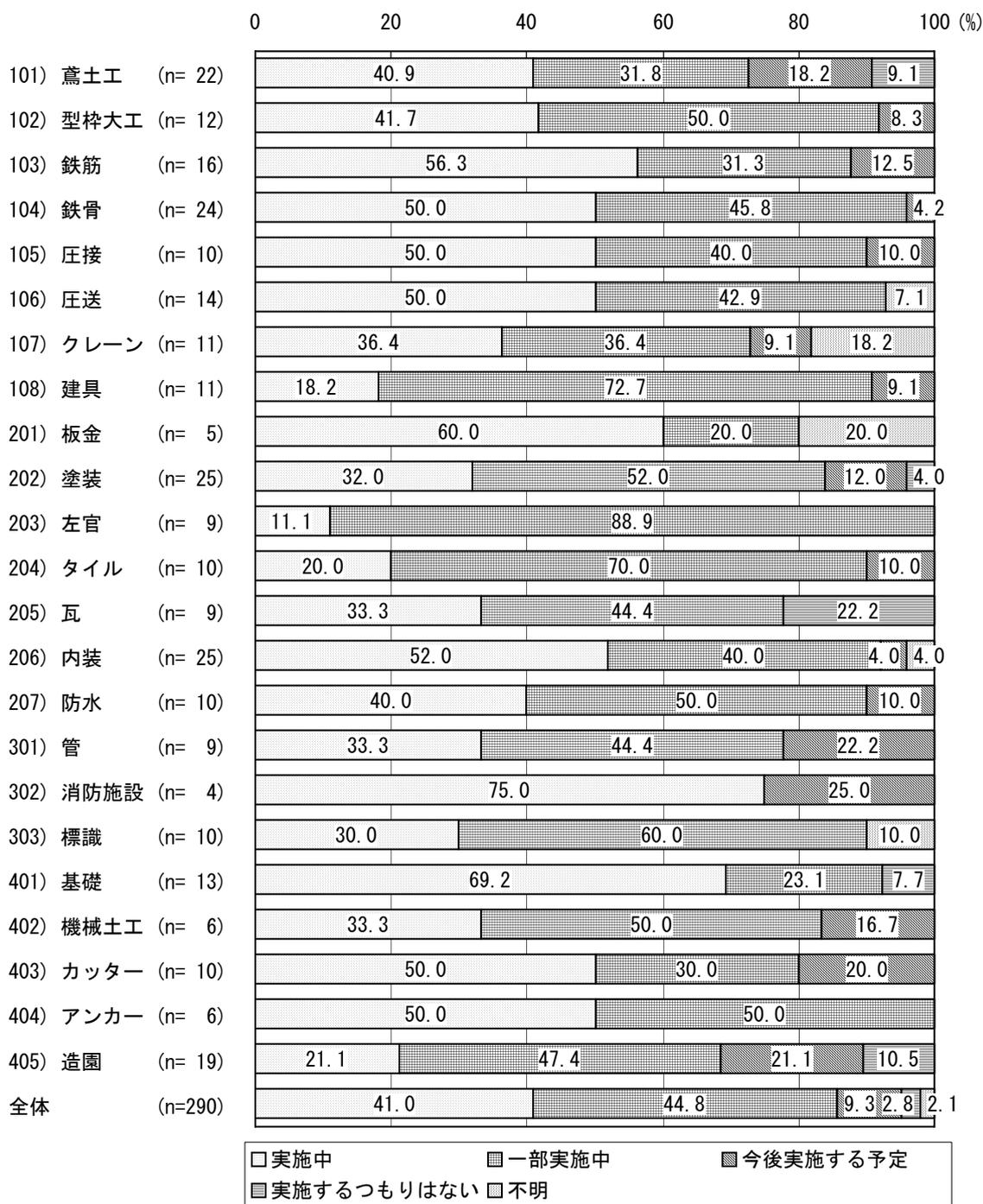
問8 貴社は、問7の対策として、以下の取組みを実施していますか。（それぞれ○は1つ）

- ①事前の現地調査の徹底
- ②元請と下請による施工検討会での工法・手順の改善提案
- ③施工検討会での設計変更提案
- ④発注者、設計者、元請、下請の四者による施工会議等の開催

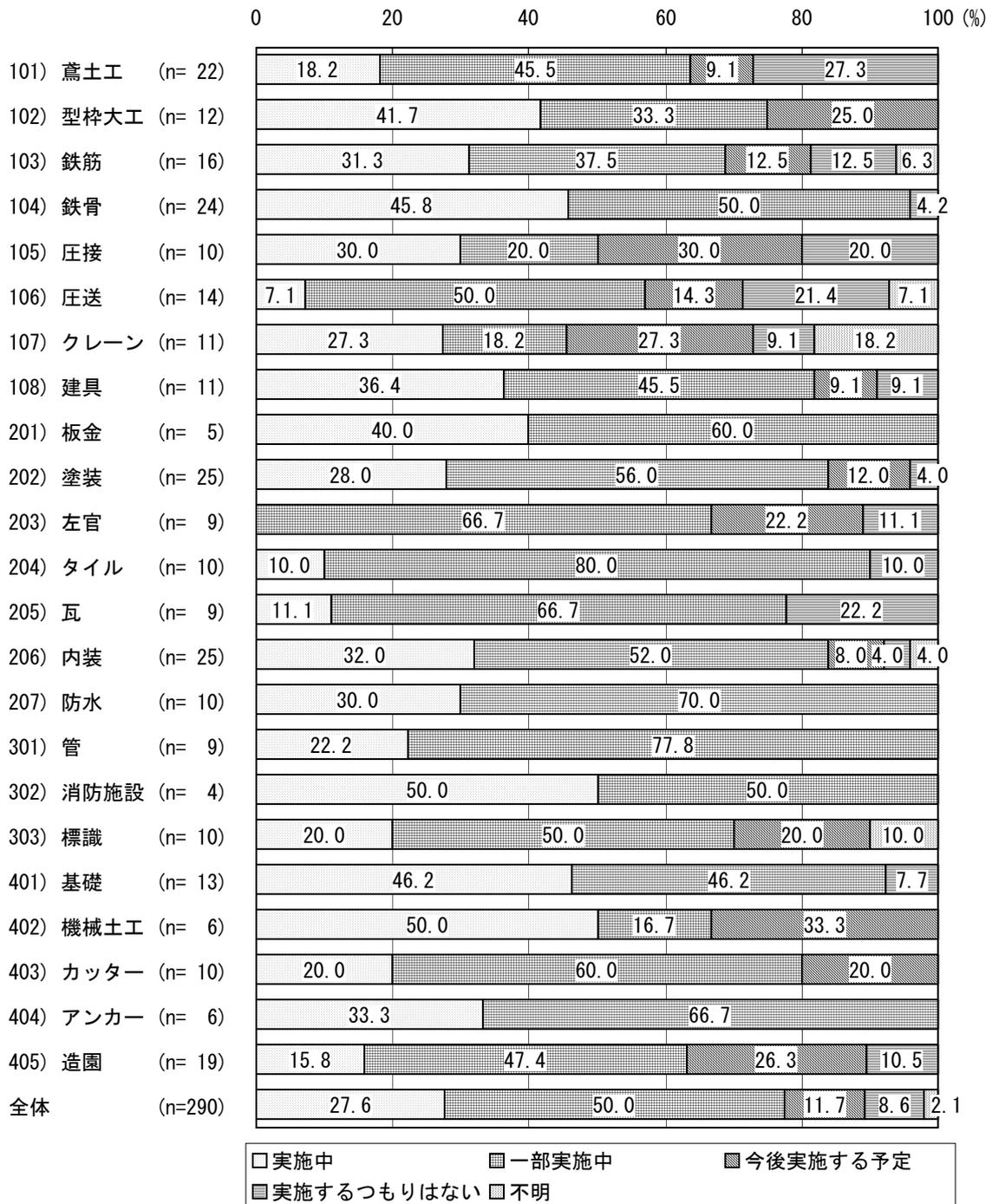
資料図 1-8-1 対策①「事前の現地調査の徹底」の実施状況（職種別）



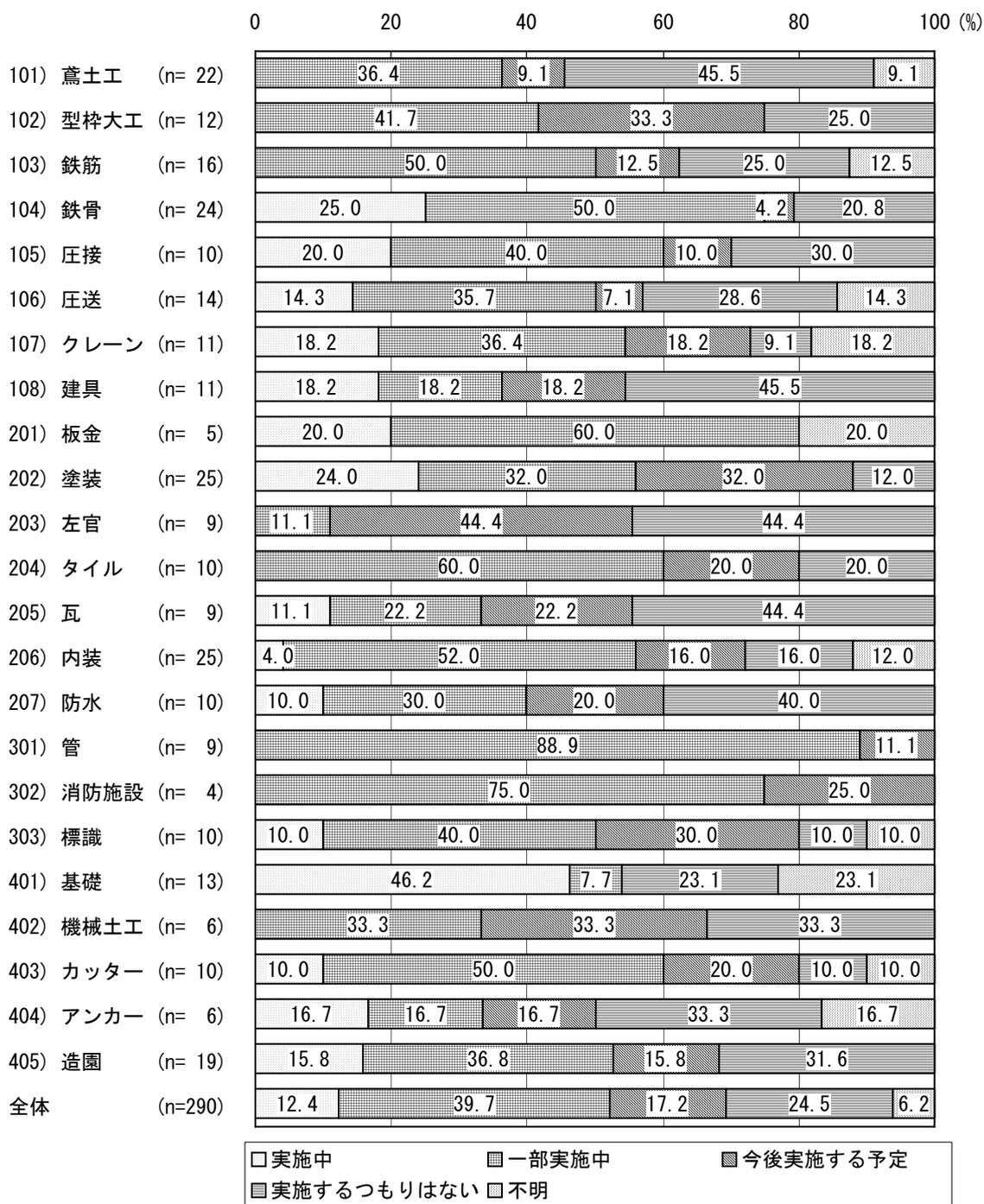
資料図 1-8-2 対策②「元請と下請による施工検討会での工法・手順の改善提案」の実施状況
(職種別)



資料図 1-8-3 対策③「施工検討会での設計変更提案」の実施状況（職種別）



資料図 1-8-4 対策④「発注者、設計者、元請、下請の四者による施工会議等の開催」の実施状況（職種別）

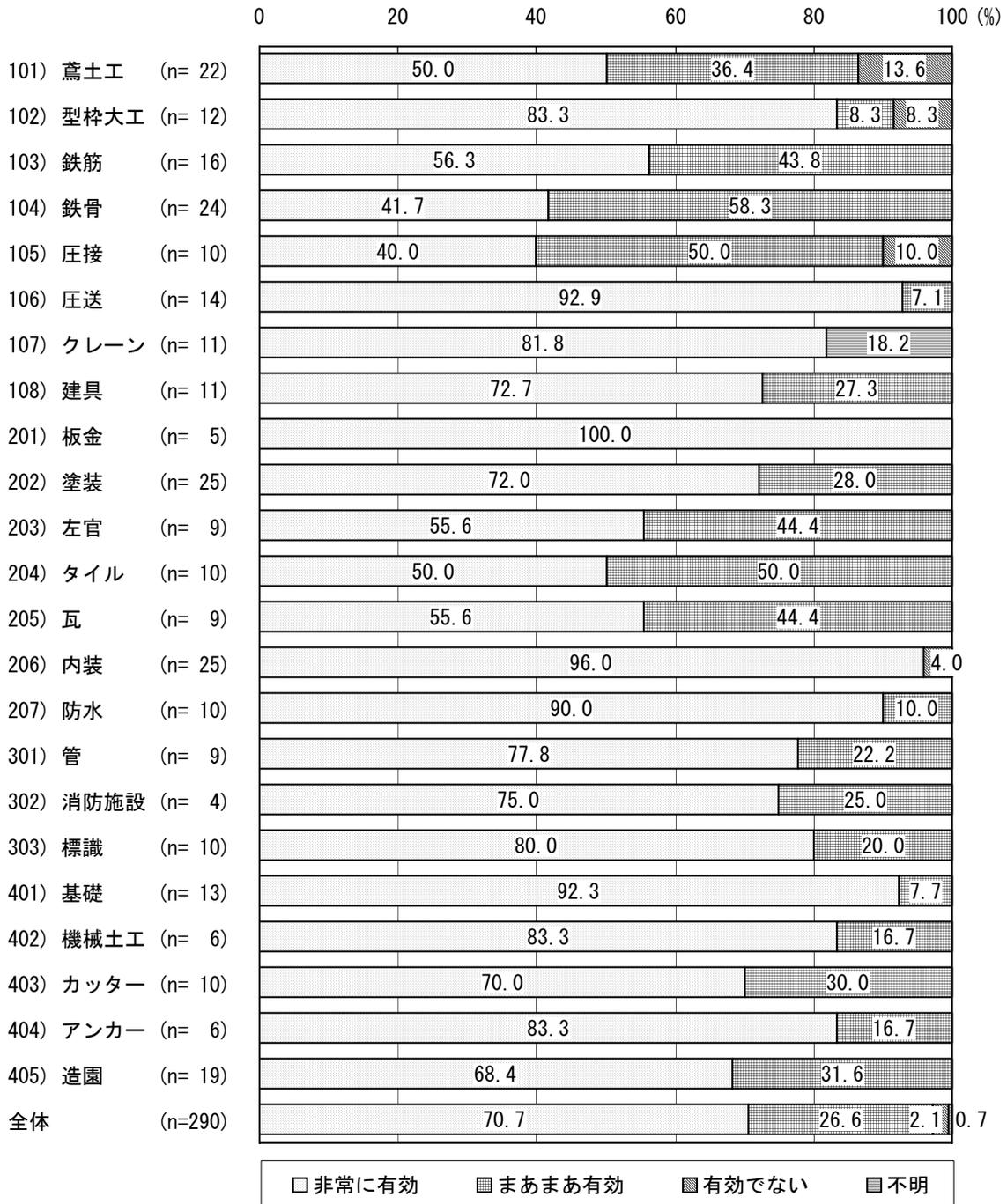


問9 工事計画上の問題対策の有効性（職種別）

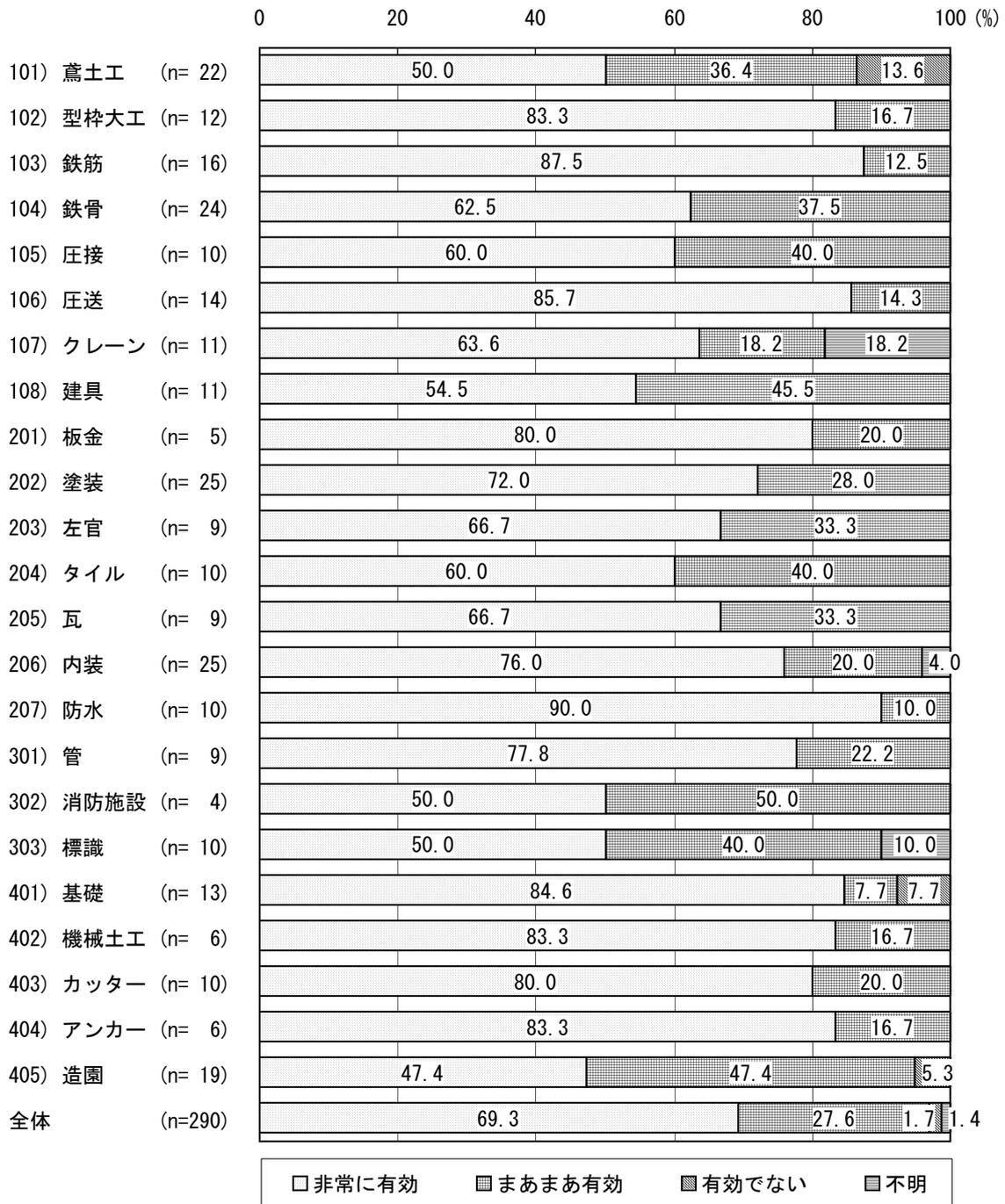
問9 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。（それぞれ○は1つ）

- ①事前の現地調査の徹底
- ②元請と下請による施工検討会での工法・手順の改善提案
- ③施工検討会での設計変更提案
- ④発注者、設計者、元請、下請の四者による施工会議等の開催

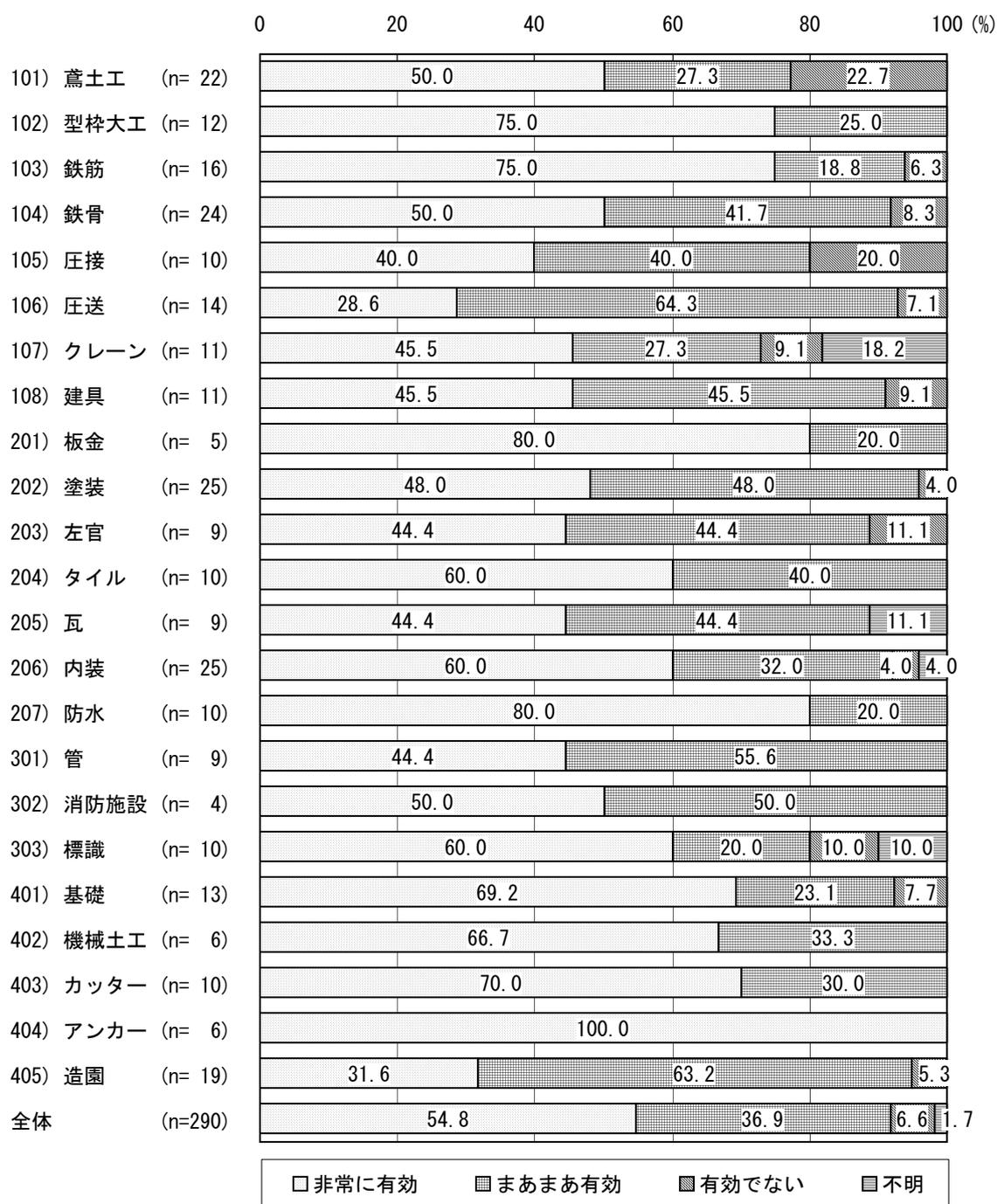
資料図 1-9-1 対策①「事前の現地調査の徹底」の有効性（職種別）



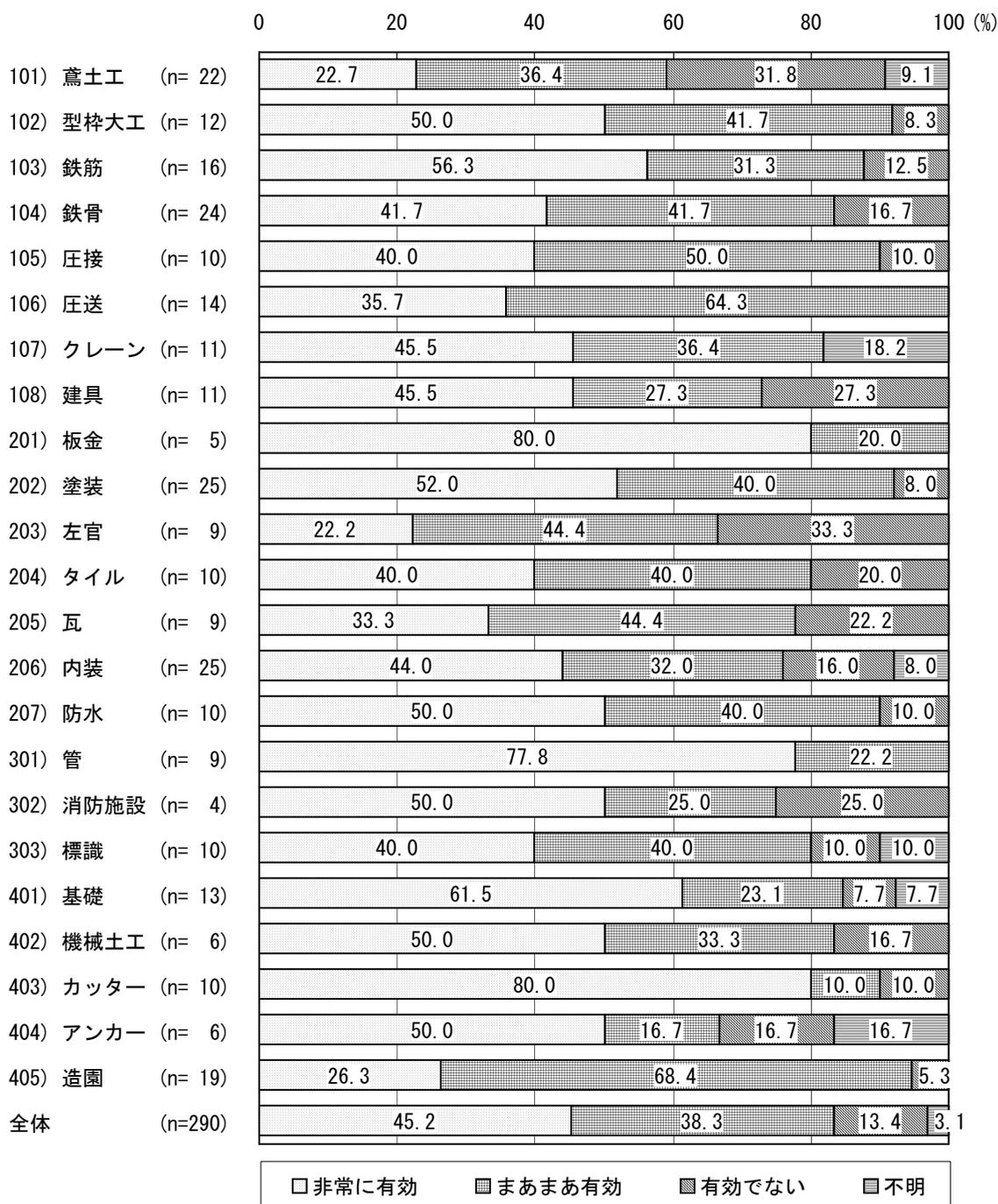
資料図 1-9-2 対策②「元請と下請による施工検討会での工法・手順の改善提案」の有効性
(職種別)



資料図 1-9-3 対策③「施工検討会での設計変更提案」の有効性（職種別）



資料図 1-9-4 対策④「発注者、設計者、元請、下請の四者による施工会議等の開催」の有効性
(職種別)

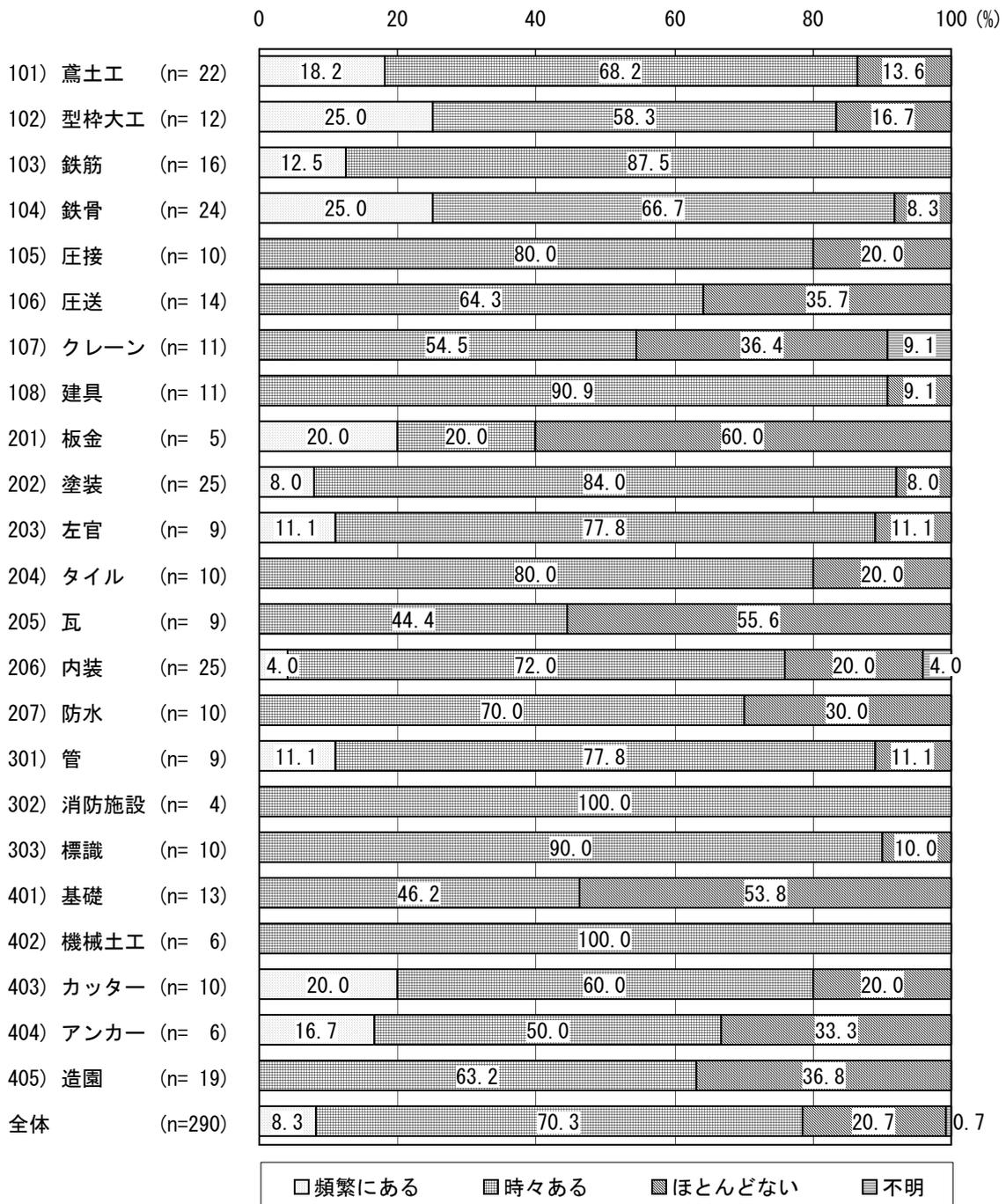


問 1 1 工事管理上の問題の発生頻度（職種別）

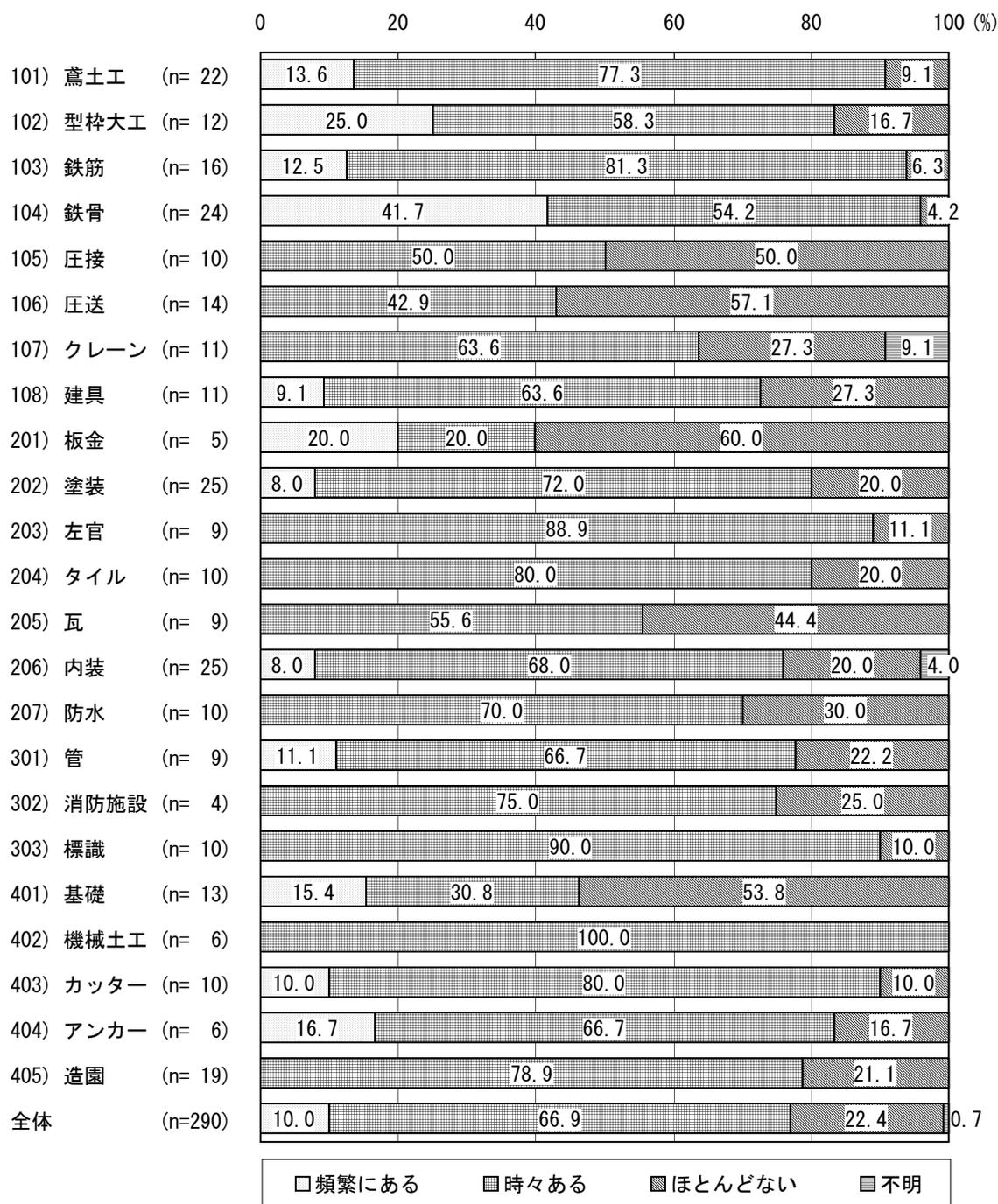
問 1 1 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。（それぞれ○は1つ）

- ①指示間違いによる手待ち・手戻り
- ②指示の遅れによる手待ち
- ③前工程の未完了による手待ち
- ④材料到着の遅れによる手待ち
- ⑤会議等の増大による効率低下
- ⑥提出書類の増大による効率低下

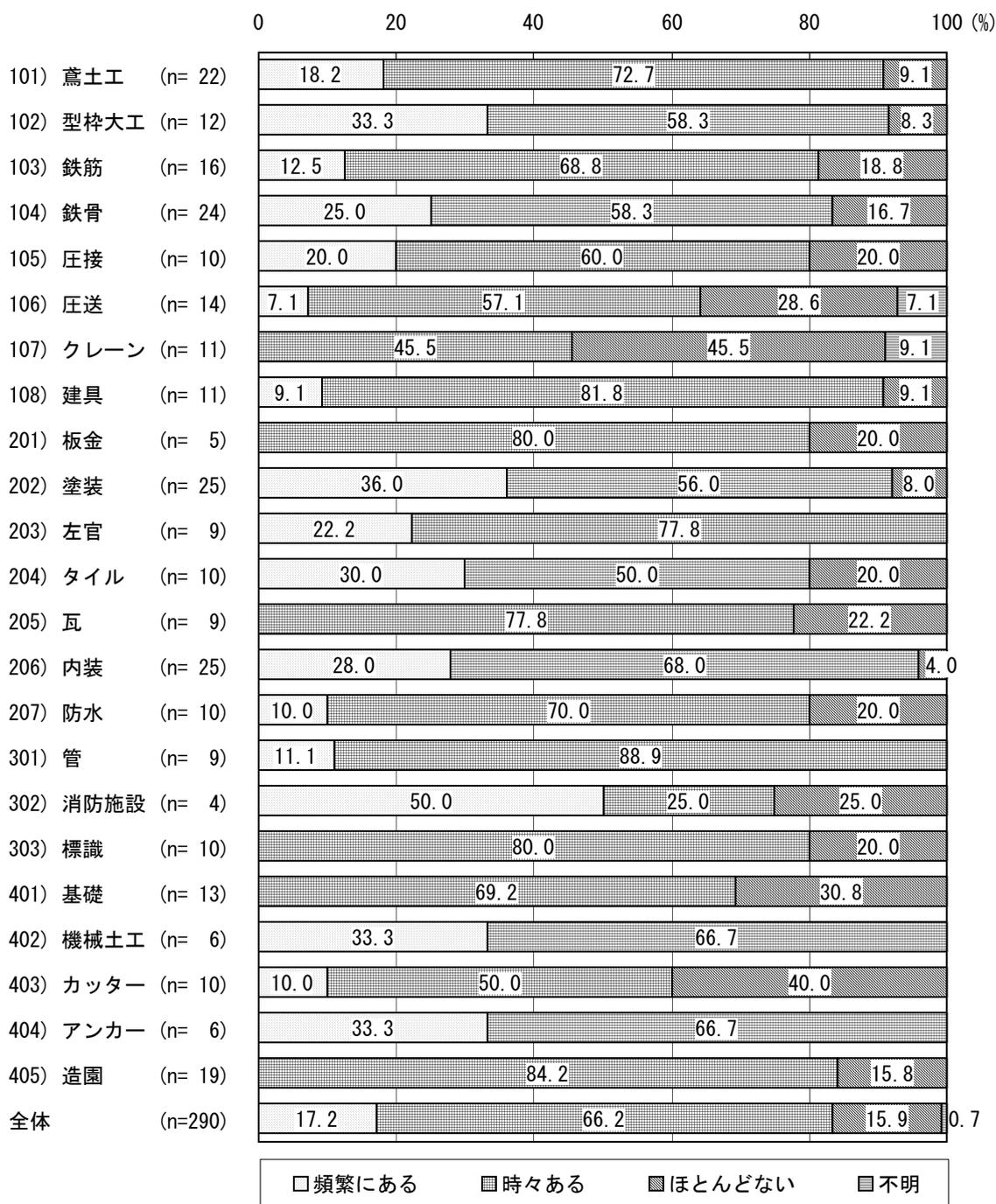
資料図 1-10-1 問題①「指示間違いによる手待ち・手戻り」の発生頻度（職種別）



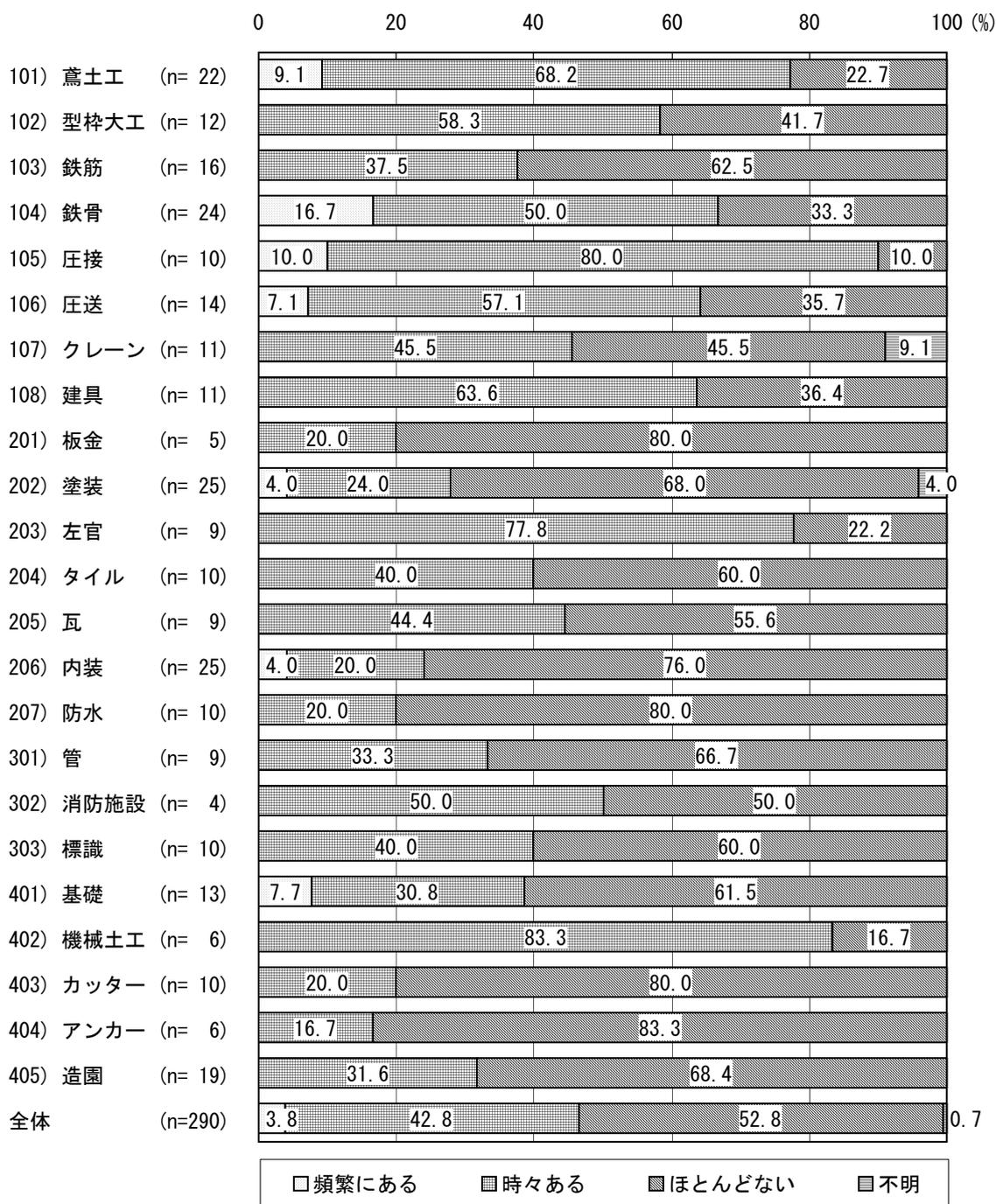
資料図 1-10-2 問題②「指示の遅れによる手待ち」の発生頻度（職種別）



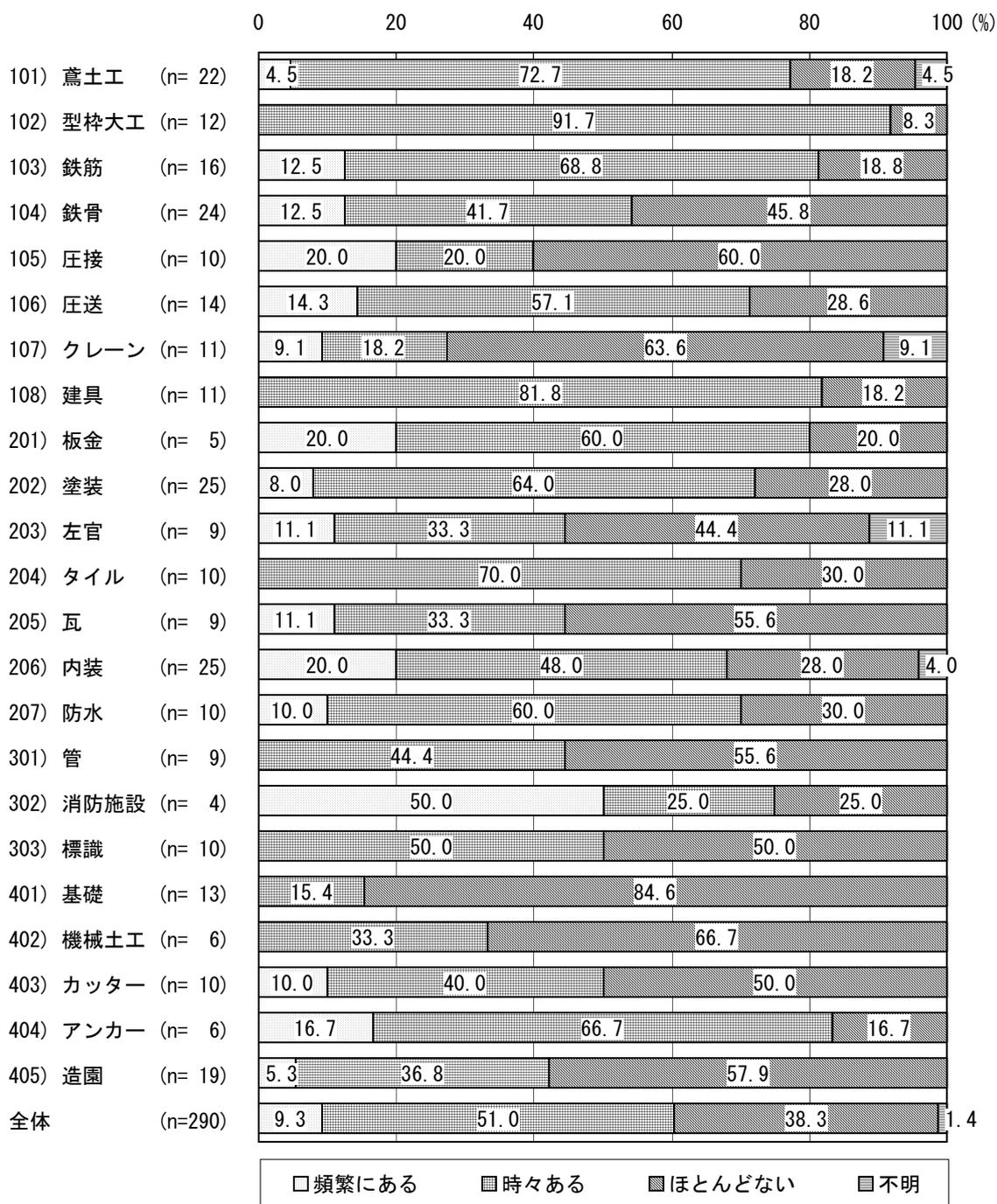
資料図 1-10-3 問題③「前工程の未完了による手待ち」の発生頻度（職種別）



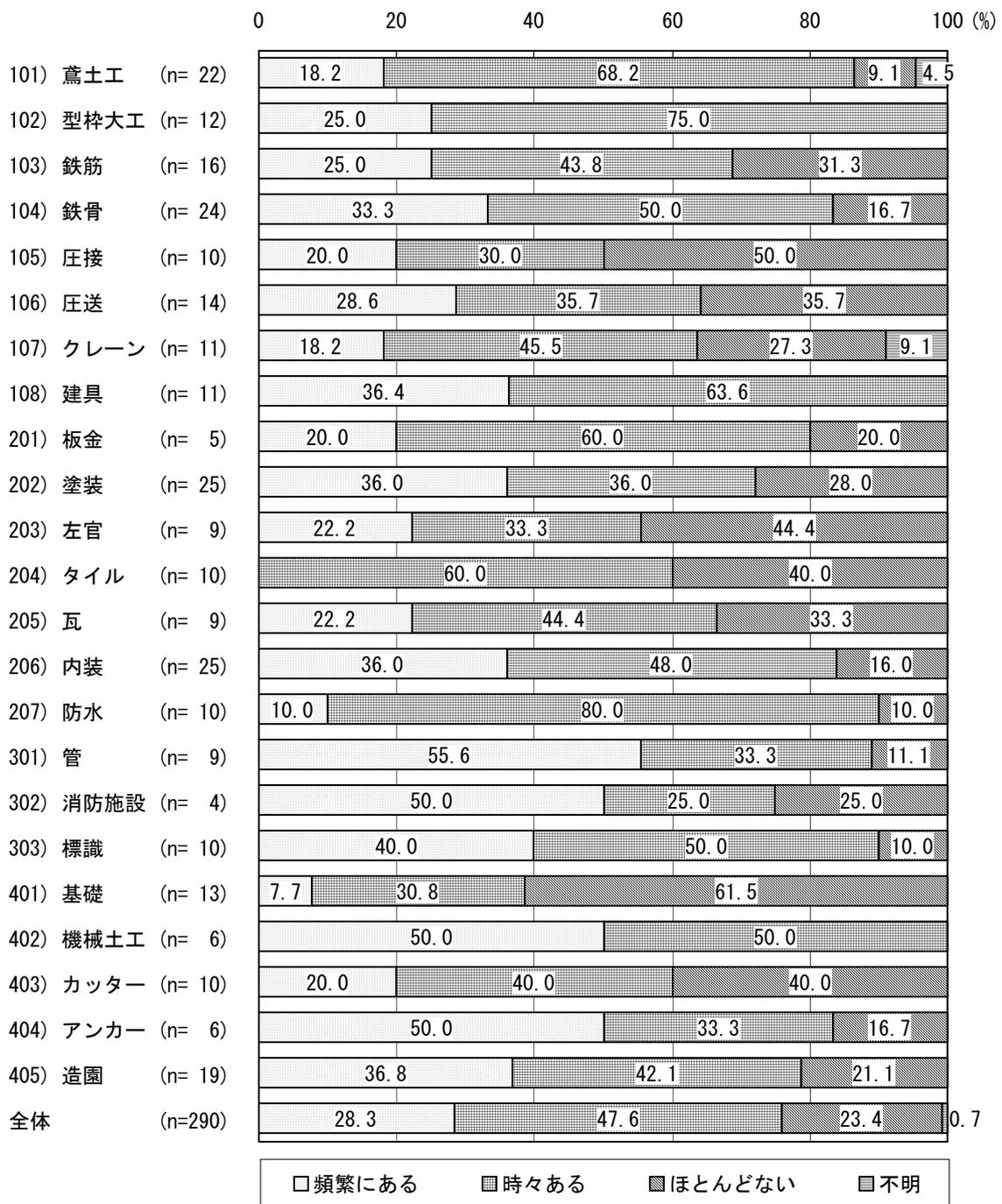
資料図 1-10-4 問題④「材料到着の遅れによる手待ち」の発生頻度（職種別）



資料図 1-10-5 問題⑤「会議等の増大による効率低下」の発生頻度（職種別）



資料図 1-10-6 問題⑥「提出書類の増大による効率低下」の発生頻度（職種別）

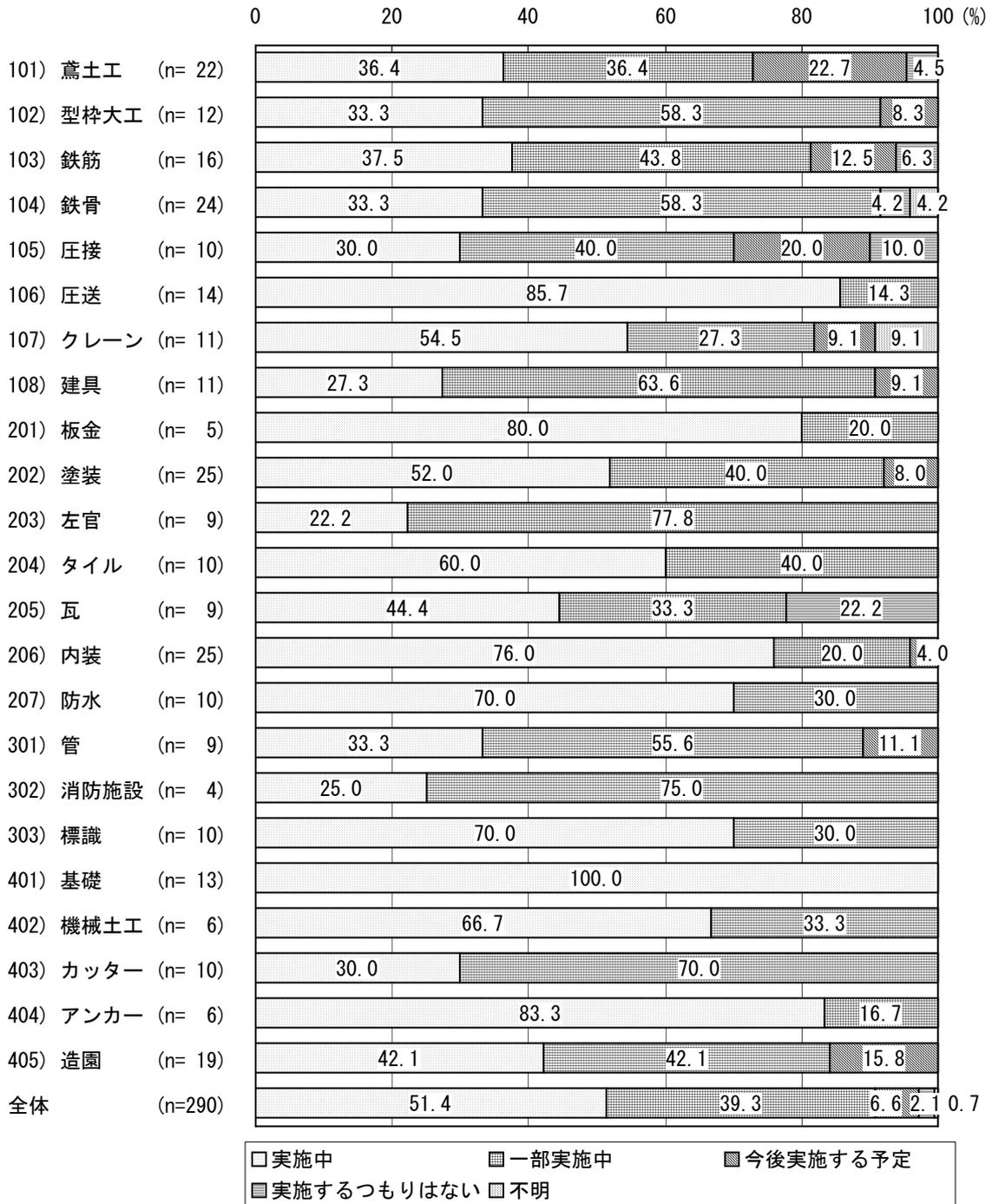


問12 工事管理上の問題対策の実施状況（職種別）

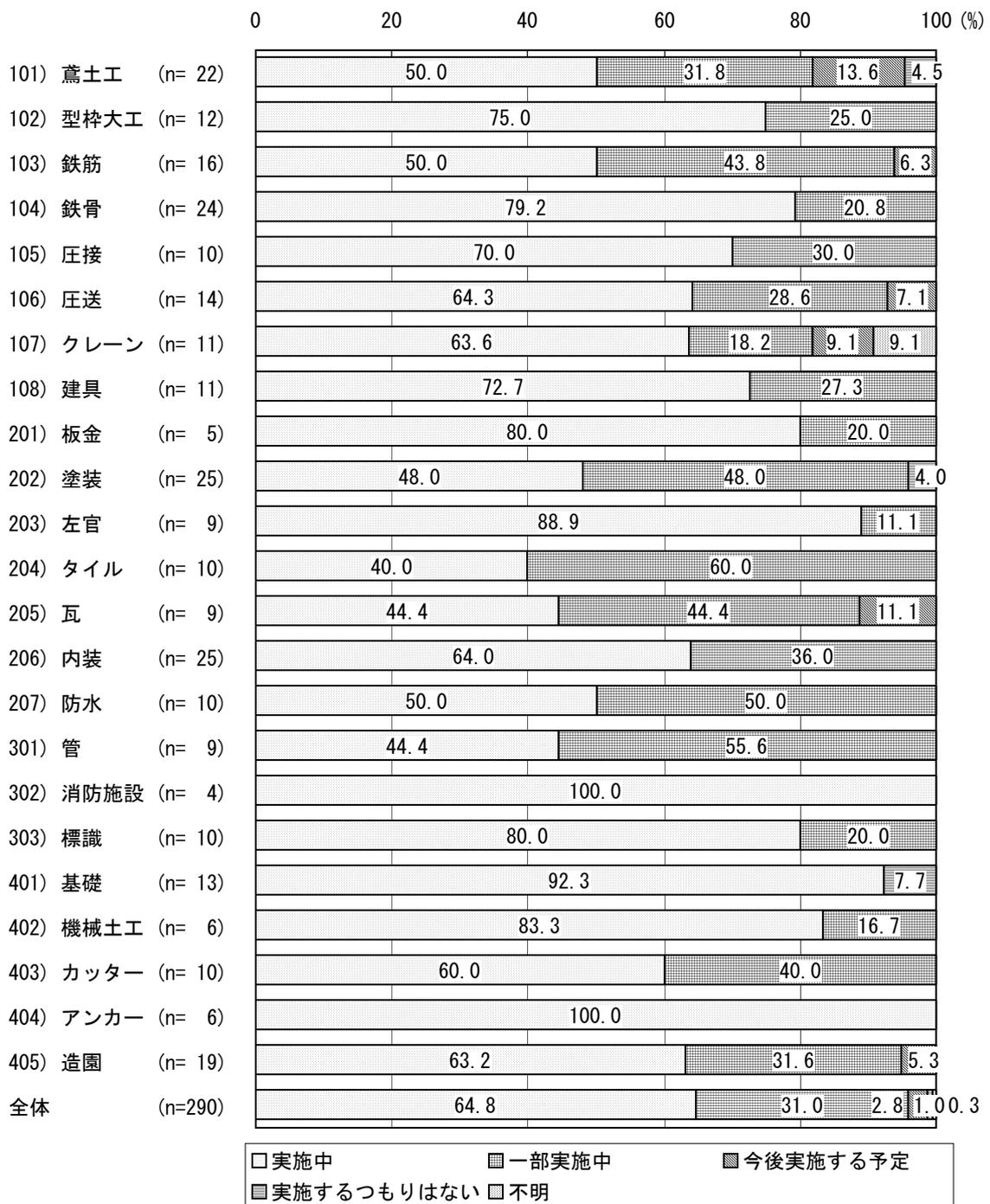
問12 貴社は、問11の対策として、以下の取組みを実施していますか。（それぞれ○は1つ）

- ① 工事着手前日の現地確認の徹底
- ② 作業前ミーティング実施の徹底
- ③ 職長会等での他職種との調整・情報交換
- ④ 工程打合せ等の時間短縮

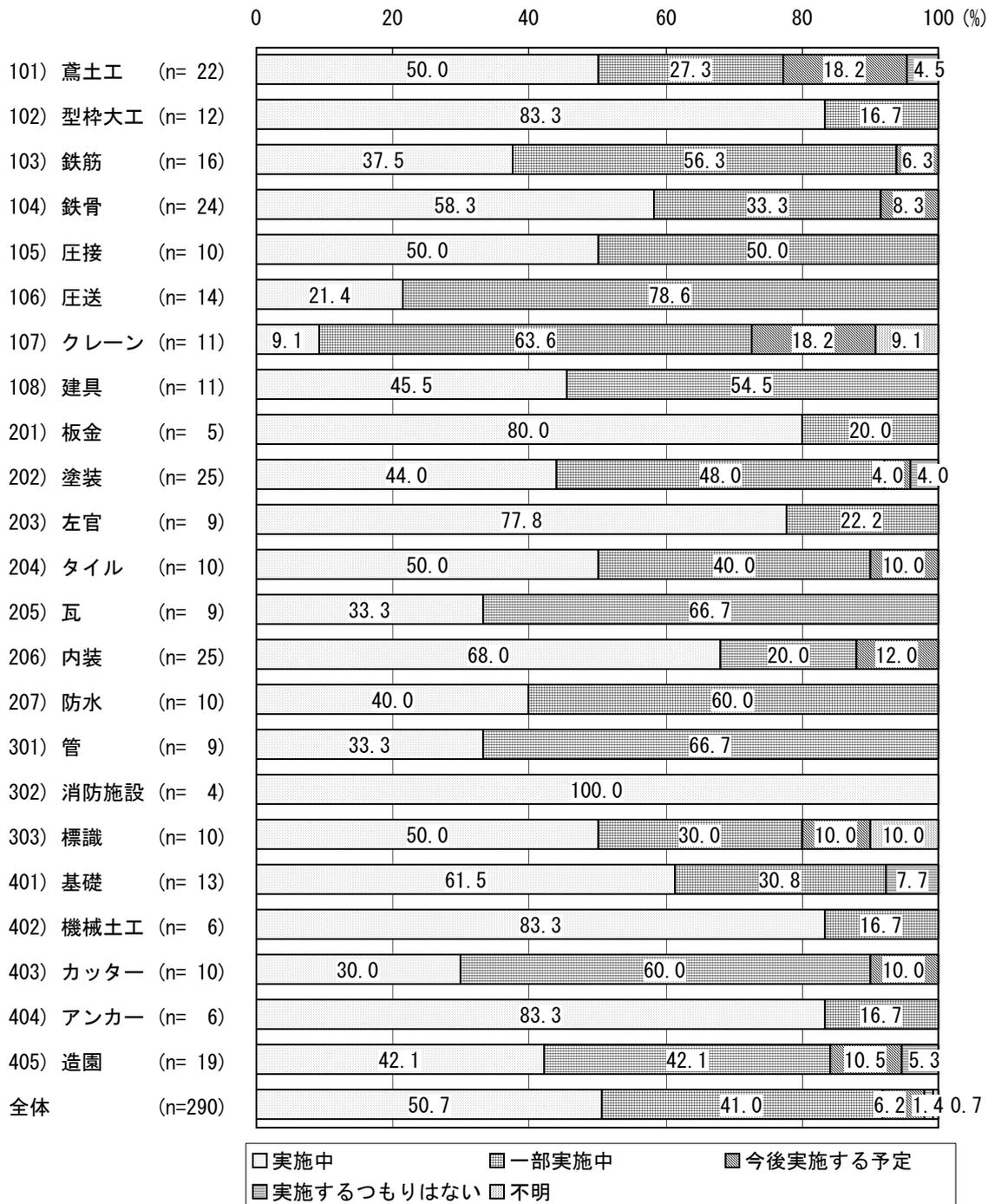
資料図 1-11-1 対策①「工事着手前日の現地確認の徹底」の実施状況（職種別）



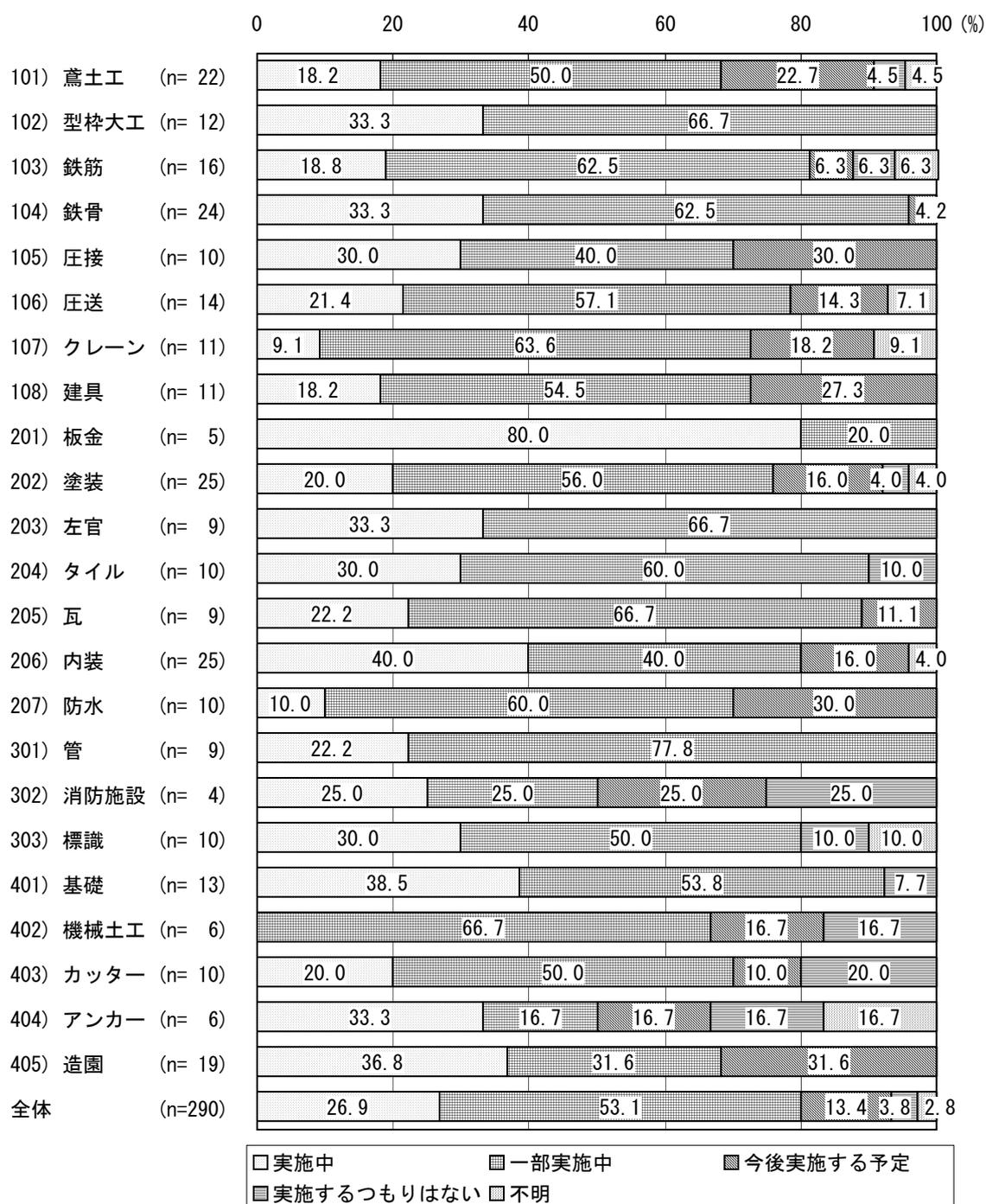
資料図 1-11-2 対策②「作業前ミーティング実施の徹底」の実施状況（職種別）



資料図 1-11-3 対策③「職長会等での他職種との調整・情報交換」の実施状況（職種別）



資料図 1-11-4 対策④「工程打合せ等の時間短縮」の実施状況（職種別）

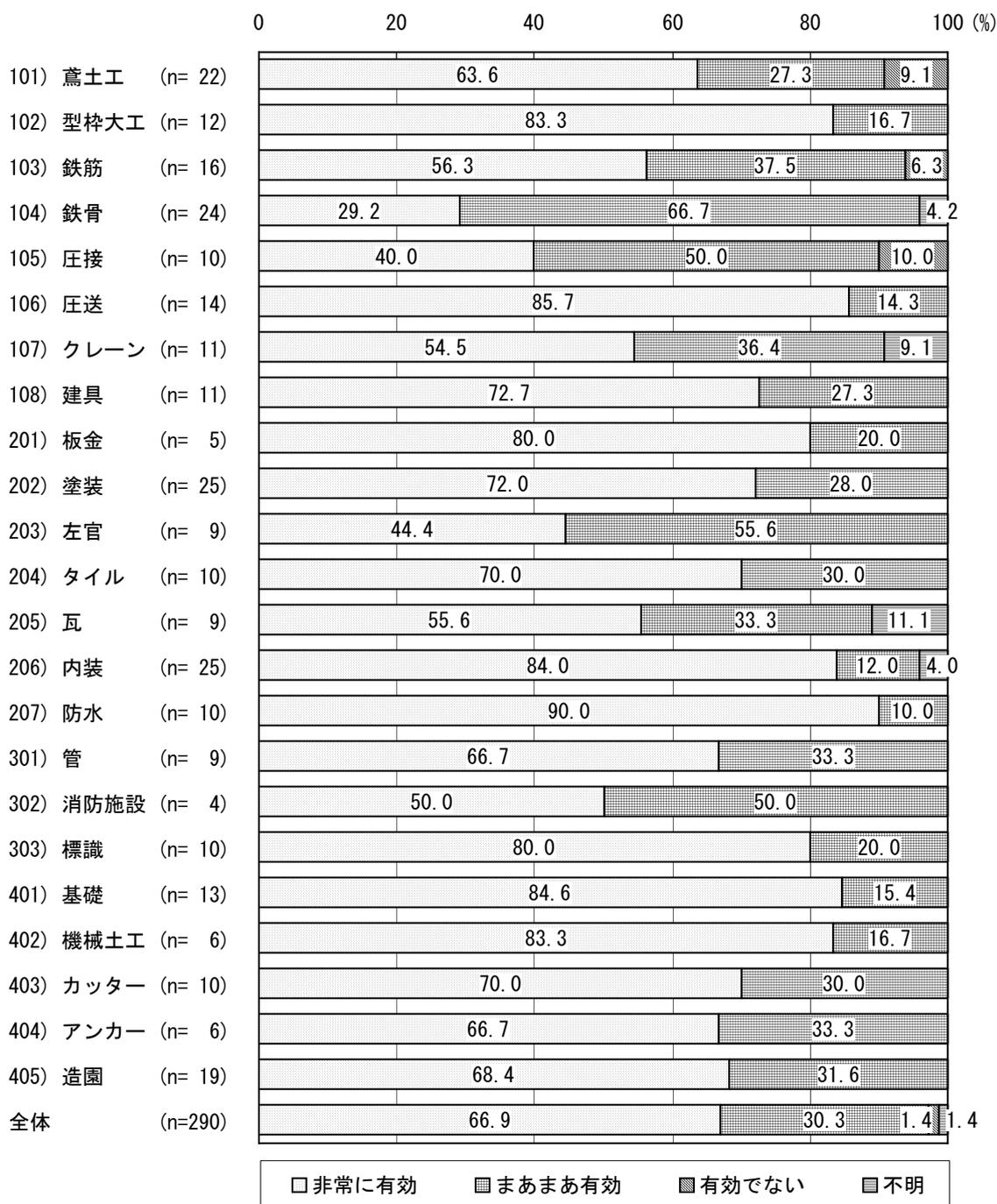


問 1 3 工事管理上の問題対策の有効性（職種別）

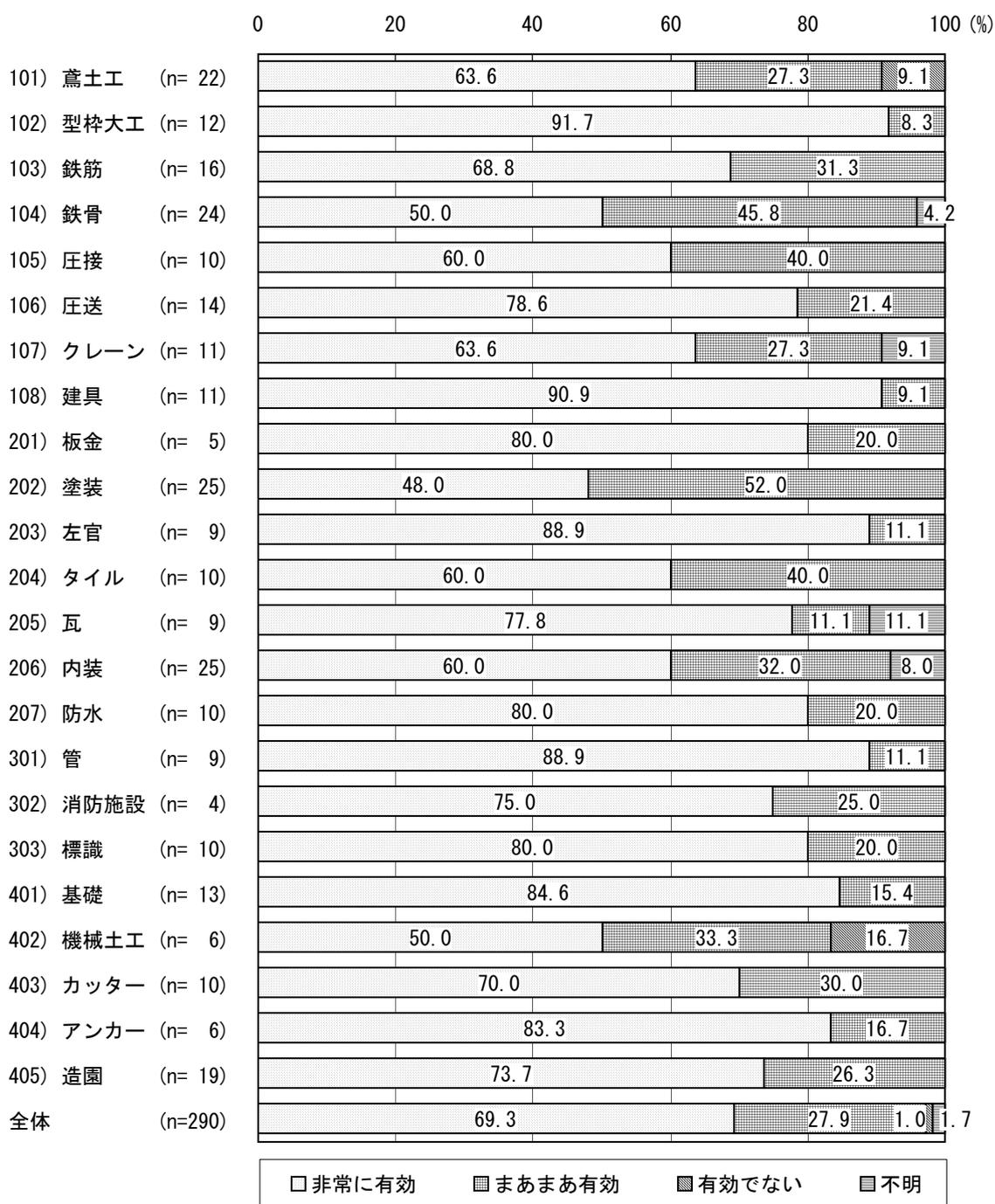
問 1 3 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。（それぞれ〇は1つ）

- ①工事着手前日の現地確認の徹底
- ②作業前ミーティング実施の徹底
- ③職長会等での他職種との調整・情報交換
- ④工程打合せ等の時間短縮

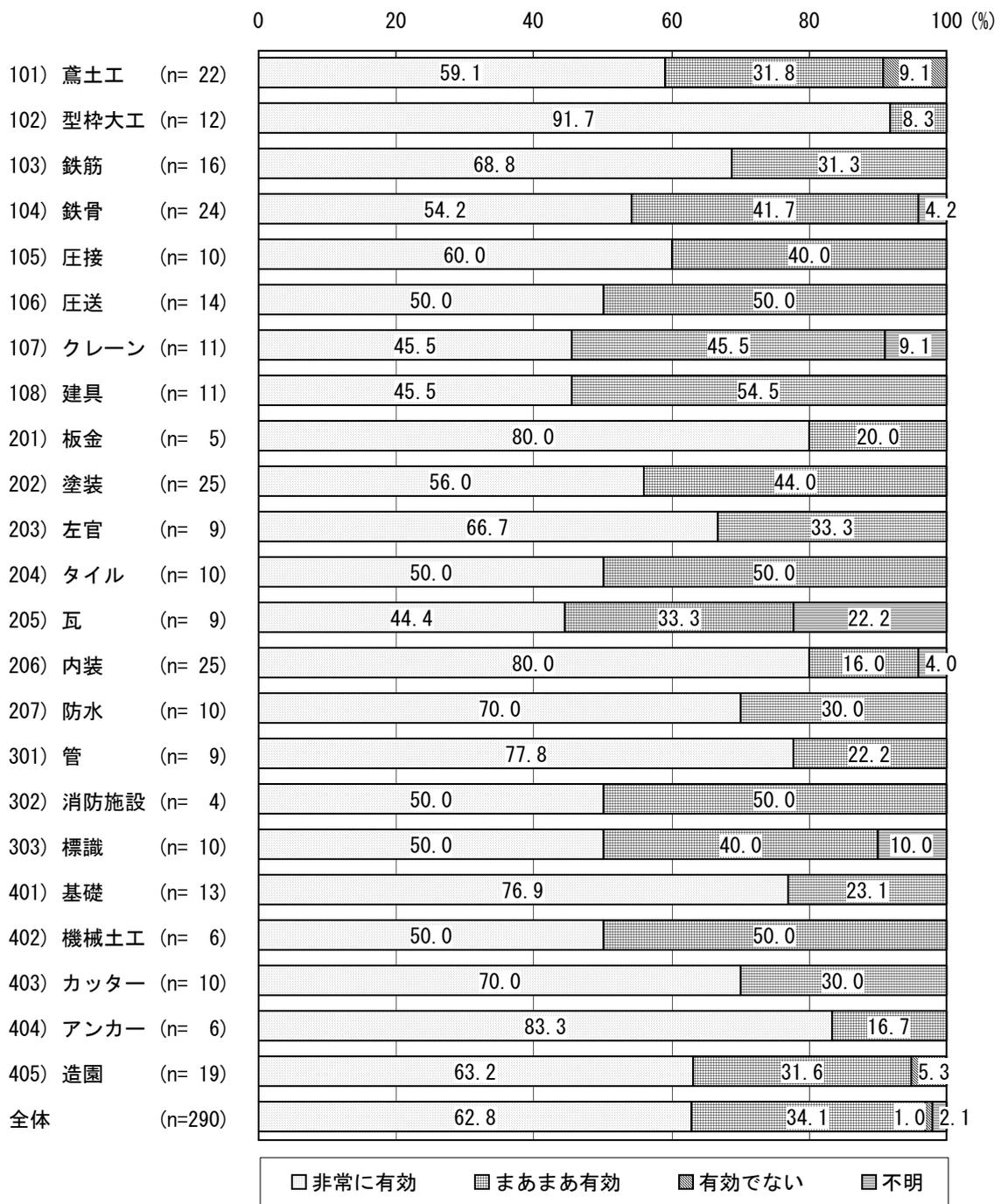
資料図 1-12-1 対策①「工事着手前日の現地確認の徹底」の有効性（職種別）



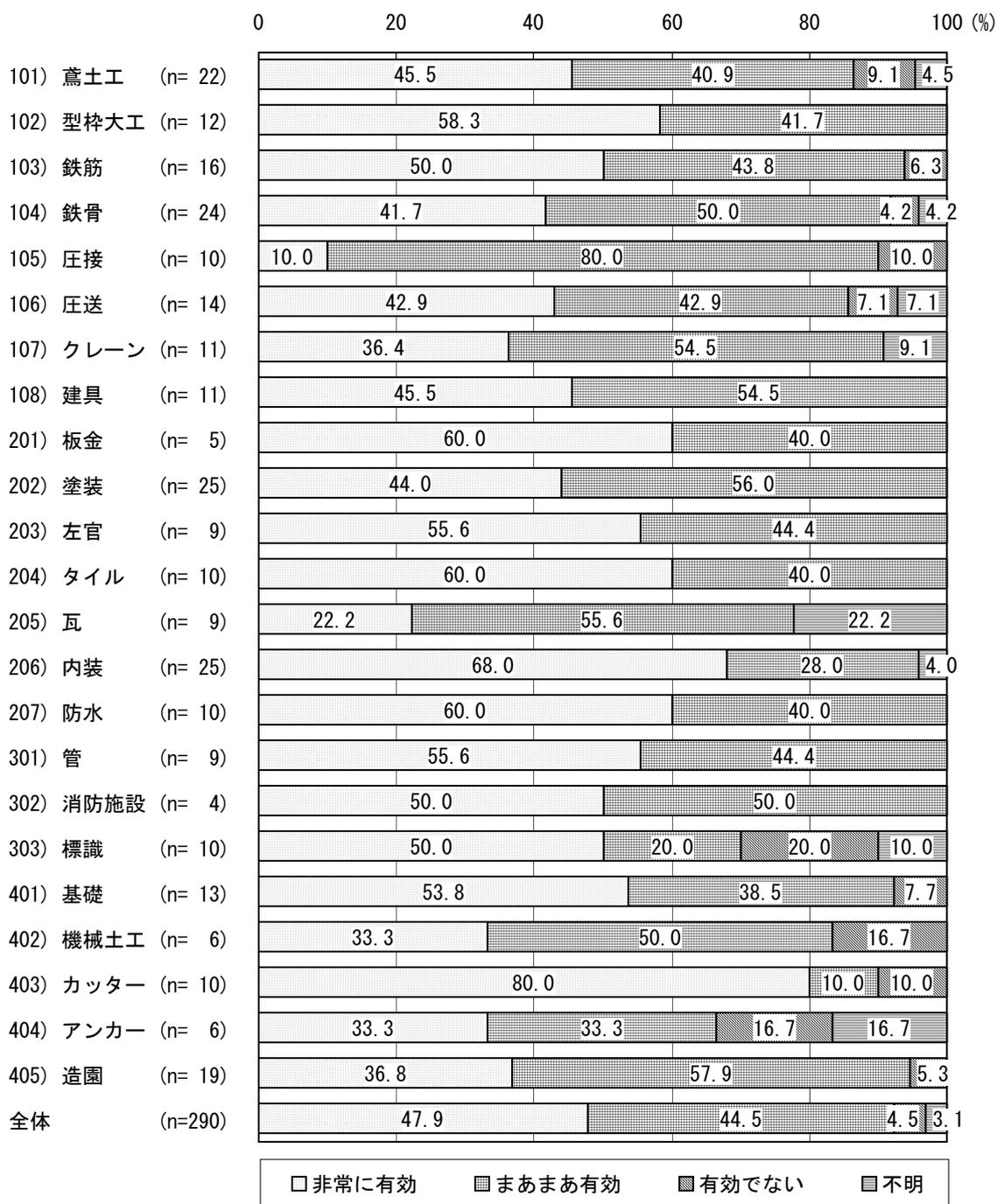
資料図 1-12-2 対策②「作業前ミーティング実施の徹底」の有効性（職種別）



資料図 1-12-3 対策③「職長会等での他職種との調整・情報交換」の有効性（職種別）



資料図 1-12-4 対策④「工程打合せ等の時間短縮」の有効性（職種別）



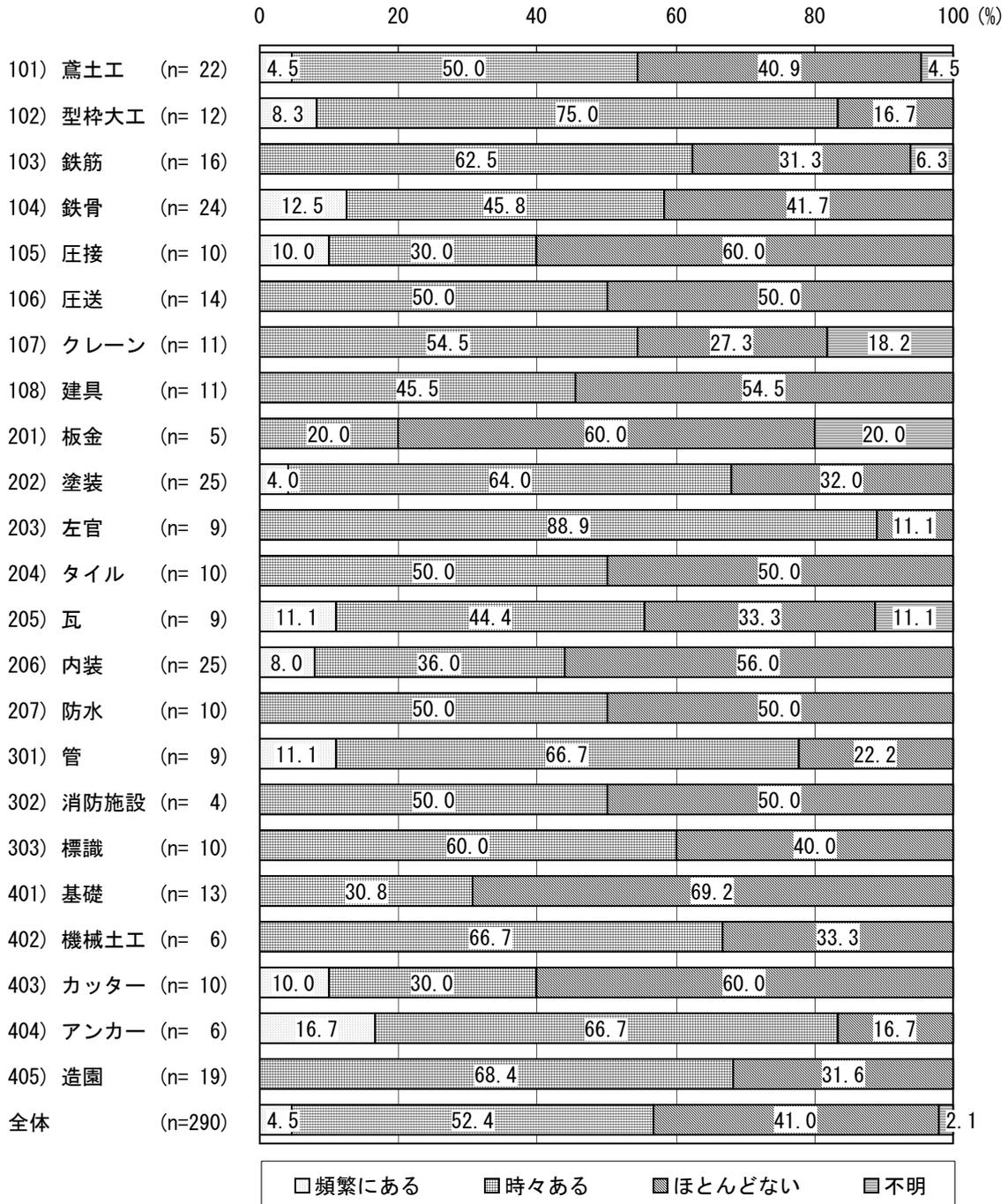
問15 作業能力上の問題の発生頻度（職種別）

問15 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。（それぞれ○は1つ）

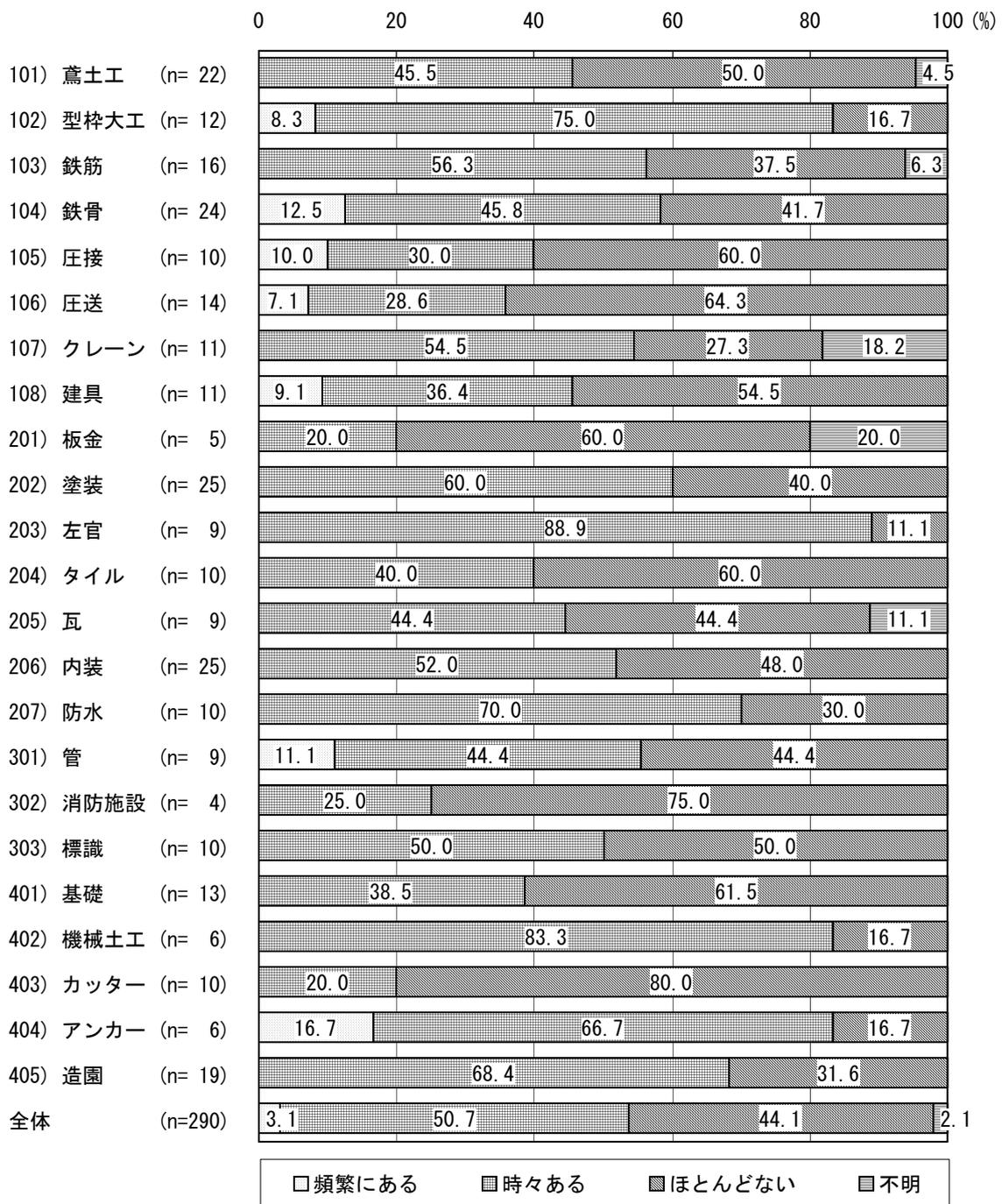
①作業者の要領の悪さによる工程遅延

②作業者の技量不足による手直し

資料図 1-13-1 問題①「作業者の要領の悪さによる工程遅延」の発生頻度（職種別）



資料図 1-13-2 問題②「作業者の技量不足による手直し」の発生頻度（職種別）

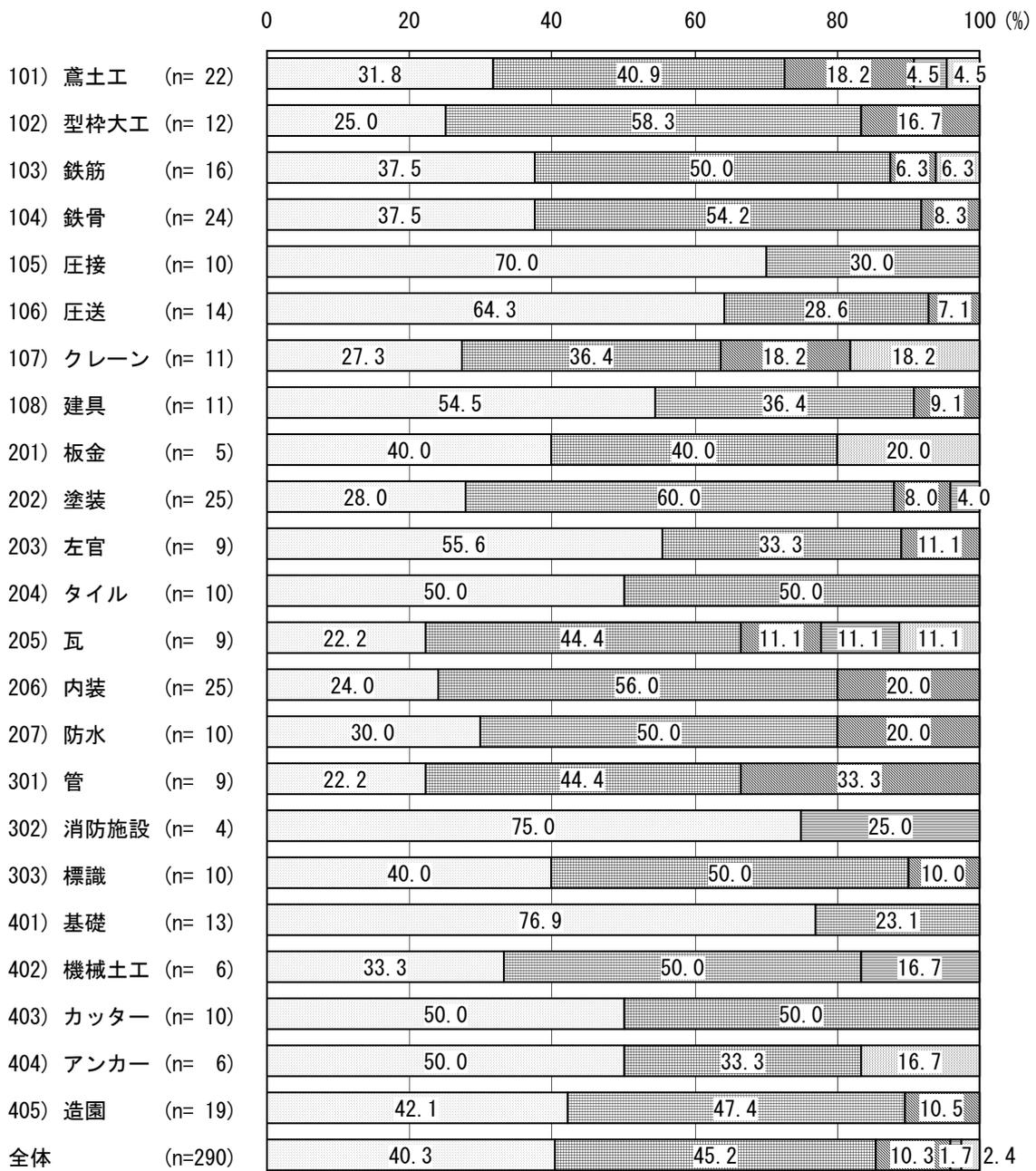


問16 作業能力上の問題対策の実施状況（職種別）

問16 貴社は、問15の対策として、以下の取組みを実施していますか。（それぞれ○は1つ）

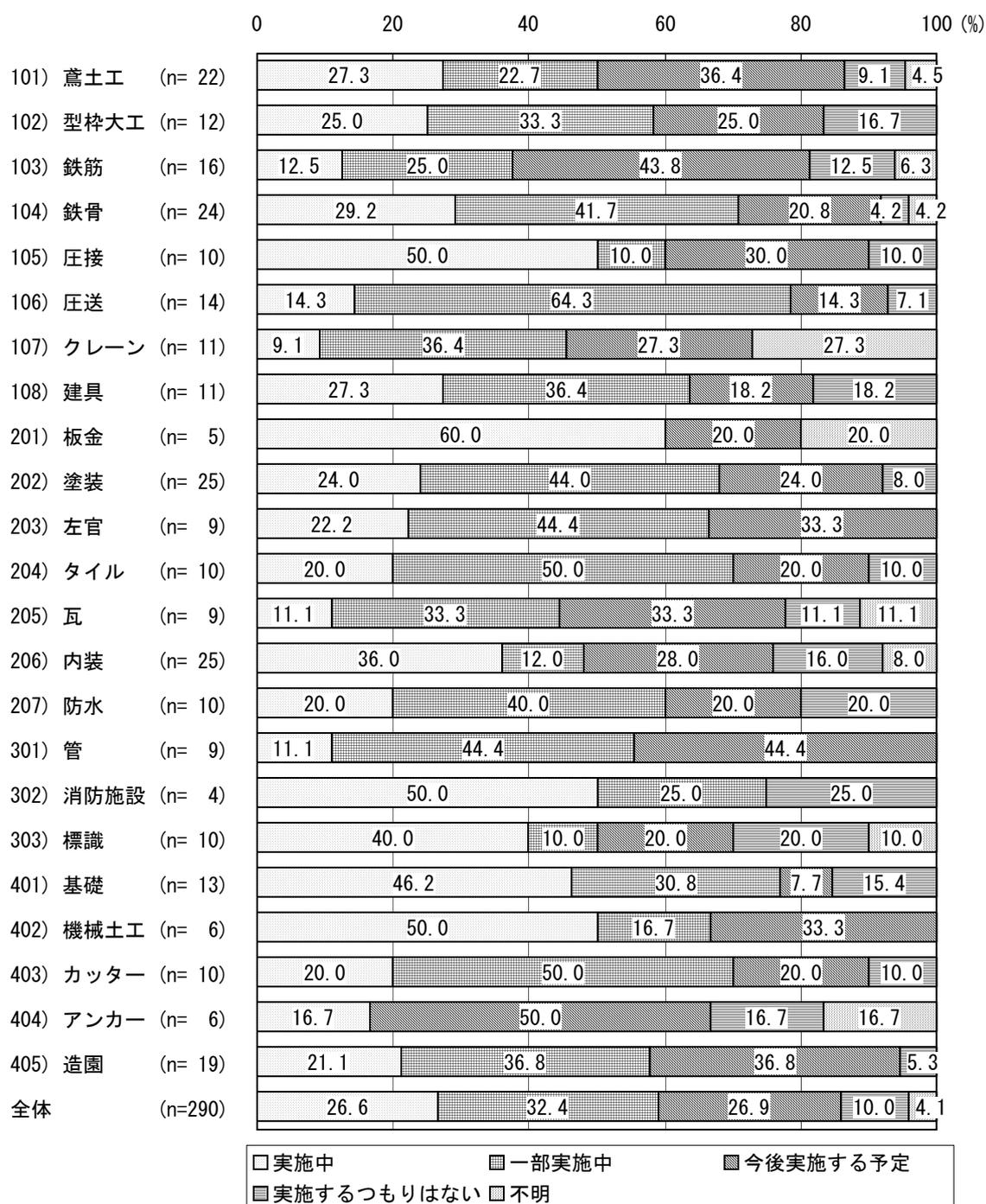
- ①専門技能の教育訓練の充実
- ②目標管理による人事評価
- ③多能工の育成
- ④上級職長、基幹技能者の育成・活用
- ⑤工事反省会等での改善活動

資料図 1-13-1 対策①「専門技能の教育訓練の充実」の実施状況（職種別）

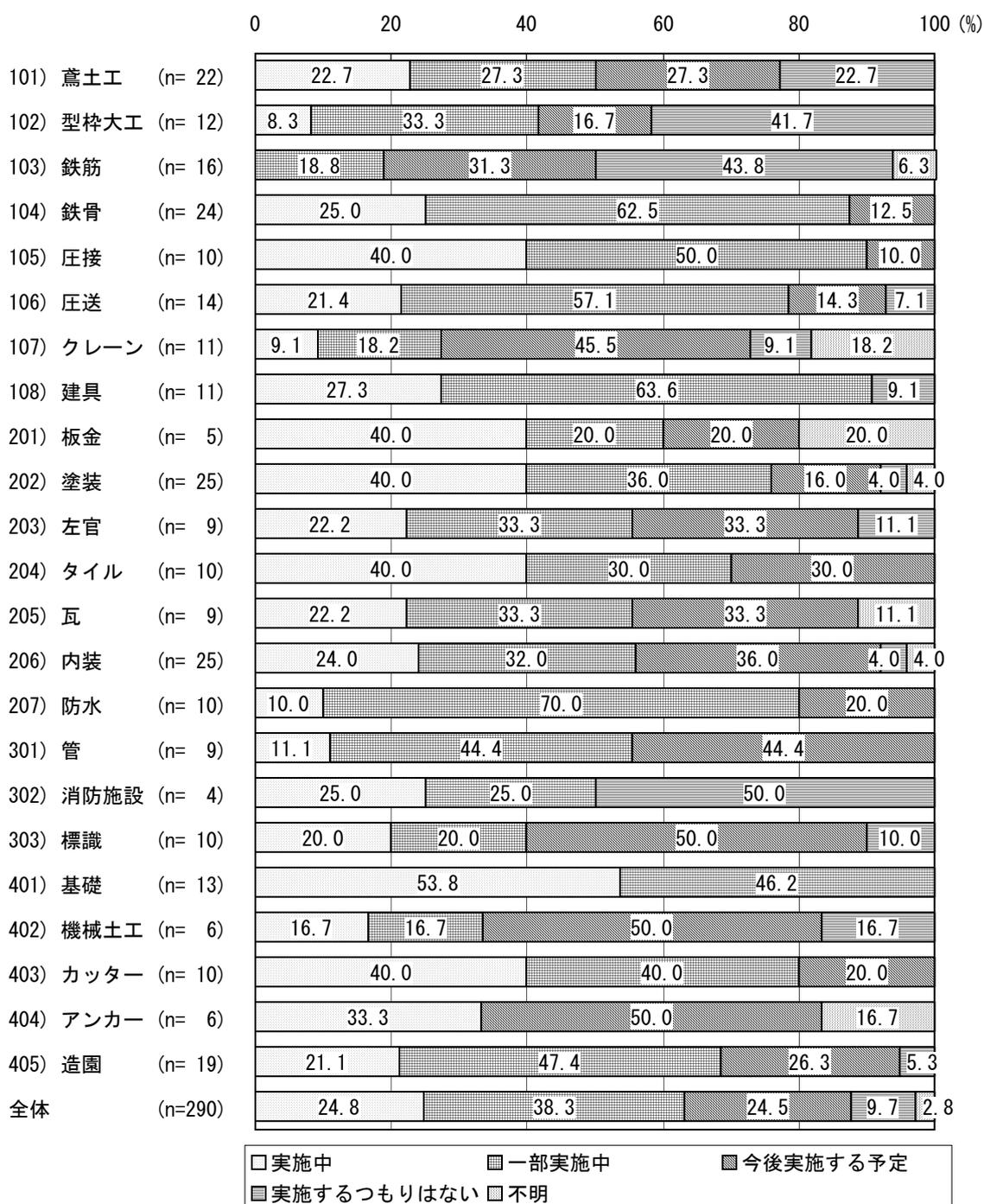


□実施中 ■一部実施中 ■今後実施する予定
 ■実施するつもりはない □不明

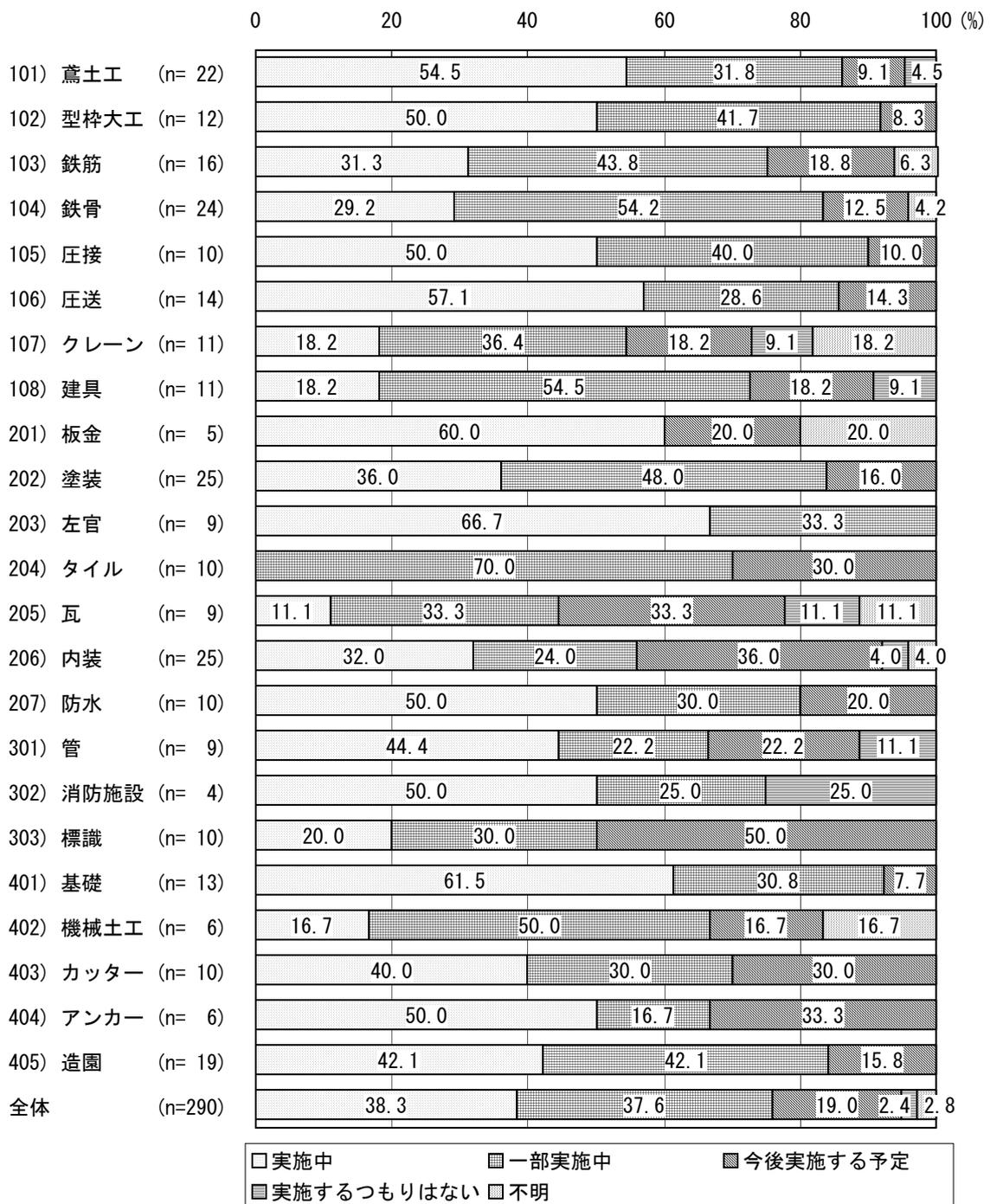
資料図 1-13-2 対策②「目標管理による人事評価」の実施状況（職種別）



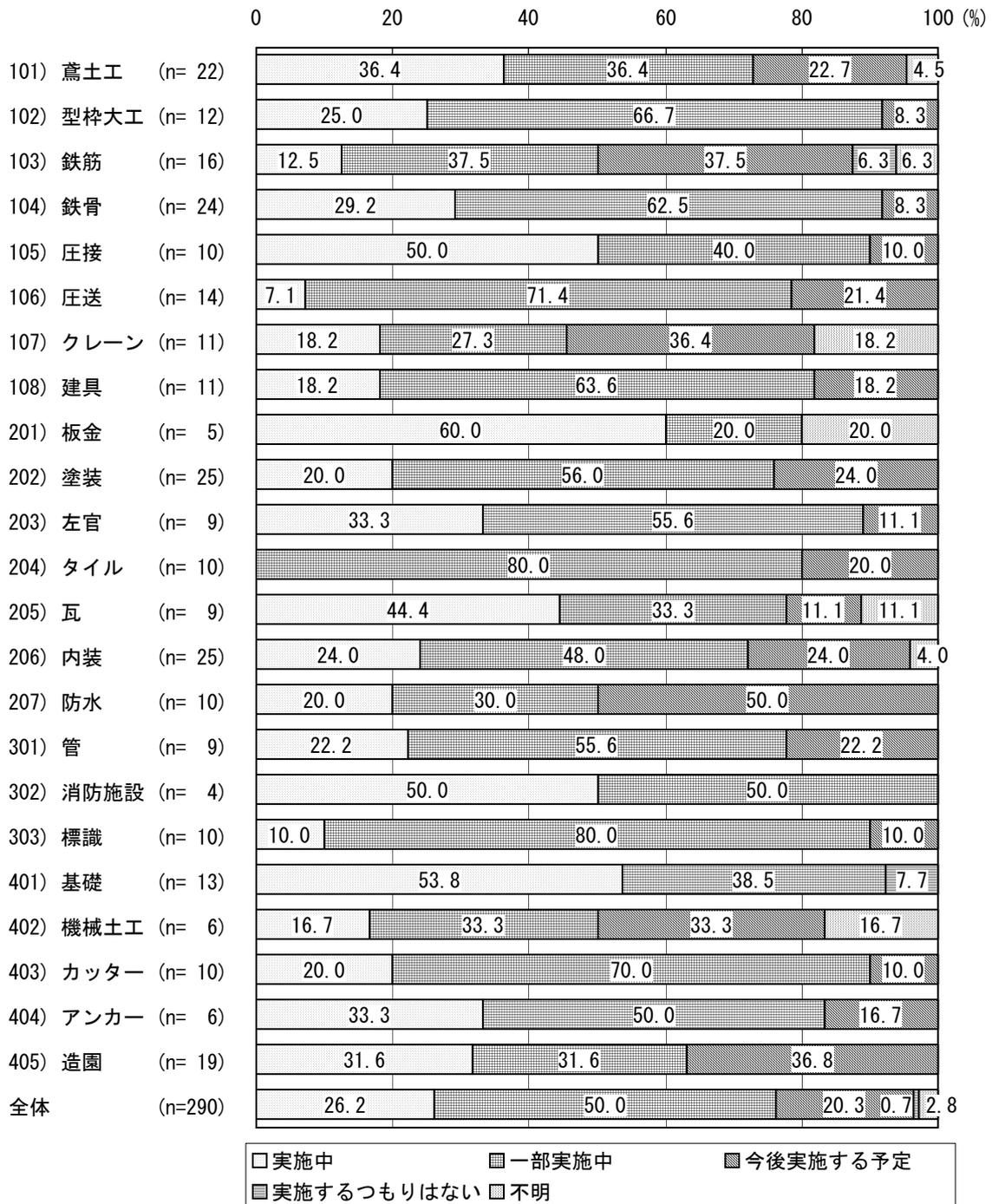
資料図 1-13-3 対策③「多能工の育成」の実施状況（職種別）



資料図 1-13-4 対策④「上級職長、基幹技能者の育成・活用」の実施状況（職種別）



資料図 1-13-5 対策⑤「工事反省会等での改善活動」の実施状況（職種別）

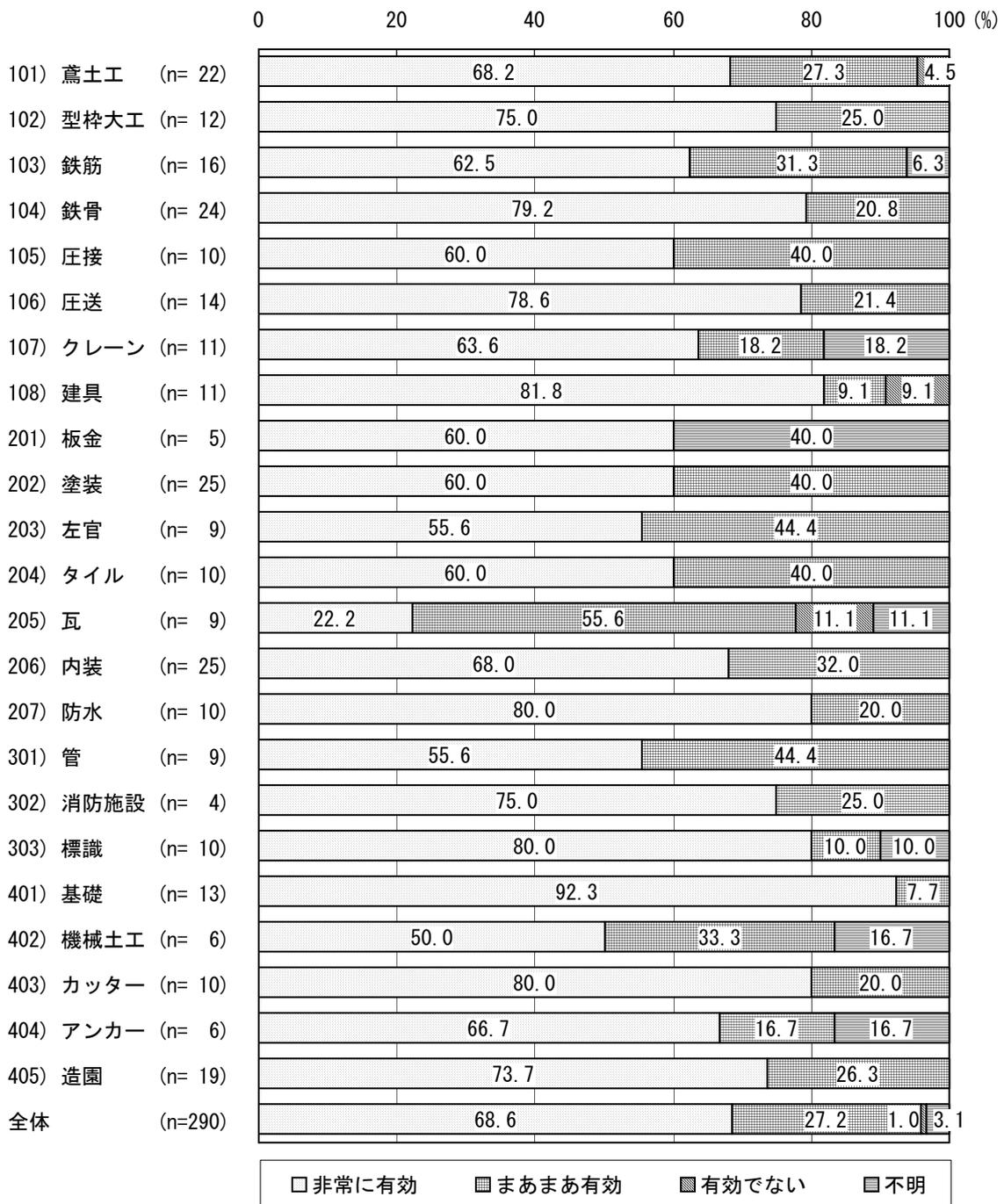


問17 作業能力上の問題対策の有効性（職種別）

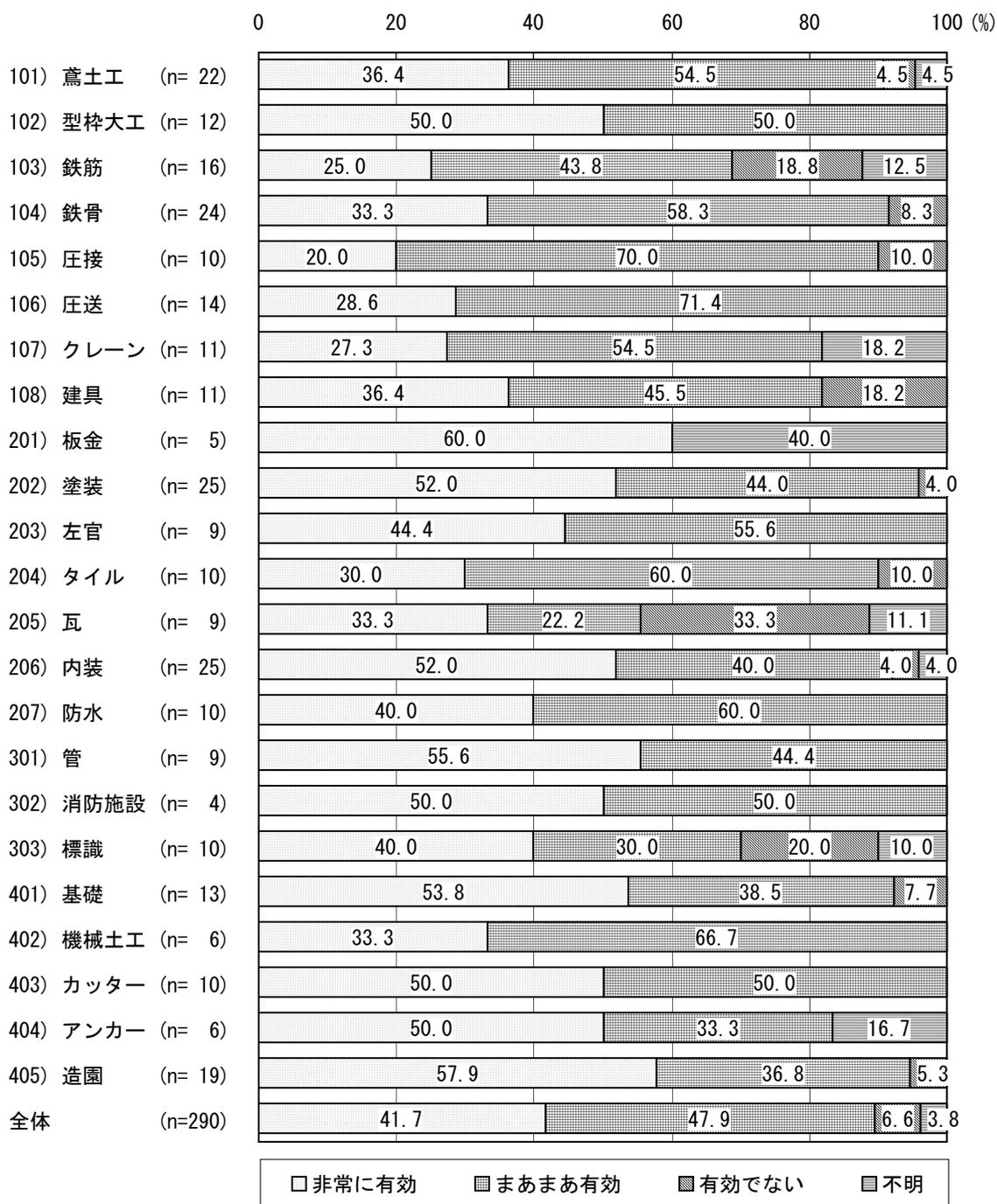
問17 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。（それぞれ○は1つ）

- ①専門技能の教育訓練の充実
- ②目標管理による人事評価
- ③多能工の育成
- ④上級職長、基幹技能者の育成
- ⑤工事反省会等での改善活動

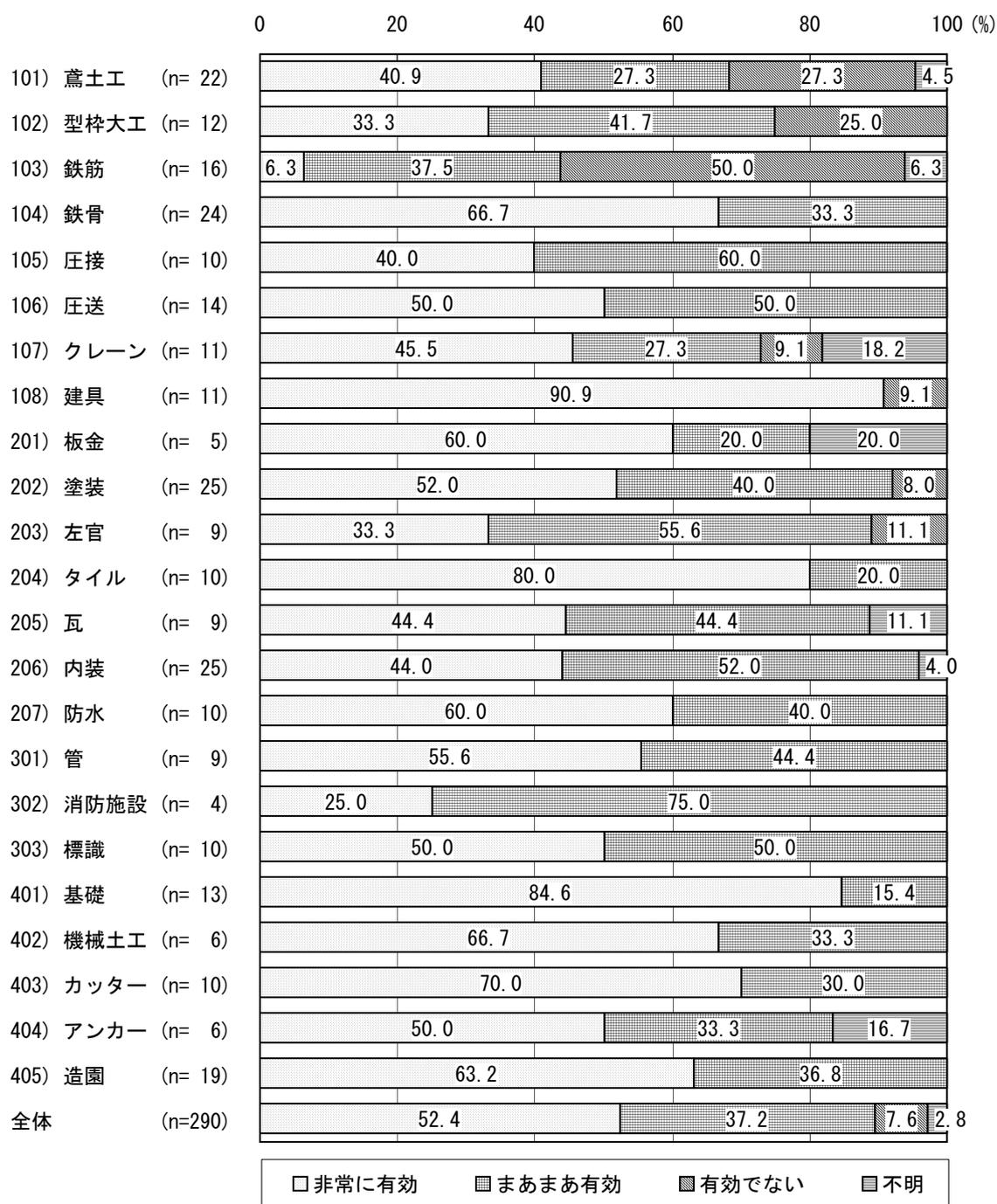
資料図 1-14-1 対策①「専門技能の教育訓練の充実」の有効性（職種別）



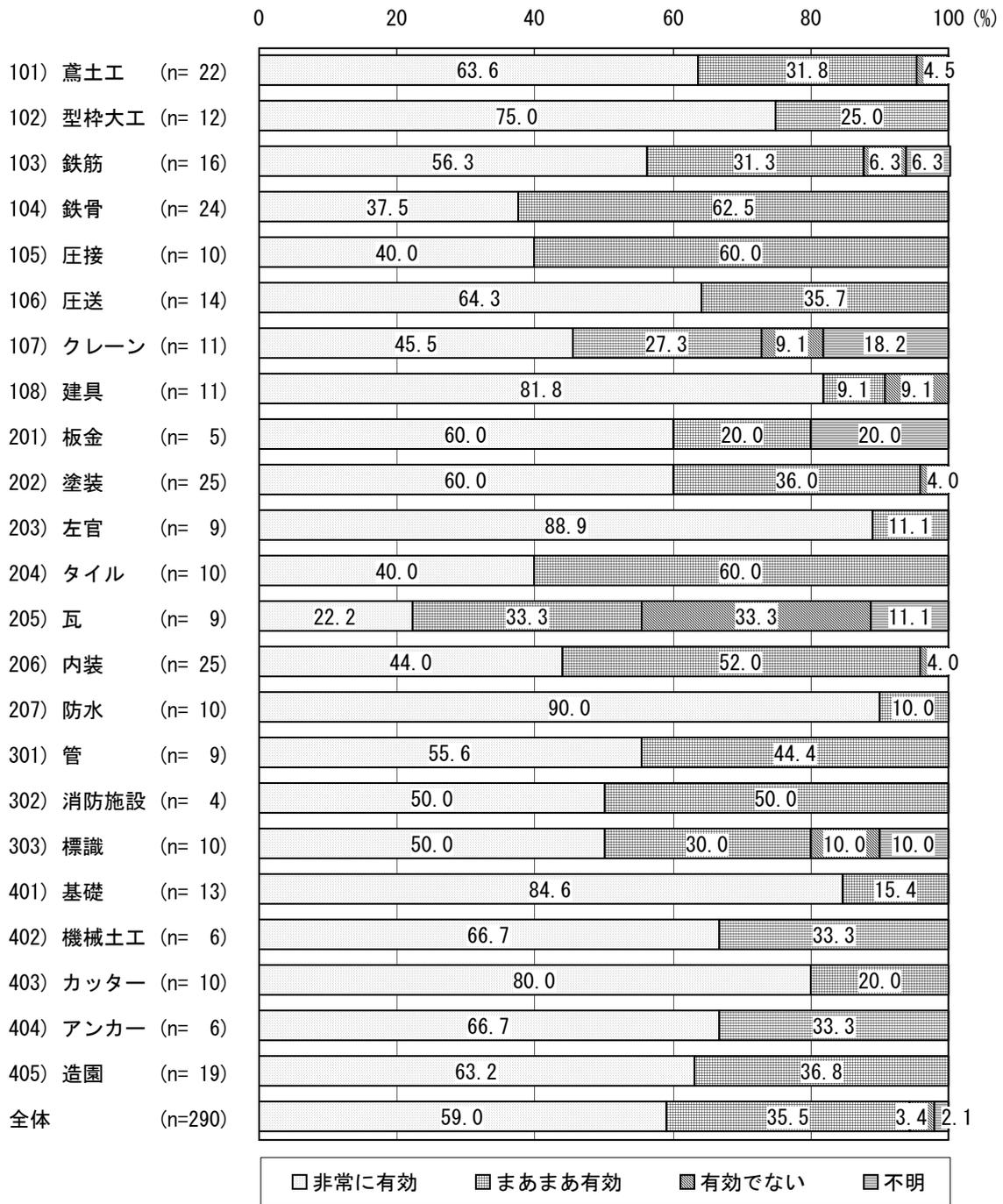
資料図 1-14-2 対策②「目標管理による人事評価」の有効性（職種別）



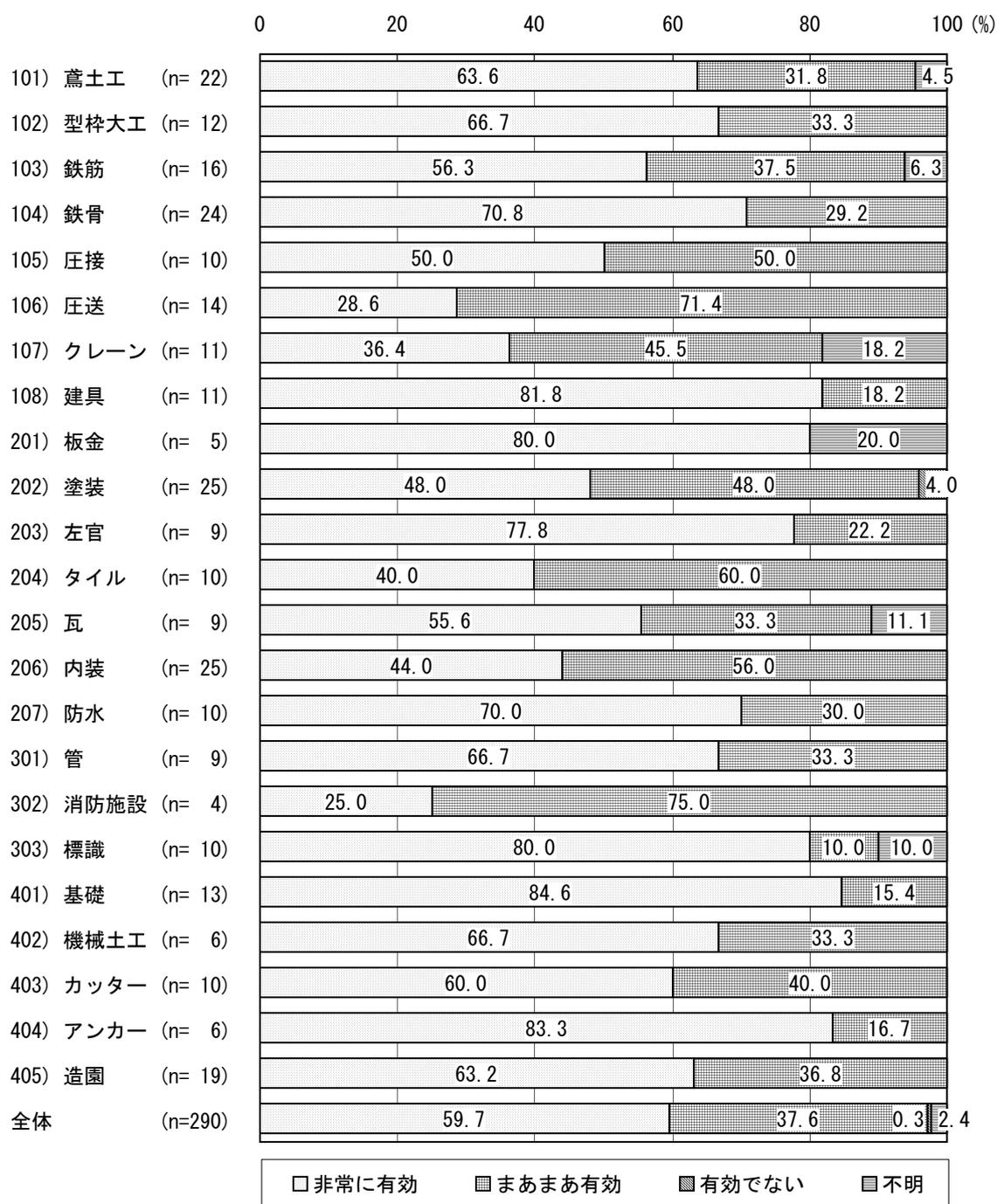
資料図 1-14-3 対策③「多能工の育成」の有効性（職種別）



資料図 1-14-4 対策④「上級職長、基幹技能者の育成」の有効性（職種別）



資料図 1-14-5 対策⑤「工事反省会等での改善活動」の有効性（職種別）

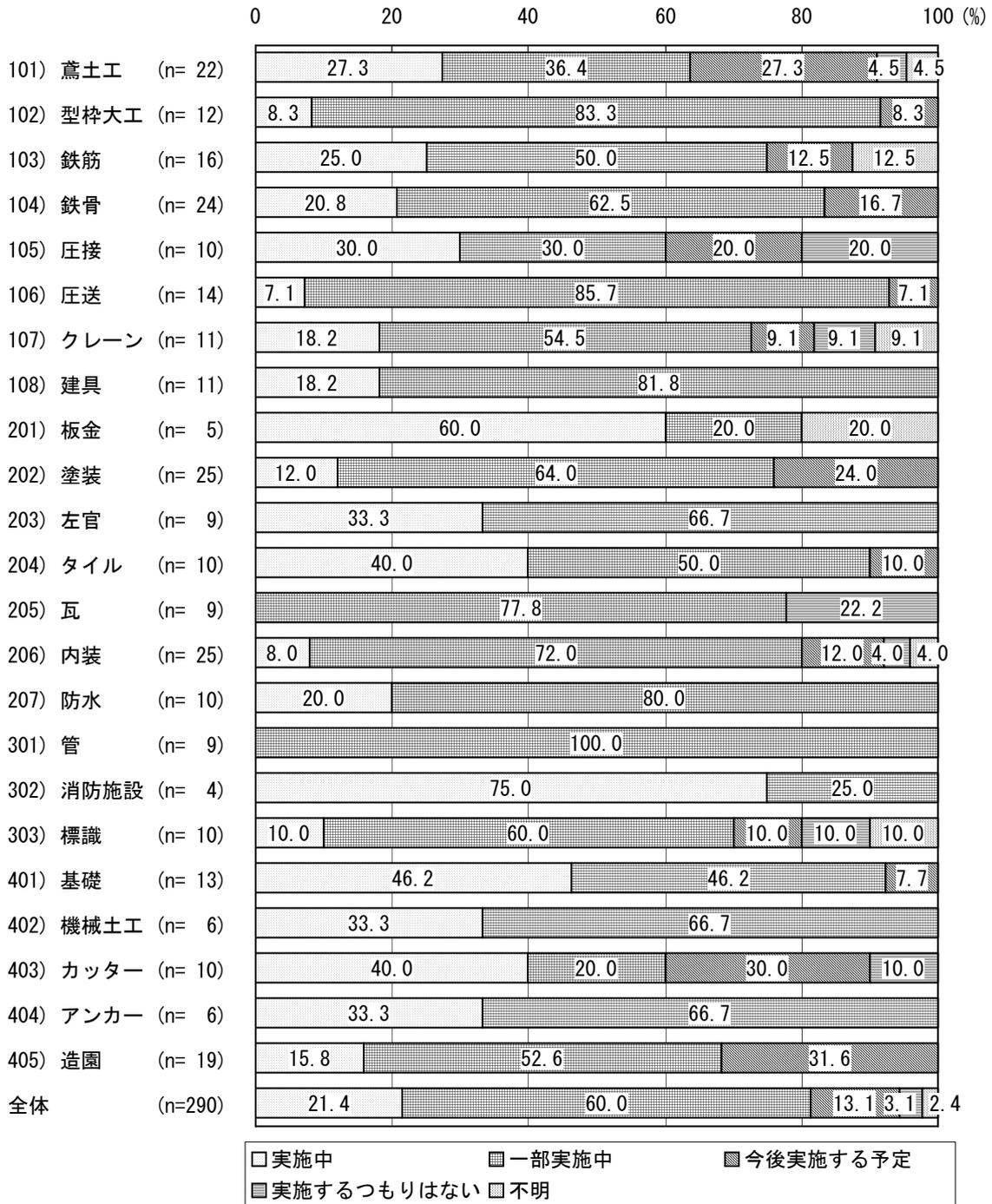


問19 省力化・効率化の取組みの実施状況（職種別）

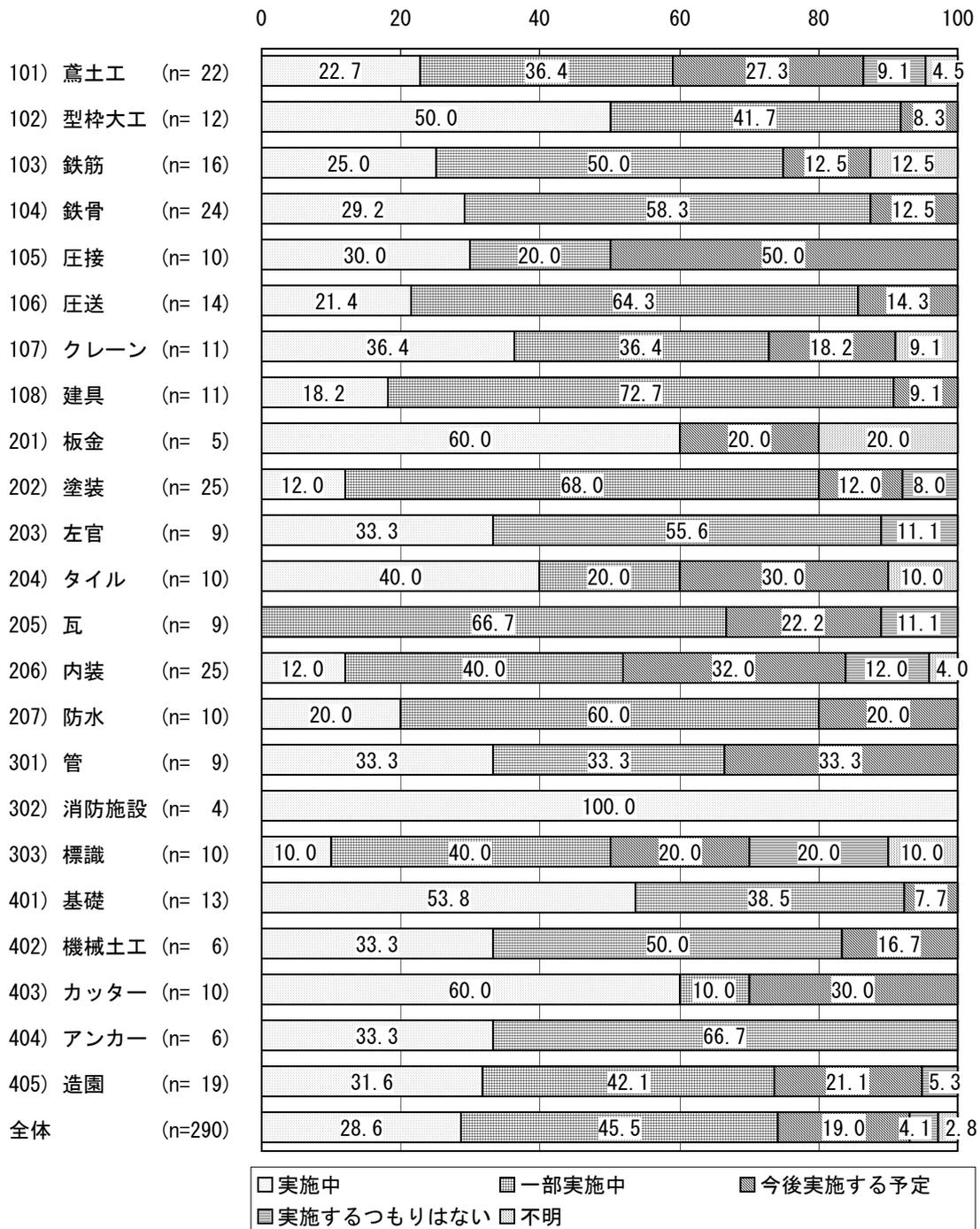
問19 貴社は、以下の取組みを実施していますか。（それぞれ○は1つ）

- ① 施工手順の変更による効率化
- ② 省力化工法・機械化工法の積極的採用
- ③ 省力化・効率化のための技術開発
- ④ ITを活用した状況確認と人員配置

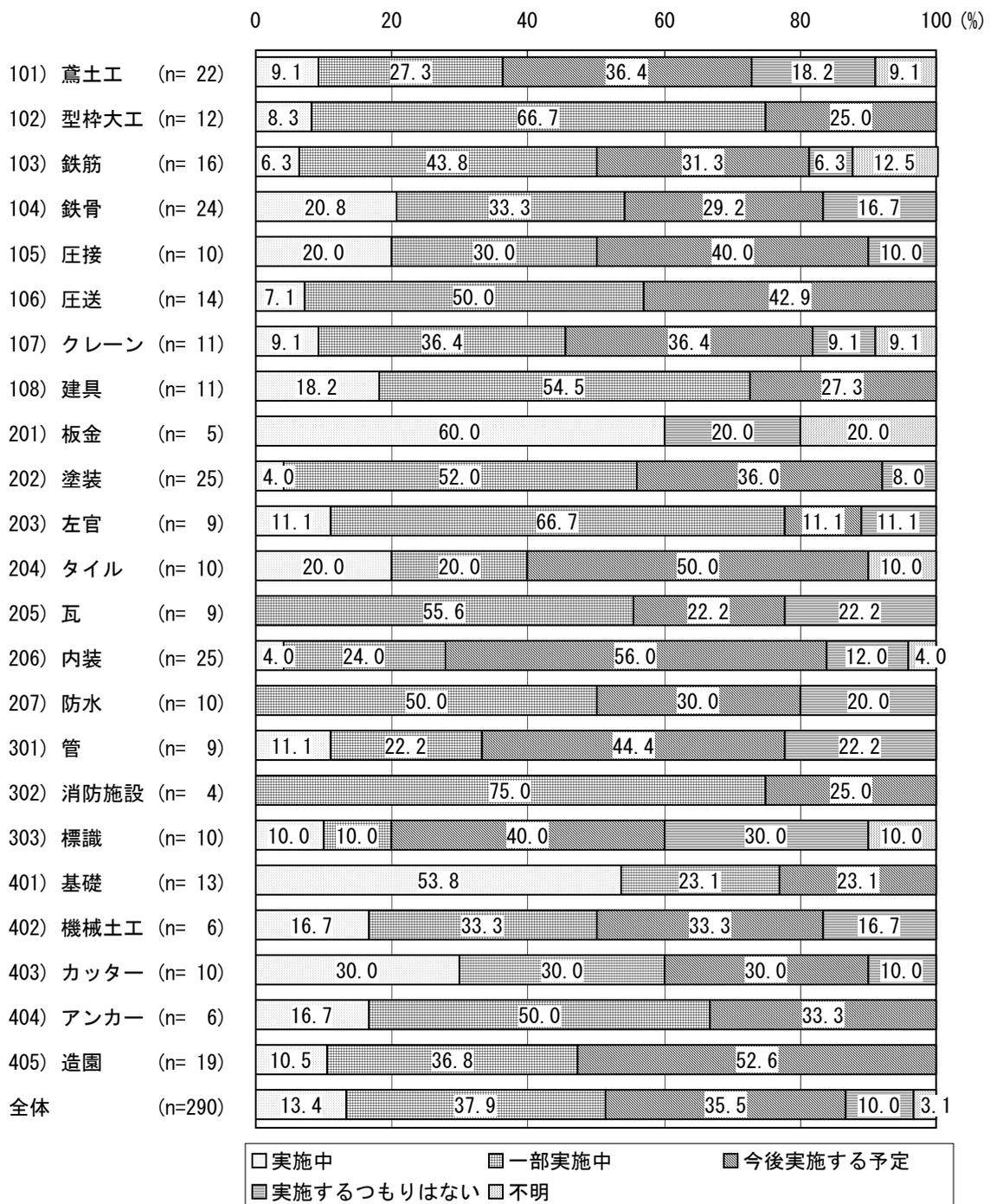
資料図 1-15-1 取組み①「施工手順の変更による効率化」の実施状況（職種別）



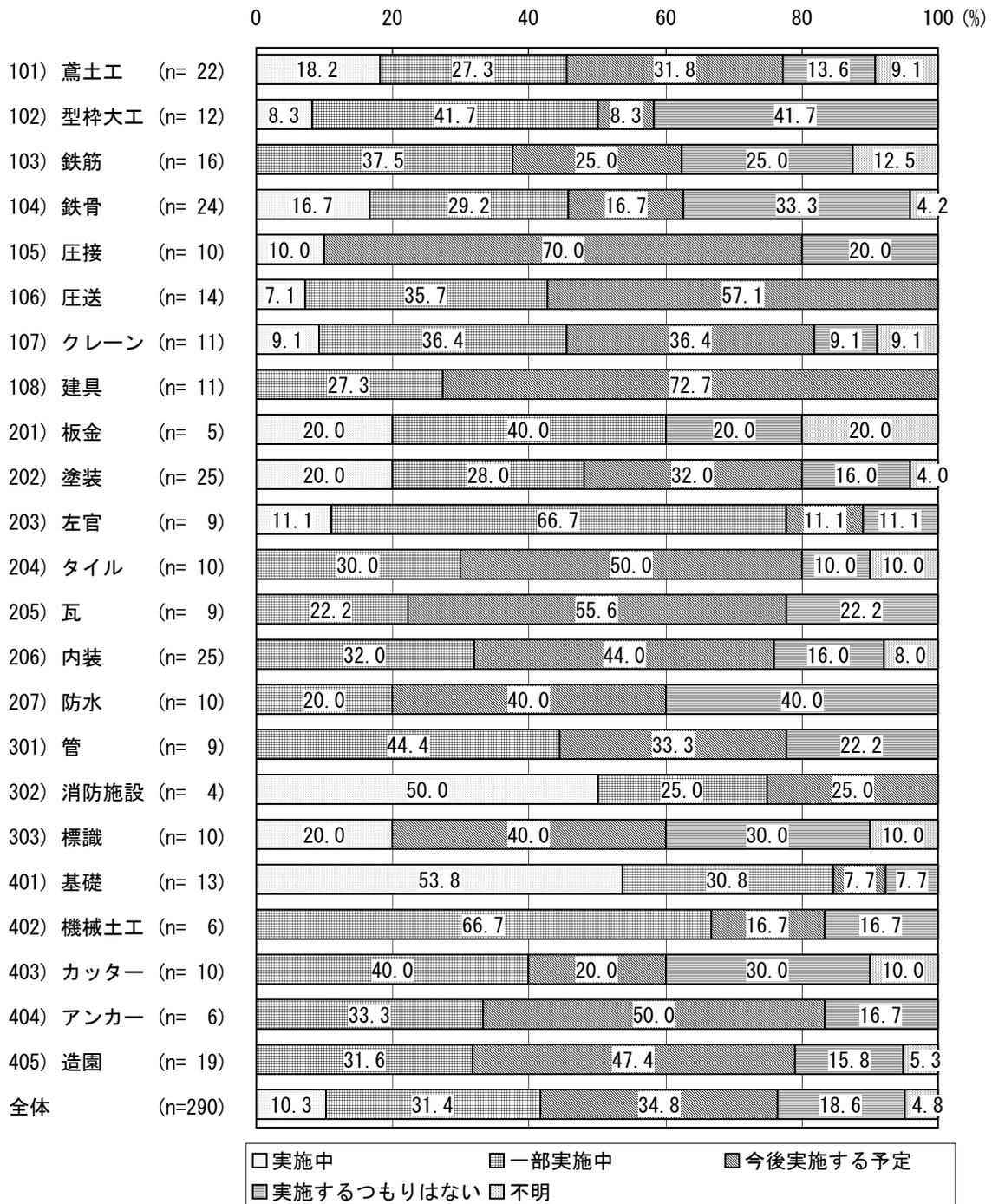
資料図 1-15-2 取組み②「省力化工法・機械化工法の積極的採用」の実施状況（職種別）



資料図 1-15-3 取組み③「省力化・効率化のための技術開発」の実施状況（職種別）



資料図 1-15-4 取組み④「ITを活用した状況確認と人員配置」の実施状況（職種別）

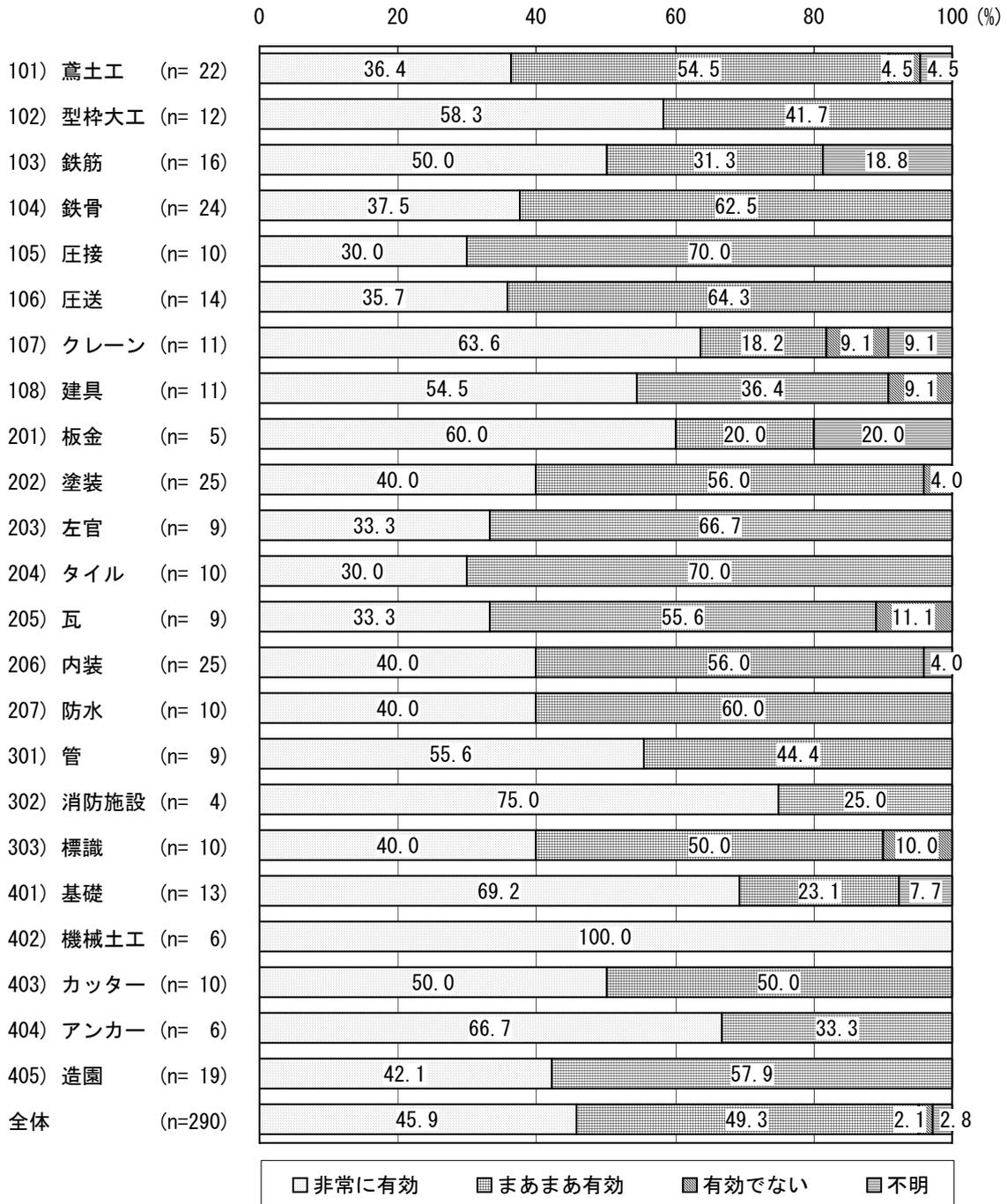


問20 省力化・効率化の取組みの有効性（職種別）

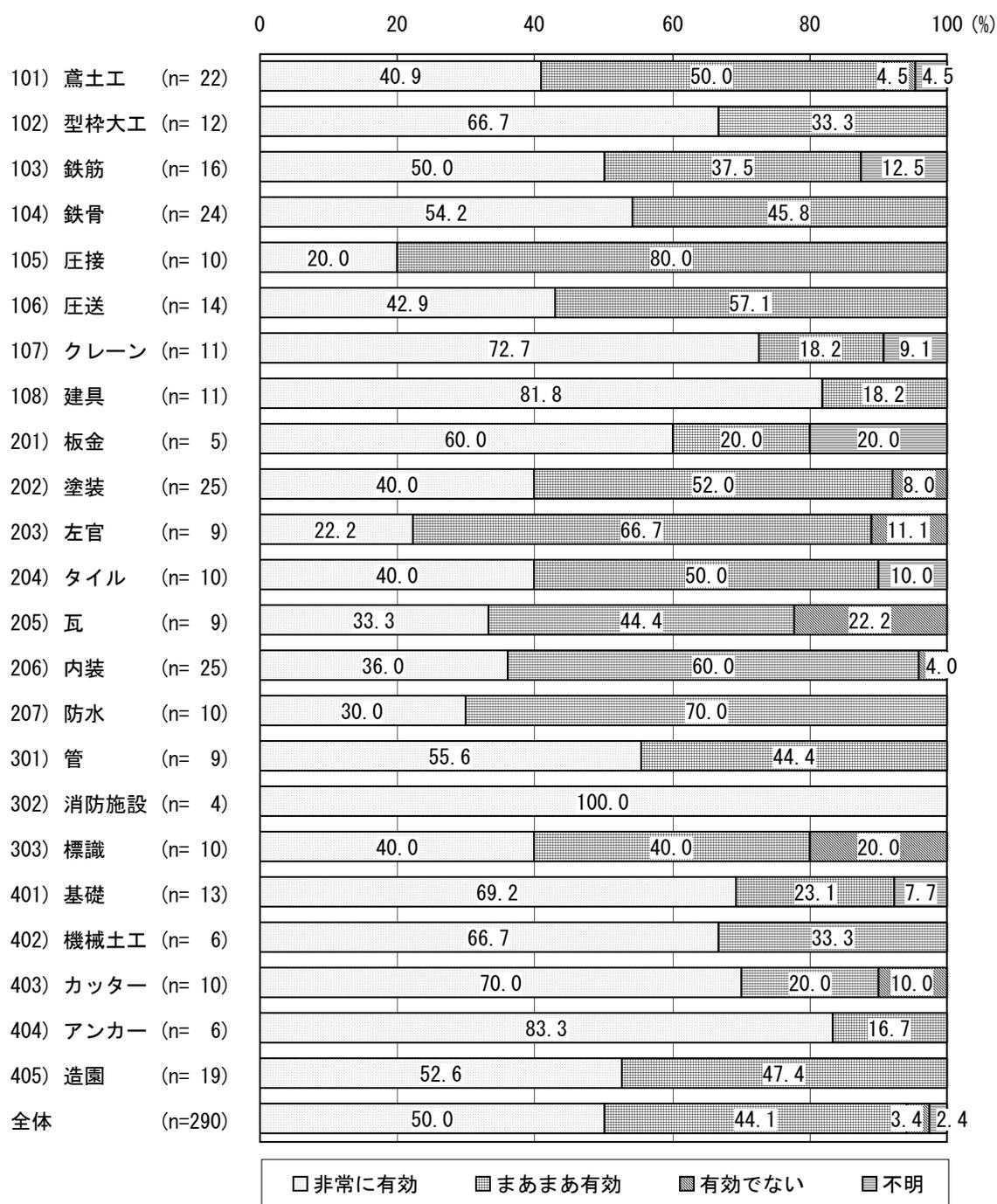
問20 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。（それぞれ〇は1つ）

- ① 施工手順の変更による効率化
- ② 省力化工法・機械化工法の積極的採用
- ③ 省力化・効率化のための技術開発
- ④ ITを活用した状況確認と人員配置

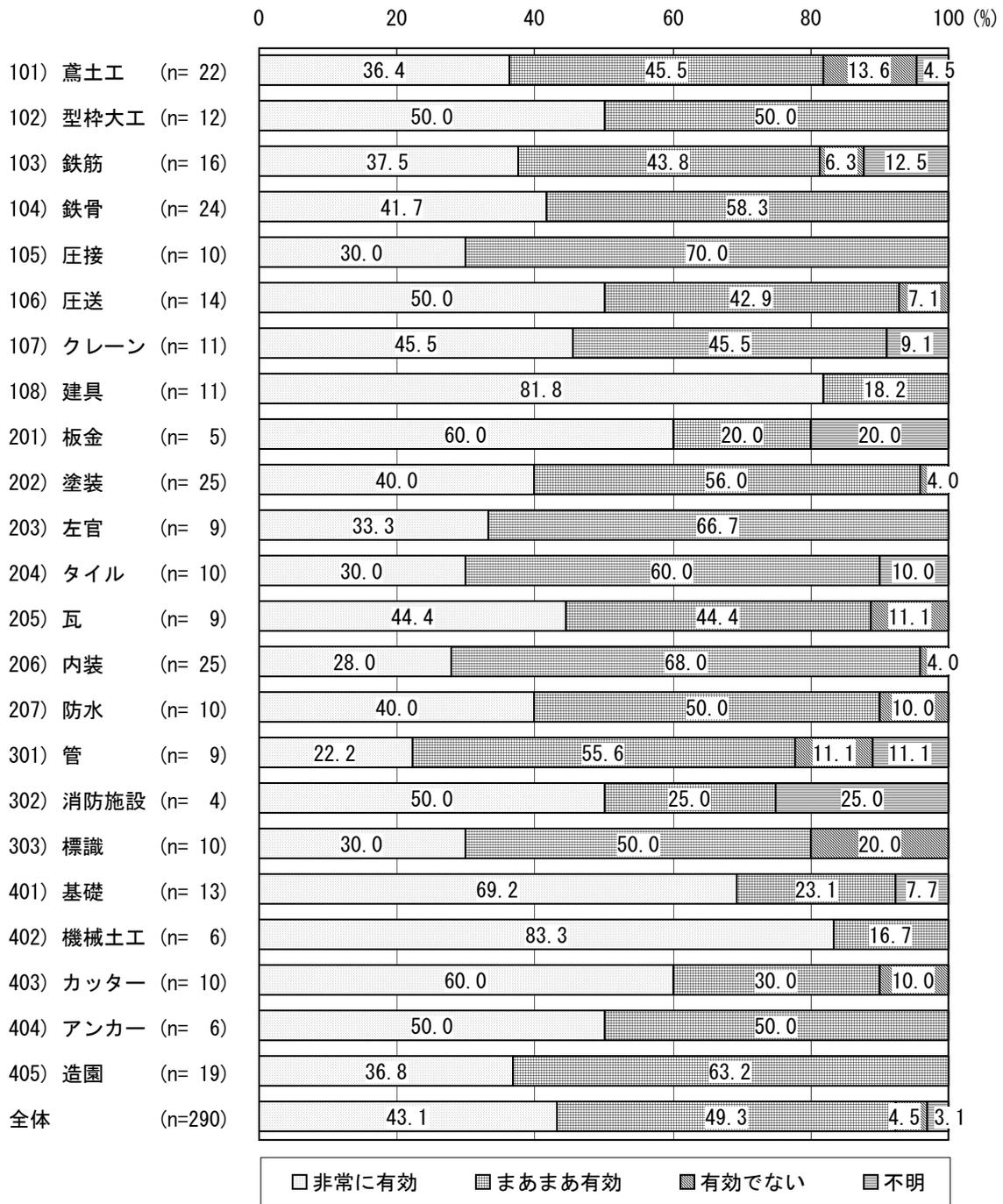
資料図 1-16-1 取組み①「施工手順の変更による効率化」の有効性（職種別）



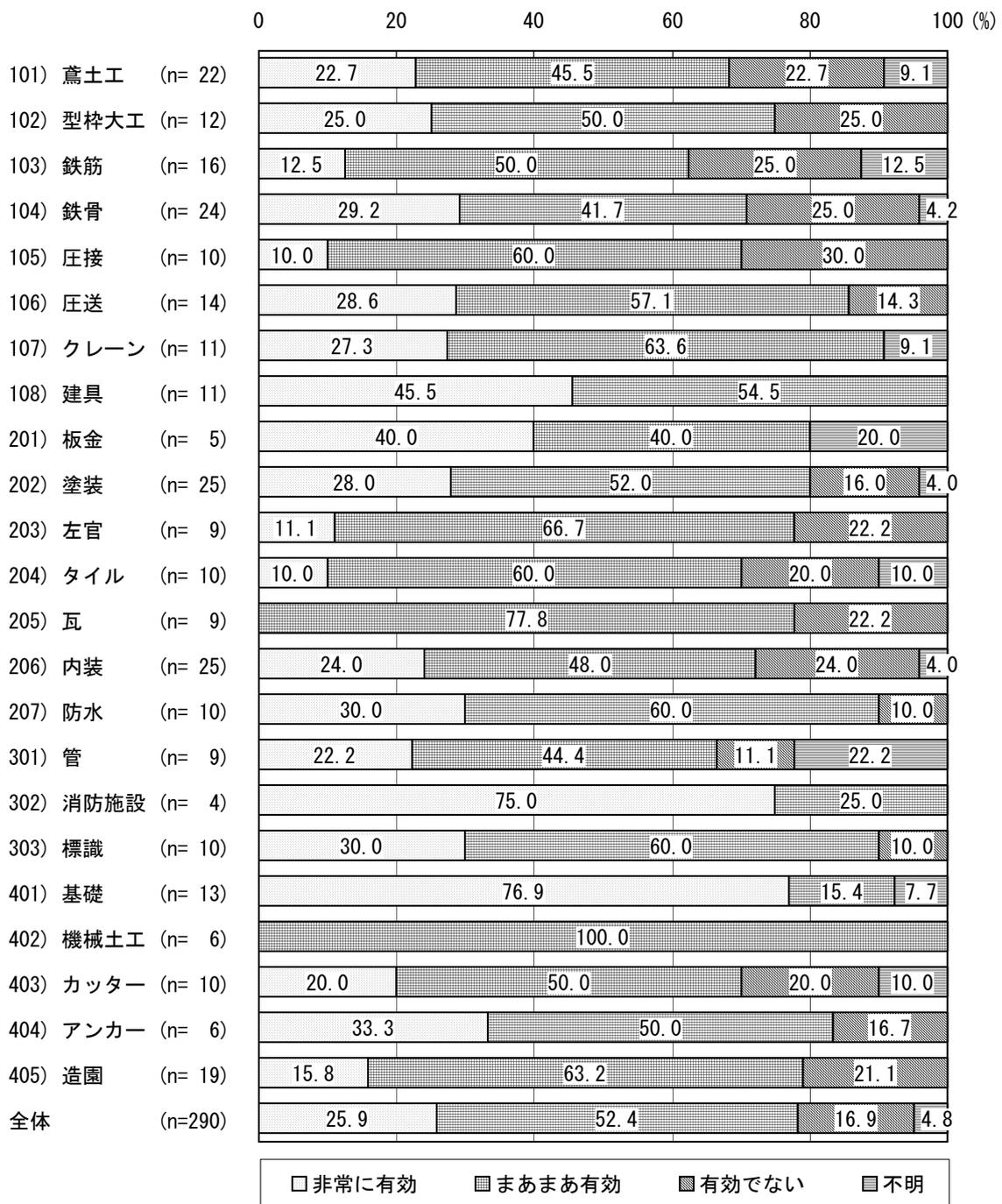
資料図 1-16-2 取組み②「省力化工法・機械化工法の積極的採用」の有効性（職種別）



資料図 1-16-3 取組み③「省力化・効率化のための技術開発」の有効性（職種別）



資料図 1-16-4 取組み④「ITを活用した状況確認と人員配置」の有効性（職種別）



2. 記述回答一覧

問2 技能労働者の労働生産性についての現状認識（その他記述回答）

- 問2 貴社の技能労働者の現状の労働生産性について、最も近い考えはどれですか。（○は1つ）
1. 労働生産性は十分に高く、これ以上高くすることは困難である
 2. 労働生産性は低くはないと思うが、さらに高める余地はある
 3. 労働生産性が低いので、高める努力が必要である
 4. その他

資料表 2-1 技能労働者の労働生産性についての現状認識（その他記述回答）

No.	記述内容	職種
1	一人親方として5人（従来直接雇用であった）で適当である。	管

問6 頻繁に発生する工事請負契約上の問題とその対策（記述回答）

問6 頻繁に発生する工事請負契約上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

資料表 2-2 頻繁に発生する工事請負契約上の問題とその対策（記述回答）

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
変更対応 (41件)	1	1. 元請から変更工事に対する正規の見積依頼がなく、先行で作業に入る事を要求される。請負工事とならない。 2. 常庸精算時の適正な経費の算入を受け入れてもらえない。 3. 設計変更後、変更金額確定まで、不足金について聞き入れてもらえない。若しくは変更金額により、入金割りが引かれる。	1. 元請担当者による変更に対する割増単価、数量の提示のお願い。 2. 大きな金額的負担が出る場合に、早く話を聞いてもらうこと。 3. 元請会社の支店等の御願いに行く。(実情は、入金があるまで多額の借入金が必要。利益は望めず、穴埋めが精一杯となる。)	鳶土工
	2	工事内容に変更が生じた際、工事代金の変更打合せ、手続きを速やかに対応していただきたいと思う。		鳶土工
	3	解体工事における産廃コストが契約より膨らんだ場合、処分費、手間の増加精算に応じてもらえない場合がある。	①積算数量を元請と明確にする。 ②実施増減契約出来るよう、着工前に取り決めを行う。	鳶土工
	4	元請は、設計変更及び単価変更になかなか対応してくれないことが非常に多い。(発注者側にも大きな問題があると思われる。)	日報等による相手方のサイン等にて明確にする。	鳶土工
	5	・元請の工期変更に伴う契約金額の変更がスムーズになされない。 ・着工前打合せ通り工事が進まない。	・その都度協議を実施しているが、良い結果が得られない場合がある。 ・期中管理の強化を図っている。	鳶土工
	6	①旧図面との比較無しに、新図面が渡されることが多く、変更箇所の変更履歴が不明確。 ②元請の指示ミス等で発生した手直し工事や、細かい追加工事で元請職員が発行した常庸伝票が、支払い段階で拒否される。	①都度つき合わせをしているが、膨大な作業量で見落としも多い。	鉄筋
	7	追加変更時の処理方法を事前に取り決めてもらえない場合がまだ多い。	工事着工前に文書化してもらえようように取り組んで行きたい。	鉄筋
	8	追加工事の増についての処理が、最後まで精算されず、支払われないことがある。	発生の都度、精算をお願いする。	鉄筋
	9	変更の追加工事が発生する。(契約内容が不明確。)	変更・追加工事は、内容等をはっきりさせて、元請のサインをもらう。	鉄筋

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
変更対応	10	契約をしてから工事に取りかかるが、工期や時間的な都合などで、追加工事が発生してくるため、追加工事金額の取り決めは、きちんと契約できない場合が多い。そのため、追加工事の金額はもらえないことが多い。	建築業界では、追加工事の費用は一般的にもらえないのが、通常になっている。当社や下請が取組みをしても、変わらないのが現状である。この件は元請で考えて欲しい問題だと思う。	鉄骨
	11	追加変更工事の費用回収。 ・付帯工事費 ・追加・変更工事費 ・追加・変更交渉の遅延	・付帯工事の数量・単価の事前取決め。 ・追加変更工事の数量、単価の早期提示のネゴ。	鉄骨
	12	契約外作業（常庸作業）が発生した場合。	見積り時に記入しておく。	圧接
	13	追加、変更工事の発生（契約内容が不明確）。	追加、変更工事は別納品書に必ず元請のサインをもらう。	圧接
	14	契約外の注文が発生する。	別金見積の別途再契約をしている。	圧送
	15	弊社は見積りを単価で出しているが、元請は合計金額で発注してくる。その時、合計金額を超えた場合に追加契約をしてあげれば良いが、してくれない場合、残りの仕事がタダ働きになる。	なるべく単価での契約をお願いしている。合計金額での請負の場合、追加契約が確実に出来るか確認し、可能なら契約、あいまいな返答の場合、契約せずに仕事を断っている。	圧送
	16	請負金額オーバーした分を貰えない時がある。	事前の協議、取決めが必要。	圧送
	17	工事の追加や変更発生時に、適切な処理が行われず、電話1本で済まされる場合などもあり、また追加工事に対するの請求に関し値引きされ易い。	・事前打合せの精度アップを図り、重要事項の確認と早期連絡実施の依頼を行う。 ・見積条件等の文書化。	圧送
	18	・工法他、変更契約の遅れ。 ・仕事が先行して、金額がわからない。 ・契約が工事完了までできない。	・施工計画又は工事変更の都度、元請等への要請。	クレーン
	19	形状やサイズ等の変更に対する追加要求。	出来る限り事前に金額提示及び担当者からの了解を頂く。	建具
	20	追加変更があった場合、その都度打ち合わせ、金額面の確認と承諾を得てから受ける。	実施中。	建具
	21	元請営業者と施主との意思の確認が不十分なため、途中で設計変更や色の変更がたびたび出て来る。	材料の色の確認に念を入れている。	板金
	22	工事施工途中での、設計及び仕様変更による工事内容の変化に伴うトラブルが多い。変更による差額の決定と、工期についての取り決めに苦労している。	工事施工に当たっては、設計や仕様の変更はやむを得ないことと思うが、金額はもちろん、工事期間に大きな変化があるので、出来るだけ事前に決定していただき、場合によっては材料等のロスも考えられるので、充分予算と工期の問題を加味してもらおうよう務めている。	塗装
	23	追加工事をなかなか認めてくれない。		塗装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
変更対応	24	①契約数量の変更に伴う精算。 ②契約外工事の精算。 ③契約品質の変更。	契約外工事に対する元請よりの的確なる支払精算。	左官
	25	追加工事、特に躯体直しの常用追加工事を認めてくれない。つまりお金を払ってくれない。	文書化して現場の所長と打合せする。ダメな場合は仕事をしないようにする。	左官
	26	追加変更工事に対して、後処理のため、金額が認められない。現在の請負単価（契約金額）では、他産業が行っている正常な雇用ができない。（国へ納める部分がない。）	追加工事等は、現場所長との打合せのうえ作業しているが、書類を残しても認められず、どのように実施したらよいか。	左官
	27	現場所長と話し合い、増減精算する。現場はたいがい話し合いが出来て、精算には問題がない。	予算のない現場では、特例で次工事に預かりの場合もあることがある。	タイル
	28	図面等、詳細な変更の問題。	問題を確認する。	タイル
	29	追加及び変更工事の扱い方。	注文書の早期発行依頼。	瓦
	30	追加変更時の処理方法の事前取決めに関して。	事前取決めは、相手が元請の場合は極めて重要だと思うが、1次下請の場合、相手によって、例えば大工さんとか、零細工務店とかには、逆効果のように思われる。事前取決めしなくても追加変更処理をして頂ける。	瓦
	31	工期短縮時のロス。	工期変更時の処理方法の事前打合せ。	内装
	32	・契約内容の変更。（数量、仕様） ・現場の不備により、100%施工が出来ない。	事前の変更確認を文書にする。	内装
	33	通常はあまり無いと思うが、追加工事の内容が問題である。	契約書の取扱いについては、常に注意を払っている。	内装
	34	物件によっては、追加工事の精算が100%認められないケースがある。	追加工事の明細を、完璧な資料として作成し、交渉する必要がある。	防水
	35	追加変更時の処理方法の事前取り決め。	していない。	管
	36	追加・変更工事の事後精算。	事前の協議及び営業担当者による協議・立合い。	標識
	37	変更追加工事に対する費用の計上について、ゼネコンの下請工事は、時々計上していただけない場合がある。（注文書を取り交わすまでもない小物件の工事で、従来の慣行で施工する場合。）	追加変更時の処理方法の事前取決めを。文書で交わす必要があれば、実施する。小物件の場合は、口頭での紳士協定による慣行で運用。	標識
	38	当初契約から、施工途中での変更や追加未契約部分の先取施工。	当初契約時、チェックリストによる事前打合せや、未契約部分での協議書記載等実施。	基礎
	39	契約上での数量とはかなり違っていても、契約（文書）での変更がない。	出来る限り、元請に文書での変更をお願いすること。	カッター
40	個別工事での書面による契約がほとんどなされていないため、追加変更時の処理が明確にされていない。		カッター	

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
変更対応	41	図面又は施工条件の不明確な点に関する問合せに対する回答に時間がかかる。 追加変更の処理が十分にされていない。その追加変更の金額(取決め)が事前になされず、工事完了後に示される。	<ul style="list-style-type: none"> 追加変更の部分の見積を事前に提出。 追加変更の取決め(金額の変更まで含めた)がされるまでは、その作業に取りかからない。 それによる遅れは工期の延長に加える。(実施予定) 	造園
請負内容不明確 (39件)	42	工事請負契約時に施工計画が定まっていないことがある。特に大型工事の場合、不明確な計画のままだと損失が大きくなる。	工事請負契約を工種、時期等で分け、適正な施工計画を決めてから、契約する。	鳶土工
	43	<ol style="list-style-type: none"> 見積依頼の遅れ。 詳細な施工条件・契約内容が見積段階で不明な点がある。 見積依頼書の項目が、施工内容と一致していない。 	<ol style="list-style-type: none"> ミニ施工会議及び着工前会議で、図面・施工条件・施工内容の把握。 施工内容にあった実質見積。 	鳶土工
	44	契約範囲が不明確(細かい詳細等)	契約前の請負範囲の確認	鳶土工
	45	他職との調整がうまくいかなかった時の請負外の作業が多数発生しており、元請はそれらを請負範囲内として下請に負担させるケースがある。こうなると請負が請負ではなくとなると共に、元請の工程管理の不備を下請が負担することになり、生産性を上げるに上げられない。また、生産性が高くても、その分を元請が(悪い言い方をすると)取ってしまうので、下請には残らない。	施工範囲を明確にして、歩掛的にも残るように記録して、協議を行う。	鳶土工
	46	施工条件、範囲が不明確な場合、打込み金物等の取付け施工に関して問題が発生し、工事が遅れる又は、後戻りする等の場面がみられる。		型枠大工
	47	<ol style="list-style-type: none"> スラブ材の転用回数 打込物(どの部分の打込をするのか) 目地材 ストックヤード 	<ol style="list-style-type: none"> 工程表でコンクリート打設日を見比べ、不要な材料を納入しない。又納入しても、使用時でない限り片付かないことの確認。 天井インサート、サッシュアンカー、ドレン等はわかるが、足場つなぎ等は入れない。 スリットで左官押さえの後に田植えする分は別。 材料仮置場所の確保。 	型枠大工
	48	廃材処理に関して、元請が責任を持って処理すべきところを、最終的に下請業者が処理することになってしまう。契約上において、廃材処理について明記されていなければ、元請が責任をもつべきと考える。現場において分別BOXが置いてあっても、入れた業者がその経費をはらうのは、二重に負担を求められるのと同じではないか。		型枠大工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
請負内容 不明確	49	施工数量は実数精算で両者協議の上となっているが、なかなか話しが折り合わない。	設計図面を早期にいただき、積算し、契約に反映させる。	型枠大工
	50	・工区の打ち継ぎの施工範囲 ・PCスラブ等の段差施工 ・機械台等の型枠	・打ち合せ時、図による説明。	型枠大工
	51	元請の一方的な契約内容で設計図書もなく、内訳のみで見積依頼がある。	各作業所にて、担当者と密に打合せを行ってから見積書を作成するよう指導している。	型枠大工
	52	せまい敷地等で荷上げ用クレーン等が使用出来ない現場での契約内容。	ピアット等の使用により、荷上げ費用等の取決めを行っている。(1フロア当たり〇〇人といった形。)	鉄筋
	53	・現場で発生するゴミ問題。 ・仮足場等の設置。	・全て現場より持ち帰り、自社で処分している。 ・事前に打合せはするが、設置してくれないケースがある。	鉄筋
	54	元請ゼネコン社員の技術的経験不足等による指示の不適切、あるいは遅延が多発している。	専門工事業の経験者、熟練技術者を、ゼネコン打合せに立会わせることで、不具合、遅延、追加を未然に防いでいる。	鉄骨
	55	図面の決定遅れと変更の多さ(基本図面が不明瞭)。	実施方法の提案。	鉄骨
	56	契約の範囲内か外であるか、明確でない。	社内で、キックオフ会議(受注後)を開催し、明確にする。疑問点があれば、営業を通じて再確認する。	鉄骨
	57	施工条件、範囲について、慣習上明記出来ない。特に追加変更は口頭による約束事となる。	その都度協議して解決。	圧接
	58	工事請負契約書の内容は、元請業者からの一方的なものと、形式だけのものが多く、問題が発生しても役には立たない。	問題発生時にも対応できる内容の契約にする。	圧送
	59	・設計数量と、おおまかな施工回数と、今迄の習慣による契約が多い。 ・実際の施工計画の中で、ヤード、足場等、仮設の設備の事前説明も無いことが多い。 ・打設(施工)予定もたびたび変更があり、段取替えの無駄も多い。 ・安全書類等も各社の違いが大きいし、常駐業者と変らぬほどの書類の提出、安全経費も認められないなど、不満も多い。 ・発注先の国交省等計画性が無く、下請無視(コストに対して)が多い。	見積りの中に安全経費を入れるようにしている。	圧送
60	・コンクリートの輸送管の搬入、搬出時の経費及び損料。 ・コンクリートポンプ車の残コン処理。		圧送	

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
請負内容 不明確	61	・施工計画とそれ以外の計画の、クレーン使用に対する金額上の問題。 ・コンプライアンスにおける道路法の上下分解に対する理解度と、それによる金額上の問題。	・発注先に内容を説明し、協議する。 ・発注先に理解してもらうよう法律の説明をし、協議をしていく。	クレーン
	62	①廃材処分費 ②差引勘定の明確化 ③追加工事及び数量不足分	・ペーパーで細かく確認する。 ・全数量を実測する。	塗装
	63	見積条件は、大手ゼネコンは提示しているが、その他はまだままだである。		左官
	64	①図面にタイル及び石の種類、形状等が明記されていないので、積算に時間がかかる。 ②図面上積算するのに、詳細図が少ない場合がある。 ③積算するのに適当な商品にて、お願いされることが多い。	①質疑事項にてなるべく回答して頂く。 ②質疑事項にてなるべく回答して頂く。 ③見積で明記した商品を使用してもらう。	タイル
	65	競争見積り（相見積り）の場合、不明点が多いと、施工者の考え方によって価格の差が出る。	見積りを出来るだけ詳細にして、仕上げと施工計画をわかりやすくしている。	瓦
	66	図面又は仕様が決まっていない場合がある。	自社で提案。	内装
	67		見積条件を提出し、各問題に対処している。内容は、共通事項、耐火工事、軽鉄工事、ボード工事、GL工事に分けて、施工範囲や追加変更への対応方法など、細かく定めている。	内装
	68	見積作成（提出）時に、図面、工法等がゼネコン側より示されない。又、提出までの時間がまったく無い。元請業者はあまりにも下請業者を犠牲にして生きている。	図面が無く判断が不明確になるため、現場名等を見て大まかな見積りにして行く。	内装
	69	前工程、後工程の範囲に認識の差があり、主工程以外の部分への従事を余儀なくされる。	事前に請負内容（範囲）の確認を実施し、双方合意の上で着手する。	防水
	70	・施工範囲が不明確。 ・追加・変更処理。	・打合せにより、図面に施工範囲別に色分けする。 ・常に施工数量のチェックにより徹底を図る。	防水
	71	1. 1次下請、2次下請の工事が多いため、図面、施工条件等が確認しづらい。 2. 追加工事に対しての変更がきかないことが多い。 3. 手待時間等が頻繁にある。 4. 施工完了後の値引きが多い。	1. 担当者との打合せを密にすること。 2. 施工完了後の値引に関して、契約書上での文言要求。	標識
	72	元請工事における交通整理人の人数について。	県土木、国においては、実施中でOK。県警に置いては実施取組中及び陳情中。	標識

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
請負内容 不明確	73		問3①～③の記載事項が決定されない場合には工事に着手しない。	基礎
	74	元請業者が具体的な施工方法及び数量（日数、ボリューム等）を把握していない場合が多々ある。	図面、数量、日数、歩掛り等を作成し、役所及び元請業者に対して提出している。	カッター
	75	契約外の仕事が施工業者の負担となる。	見積り付帯条件を明確にして、契約取決め時に再確認する。	アンカー
	76	条件の精査が不十分のまま施工せざるを得ない時がある。施工管理（品質・出来形）の頻度及び基本試験に対する取決めが不十分。（本施工に全て含みという発注。）	事前に協議するように指導しているが、発注者に工期があるということで押し切れ、終わった後では金がないということで、支払いに応じてもらえないのが実情。	アンカー
	77	契約外の作業の発注。	条件書の統一。記載もれのチェック。	アンカー
	78	1. 施工条件、工法変更による工程の遅れ等。 2. 契約内容に関しての取決め条件の協議。 3. 追加工事に関する取決め。	<ul style="list-style-type: none"> ・見積り時条件の確認。 ・契約時の契約条件の取り交し。 ・変更時の別途協議。 ・数量変更時の条件を明示。 	アンカー
	79	工事に必要な準備工が明確にされていない。（工事用仮設路等） 共通仮設費に含まれるかどうかの認識の違いがある。	書面にて協議を行い、共通仮設費と準備工との違いをはっきりさせる。	造園
	80	小規模工種の優先順位が低く扱われ、詳細がわからないまま工事着手に至り、大きな変更等によるロスや手戻りが発生。	詳細が確定し、内容確認のうえ契約することが望ましいが、出来ない場合、企画書、図面等を作成し、提案型による受注契約を目指せる力をつける。	造園
計画と実際との不一致 (18件)	81	施工図と作業所の仕事内容に違い・不足（見積項目の不足）がある。	施工図から自社で数量、施工内容を検討し、仕事の不足分を拾い出し、見積りに反映させている。	鳶土工
	82	ゼネコンの積算のロス率が大きい ため、鉄筋数量が合っていても、契約数量が不足することが起きる。	定尺拾いの促進。	鉄筋
	83	設計図書の不備による見積落ち。	相手があることなので、困難な面が多いが、なるべく見積時に不明、不備箇所を発見し、処理する。	鉄骨
	84	計画図面と実際の現場状況が違った時の対応。	・事前に現場の状況と図面の確認を十分に行う。	クレーン
	85	<ul style="list-style-type: none"> ・書類上の数値と現場との不一致。 ・請負代金支払期日の遅延。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量差異の取扱いについての、事前の取決め。 ・発注者への督促。 	塗装
	86	民間発注工事（特に分譲マンションの大規模修繕工事）の際、設計・監理者から現説時に頂く参考数量で見積りをする（参考と云っても、精査する余裕等がない）が、その数量の差異が多発し、監理者はその責任を負ってくれない。	見積り時の人員を多めに配置して、事前に差異を確認するようにしているが、競合社も多数存在するため、その確認を設計監理者に求めても、その効果がプラスに働くことが極めて少ない。泣き寝入りしておさめる場合が多い。質疑に上げてても無意味な場合が多い。	塗装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
計画と実際との不一致	87	①改修工事等の場合、事前に建物等の下見、調査等で現況の状態が把握できず、内訳数量の提示のみで契約することが多い。 ②設計書の内訳数量で、設計事務所の拾い落としがあり、後で変更して頂いても補いが少なくなる。	①事前の調査を良くやること。 ②実数実測で精算して頂く様にすする。	塗装
	88	施工数量の違いがある。	工事中に請負っている会社と協議する。	左官
	89	ある特定のゼネコンが、明らかに項目を少なくするために、作業内容をまとめて数量をごまかし、かつ値引きをしているように思われる。	全て実測し、精算資料を作成する。項目によっては確実に3割増の数量になる。このゼネコンに限り、全作業所同様である。	左官
	90	図書と現実の現場の軒出の相違。	現場打合せ時や着工時に初めて気付くことが多いため、建方以前にその旨を確認しておく。	瓦
	91	契約内容に基づく、専門工事業の行う工事の着工前の処理が、打合せ協議決定の通りにやられていない。 ・仮設物の撤去や片付け ・研りカスや下地工事時の後片付け、掃除 ・上記の事前処理（研り・穴うめ・しごき・不陸補修など）	総合打合せ会等でアピールに努めているが、上部管理者が替わる度に元に戻ることが多いので、書類の利用等を考えている。	防水
	92	工事の範囲と図面との整合性。	見積時の積算範囲のチェック及び注文書との整合性を確認する。	管
	93	工事図面の内容が不正確。（書いている人の経験と技術量が不足している。）図面上での契約をしているが、工事を開始するとまるで現場が違う場合が多い。	工事内容にはもちろんお金をかけていただくのがよろしいが、設計内容が充実していれば、工事もやりやすく利益にもつながる。	管
	94	①ボーリングデータの不備。 ②設計図面が実情に合っていない。 ③設計変更にかかる時間がかかる。	①多層下請の禁止。調査レベルを上げる。 ②発注前に専門業者に確認して欲しい。	基礎
	95	コンクリートカッター工事の場合、切断深さで20cmと設計上は記されているが、実測すると30cm、40cmと違った場合があり、設計変更がうまくいかない。	1m単価でなく、切断面の㎡にして見積を出すようにしている。	カッター
	96	・現場と契約書の数量の大きな食い違い（まちがい）。 ・契約書の説明不足が多い。 ・現場管理費の%が、発注部署により大差がある。	・現場にて数量調整（設計変更）はしたがらない。 ・交通整理員の数量を表示していない場合が多い。同じ公共工事なのに変だと思う	造園
97	官庁工事でも、入札時の設計図書をかなり変更しないと施工できない場合が多い。民間下請工事はさらにその傾向が大きい。	上記問5の取組を確実に行うこと。	造園	

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
計画と実際との不一致	98	①図面の不備が年々ひどくなっているようだ。設計コストの縮減によるものかと感じている。 ②張芝工事が主であるが、竣工間際の施工となるため、設計変更が間に合わない。(設計変更締切が早すぎる。)	①発注者への問合せを強化する。 ②完了前の求積等で対応しているが、正確に出すのは困難。	造園
赤伝票による差引(6件)	99	・金額が決まってから着工するのではなく、仮契約でスタートしてほしい。最終的金額は要望通りにはならない。 ・補修費など後で引かれるものが発生するのどきびしい。ギリギリの予算で契約していながら、終わってから引かれる。しかも仕上がっていてどこがそうなのか詳細不明。	契約時に補修費は考慮できない(仕上のやり方で変化する)ので、補修費は下請に振るべきではないと思う。	型枠大工
	100	・一方的な差引 ・設備補強等の図面上に無い工事の精算	事前の通知願(実行されていない)	鉄筋
	101	産業廃棄物処理費等の無条件差引。	見積にて事前対応中。	建具
	102	発生材、片付け代金の費用負担。	契約時に取り決める。	内装
	103	①揚重費の差引 ②補修工事費の差引	①契約の時点で分かっていたら、予算を立てる。 ②特にマンション工事に関する差引が多いが、対策等はほとんど行っていない。(戸数が多いと養生費がかさむので、それを初めから省く傾向にある。)	内装
	104	場所打ち杭の場合 1. 杭頭余盛コンクリートの高低の問題で、斫りコンクリート量の多少による赤伝処理の問題。 2. 施工工程の見積日数と比べ、早く終わった場合や延伸した場合に減額の問題。	事前に想定できる問題点を挙げ、対策を検討し、起こり得る問題点を想定しながら、施工を行うことで、手直し、手戻り工事を防止する。	基礎
手直し費用負担(6件)	105	・元請社員の計画や指示ミスによる手戻りを、専門工事業者の請負範囲内として処理される。 ・元請作成の図面間違いや、設計変更による手直しが後を絶たない。		鳶土工
	106	・杭材の曲げ→杭筋・柱筋・梁主筋の納まりを事前に検討しないため、台直しやスタラップの加工寸法を後から変更するような手戻りが発生する。 ・差し筋の直し→現場の都合で曲げられてしまった壁の差し筋や、土間・スラブの差し筋を鉄筋工が戻す。	・杭材の曲げ→納まりを事前に検討する。 ・差し筋の直し→最初の打合せ時に別途である旨を伝える。	鉄筋

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
手直し費用負担	107	製品の取付完了、引渡し後に発生するキズ、汚れの補修費。責任の所在（誰がつけたか）がはっきりしない場合、費用負担が要求される場合がある。		建具
	108	製品の施工完了・引渡し後に、キズ補修やクリーニングを依頼されるが、責任の所在が明確でない場合は、補修費が施工会社の負担とされることが多い。	現在、日本サッシ協会が取組んでいる“現場での製品品質保持活動”に歩調を合わせ、施工後の養生や取扱いに注意喚起することで、補修費自体を低減させる取組みを実施中。	建具
	109	①コンクリート直押さえ仕上時に、悪天候のため手直しが必要な時の工事費増。 ②巾木、笠木等、本来m単位で明細書に出すべき項目が㎡として出されており、単価が大きく違う時がある。	①手直し工事として追加精算をすることになるが、予算が無く話が進まない。 ②10cmの巾木は1㎡とするのに10m必要である。巾木とは分らず壁の単価で見積りすると、非常に安い単価となり、施工後追加工事として話し合いが必要となる。	左官
	110	・外壁タイル張り工事における足場解体時のタイル補修工事の責任分担。 ・打継部のEXP目地に関わるタイル割付上の不整備。 ・駄目工事における責任分担の不明確。		タイル
工程遅延 (5件)	111	前工程の遅れによって工事開始が遅れ、作業員の配置が出来ず、予定外の労務費が発生する。	全体工程の中で処理するようにし、自社の乗り込み工程に合わせよう交渉する。	鳶土工
	112	・雪による工事の遅れ。 ・レッカー費を工事が終わった後に差し引かれる。	・除雪などゼネコンに確実にやってもらうよう依頼。 ・レッカー使用前に協議し、書面にて残す。	鉄筋
	113	前工程の遅れ。	他職種（職長）との調整・情報交換。	内装
	114	工事期間延長による経費の増大。	建設業法遵守ガイドラインによる問題解決。	機械土工
	115	工事の中断及び延期、延伸。	技術職員の現場管理費の変更御願い。	機械土工
支払いの問題 (5件)	116	毎月出来高支払（現金）の契約書があるにもかかわらず、手形支払（半金半手）があり、しかも3ヶ月後ではなく4ヶ月後の支払の元請が、最近の不況で多くなっている。	この厳しい業界の状況では対策出来ない。手形が落ちるまで不安であり生産性は上らない。	鉄筋
	117	・支払条件等の問題 ・手形サイトの問題	契約時における支払条件打合せ。	圧送
	118	元請は前払い金を受け取っているにもかかわらず、下請には手形で支払っている。	官庁工事の場合は労働基準監督署に報告する。	塗装
	119	当方が元請工事の場合、支払条件が契約書に明記されているにもかかわらず、発注者の都合で変更する場合がある。	多少の遅れ等であるので、仕方がないとしている。	塗装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
支払いの問題	120	前払い金の使用条件が、資材又は下請けへの支払い証明等がないといけないのに、安全施設の工事は、調査期間が長く、前払い金の使用が出来ず、経費の算出に苦慮している。	厳しい問題なので、一会社単位では取組めない。	標識
契約締結遅延 (5件)	121	着工前に契約が成立する件数が少ない。	元請に対して繰り返し要望する。	鳶土工
	122	契約の遅延（元請側の都合）。追加変更契約においては特に顕著。	元請に対して、強く早期契約を要望しているが、難航するケースが多い。	鉄骨
	123	着工時には契約締結を完了していることが、建設業法で法制化されたにもかかわらず、工事中途又は終了間際の締結が依然として多い。	契約締結の早急化を元請に催促するよう、社員、担当者に申し渡すが、元請側もなかなか迅速化しないのが現状。	塗装
	124	注文書の発行が、非常に遅い。	元請け業者と随時協議。	消防施設
	125	契約金額が確定しないまま工事を開始することが、時々発生している。	早急に契約をするよう元請に陳情している。	アンカー
施工条件変動 (4件)	126	1. 時々ではあるが、山留工事（横矢板工法）に於いて、矢板入れ時の裏込め土の崩土による施工時間・手間の増大での生産性の低下。 2. 施工条件の気象条件（不明瞭な冬期間に於ける施工場所の降雪、除雪、排雪）による施工能率の低下。	1. 土質が軟弱であったり、玉石等崩れやすい場合には、事前に元請と関係者で施工検討を行い、山留杭（H鋼）の根固め材等を上部の位置まで注入して頂くよう依頼し、崩土防止に努めている。 2. 事前の天候確認等で、シート養生及び除雪、排雪の段取りと、冬期間の施工方法の検討を実施している。	鳶土工
	127	契約後の諸条件の変動に伴う施工条件の変更。		鳶土工
	128	品質確保のための施工要領書や、事前に教育及び指導は受けているが、現場の作業環境により大きく変更（特に近隣対応）されて、無理な工程や工法での施工を余儀なくされる。その結果、基準内の品質が確保できず、補修費等が請求されることがある。	事前に現場の作業環境を調査し、工事見積書の条件事項を具体的に記載して契約する。追加等の内容についても、できるだけ予測して見積条件に入れる。	鳶土工
	129	不確定要素の多い土木工事において、施工条件が変わるのは常である。速やかな条件・工法の変更がなされないために起こる作業効率の低下。	条件変更の根拠を明らかにし、適正な工法の変更を提案する。（変更がなされないことのリスクは施工業者にかかる。）	機械土工
指値 (4件)	130	見積依頼の時に数量表だけをもらって見積書を作成するケースが多く、見積金額から15%～20%カットした指値を提示され、有無を言わず、するか、しないか。立場の違いを痛感させられることが多い。	仕事を確保するためには呑まざるを得ず、対策など考えられない。	型枠大工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
指値	131	見積課の方で単価を決定しても、現場の方で所長より、さらに単価値下げを指示されてしまう。	悲しい事だが、専門工事業者として、単価を元請より指値されてしまうことが多い。	鉄筋
	132	見積り通りの単価がもらえない。	少しでも単価を上げる努力をする。	クレーン
	133	見積を作成して契約する際に、一方的な値決めが行なわれ、厳しい予算の中での施工になる。掛かり増しになった追加工事も認められにくい。	工事施工中に現場内を実測し、数量のチェックをして、変更の見積を提出する。出面のチェックも欠かせない。	塗装
契約形態 (4件)	134	請負工事に対して常用的な精算をされてしまう。	注文者と取極め時によく確認しておく。	鳶土工
	135	いわゆる常用精算がなかなか無くならない。(予測できない仕事、急な変更、突発的な仕事)	契約をしてから仕事をすることを徹底する。	鳶土工
	136	改築工事の現場は特に問題がある。特に学校・病院等の改築工事で、数量が全体で3000㎡ぐらいあるときは、㎡単価で契約して打合せ等に入るが、工程表をもらおうと、細かい工程になっている場合がよく有る。事前に見積を作成中に聞くが、細かい所は教えてくれない。細かいと㎡単価等が一式工事か人工工事になるためだと思う。	追加変更工事又は減工事等は、最後の精算になるが、特に監督さんとの話し合いだと思う。(早めに、話し合いをした方がいい。)	内装
	137	発注金額が少額で、かつ同一物件を複数回に分けて契約するケースが多々あり、困惑している。	国際会計を導入する際に、売上基準が問題視される。従って、同一物件の契約は一回限りになるよう鋭意奮闘中。	消防施設
その他 (11件)	138	・工期の短縮。 ・前工程の精度。	事前検査(自主)	塗装
	139	技術的な提案に対する金銭的な裏付けがない。	なにも提案せず、低価格だけを追求する。	塗装
	140	他社見積合せでの契約金の下落。	実施原価計算上、採算の取合いが原価を割る物件は、おりるようにしている。	タイル
	141	1. 直接工事費(材料、工法などの実勢価格との差異) 2. 共通仮設費、現場管理費の積上げ計算。	陳情や各種団体へのお願い。	管
	142	・資機材の搬入・揚重時、建築関係が優先され、設備業者は時間外に搬入・揚重を求められる。 ・設備の仕上げ工程に、施工に必要な時間が確保されず、設備業者はしわ寄せの吸収を余儀なくされる。	・搬入・揚重打合せの徹底。 ・現場常駐による工程打合せの徹底。 ・工期遅延による工程の変更要求の実施。	消防施設
	143	連続して作業ができない。手待ち保障がない。	機械、手間賃の休業保障の取り組み。	基礎
	144	自社はスポット的に現場に入ることが多い業種なので、現場に入ってもすぐに仕事に取りかけられず、待機することがある。		カッター
	145	制約による生産性の低下。	制約の事前確認と条件の取決め。	アンカー

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
その他	146	経済状態の悪化に伴い、契約後、金額を下げるためのVE案を求められることが多くなった。	VE案については、当社所有の在庫により提案を行い、成果を上げている。	造園
	147	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路交通事情（大型車進入規制、進入時間規制等）。 ・ 交通誘導員の内訳計上。 ・ 二次製品の納期限。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正式な契約以前の綿密な打合せ。 ・ 工事現場調査の細部確認。 	造園
	148	工期の設定。（出合業者との関係）	出合業者との綿密な打合せ。	造園

問10 頻繁に発生する工事計画上の問題とその対策（記述回答）

問10 頻繁に発生する工事計画上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

資料表 2-3 頻繁に発生する工事計画上の問題とその対策（記述回答）

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
検討不足 (49件)	1	元請計画担当者の能力低下による実施工段階での実施不可能な計画書が多い。		鳶土工
	2	・仮設計画等、一般的な計画だけでは、その工事にマッチしない時がある。	・時期・環境等の諸条件を考慮し、当該工事に合った計画をするよう、事前打合せを密にする。	鳶土工
	3	工事計画に関して、元請主導で進められることが多く、専門業者の要望がとり上げられることは少ない。	要望が通る環境作りを進め、機会のある時には積極的に意見を出して行きたい。	鳶土工
	4	元請方の一方的な計画が多いため。(工程のみにとらわれすぎ)	他業者との調整が非常に重要である。	鳶土工
	5	施工計画への専門工事業者の参画が決して多くはない。	元請に対して繰り返し要望する。	鳶土工
	6	仮設計画はされているが、作業所の条件が加味されていない。また、見積時は項目が一般的な項目になっているため、実際の施工内容と一致せず追加交渉には苦勞している。	施工検討会議後、速やかに施工項目のすり合せを行い、項目・数量共に事前に作業員まで把握しておく。	鳶土工
	7	①設計・監理会社の技量不足がはなはだしい。ミス指摘すると、いやがらせとしか思われぬ仕打ちをしてくる。 ②大手ゼネコン社員はITに頼りすぎて、事前チェックで間違いをみつけられない。	建設現場における各分野の技術力を高めるため、若年社員の教育が求められる。特に管理・監督する者はITだけに頼らず、平面的かつ立体的なイメージを描けるべきで、せめて施工図くらい手書きできる基本的技術を身につけてほしい。実現するまでにはかなりの時間が必要だろうから、対策として施工図を早期に検討し、作図して渡してもらえようお願いします。チェックはこちらで出来る。特に**設計がひどい。協会からも指導してほしい。	型枠大工
	8	建築工事と設備電気工事が別発注の場合、施工中にもかかわらず、設備電気工事に関する施工変更がよくみられる。設計の段階において、解決されているべきではないか。		型枠大工
	9	殆どの後戻り工事は2F床までに発生する。	・元請の図面、施工計画をしっかりとってもらう。 ・構造図と施工図の整合性の確認を元請任せにしない。	鉄筋

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
検討不足	10	①工程が頻繁に変更される。又は工程どおり現場が進行しない。 ②仮設計画が現場進行とマッチしていないため、スムーズな施工が出来ない。		鉄筋
	11	問7③、④	対策のしようがない！設計変更が少ないことと、優秀な元請社員に当たることのみ。	鉄筋
	12	発注者、設計者まで含めた施工会議は、今まで一度も実施されたことがない。	できれば実施したいが、難しい問題である。	鉄筋
	13	納まりを検討されていない柱・梁・杭の配筋本数や大きさ。	納まり図による検証。	鉄筋
	14	現場の工事管理者の能力が落ちてきている(仕事を知らない)と思う。	口頭で説明するが、うまく伝わらない。 全鉄筋として発行できる施工事例集等が欲しい。	鉄筋
	15	仮設計画ミスによる切断及び過度の補強。	チェックできない。(図面と現場の差)	鉄筋
	16	・元請の担当者の能力不足。 ・配置の遅れ。	先行して情報分析し、提案する。	鉄骨
	17	元請会社の工事に対する知識や技量の不足により、問題が起こったりする。	当社は、鉄骨工事のプロであるが、他の専門工事に対しても多少の知識を得るようにする。	鉄骨
	18	・工事計画の未熟による仮設計画の不備による手待ち。 ・労務管理の一方的押付け。	・安全の自主パトロールの実施。 ・リスクアセスメントの見直し。 ・弊社専門業者の自主管理システムの構築	鉄骨
	19	工程計画で元請と下請の調整がうまくいかず、ほとんど元請としての予定を記入するだけとなる。	しつこいくらい確認(予定)を入れる。	圧送
	20	現場が忙しくなると、コンクリートポンプ車は遠くに設置させられ、人数のかかる配管での仕事をさせられる。	配管代と人数割増料金の請求。	圧送
	21	工事施工計画会議等に参加しても、コスト面や工程的な都合で、なかなか反映されない。		圧送
	22	工夫の方法によってブーム打設ができるのに、現場の都合で配管打設になる。		圧送
	23	・コンサル任せが多く、実際に出来ない工法がある。 ・現状に合わない。		クレーン
	24	発注者、設計者、元請との打合せの中で、それぞれの思惑があるので、上と下での思い違いが出ている。	設計者と元請での施工打合せはしているが、下請を入れての打合せ会が行われる事は少ない。今後提案して行くが、難しいかもしれない。	板金
25	元請の所長の経験不足による手戻り。	元請上司に報告。	塗装	

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
検討不足	26	打合せ不足による他職種とのラップ作業。	綿密な工程打合せが不可欠。定例打合せの充実。	塗装
	27	現場監督員の現場把握と技術・経験の不足により、計画の立案が出来ないことが多い。	他職種とのからみの中で打合せをして、提言するようにしている。	塗装
	28	・足場設置届け図面が、監督署の要求を満たしていない。 ・現場担当者の経験（図面を見る力）不足。 ・社内全体でのチェック不足。	社内全体でチェック体制を整える。	塗装
	29	①専門業者間の責任施工範囲の明確化。 ②不具合部分の責任分担。	専門業者間の責任施工範囲は、元請現場担当社員による判定。	左官
	30	設計者がコスト削減を行っていない。設計者が専門工事を知らなさすぎる。	専門工事からの設計変更（VE）提案を行う。	左官
	31	施工業者と設計担当者での話合いは、現段階では、不可能である。設計との話合いは、元請が行っていて、口をはさむ余地はない。	実施工に入ったら変更が出ないように、施工前に十分協議してから、施工に入る。	左官
	32	発注者・設計者・元請・下請の四者による施工会議等の開催については、おそらく永遠にないと思う。		左官
	33	・他職種との納まり。 ・打合せの遅れと工程のズレ。	各職種間の工程や施工の打合せ及び施工図の催促。	瓦
	34		工事着工前の現場との打合せを密に行なう。	内装
	35	・揚重設備の不備。 ・資材の搬入計画の不備。 ・作業手順のゼネコンの計画検討不足。 ・詳細ディテールを決定せずに作業開始する。 ・作業に取合う製作物（SD、金物など）の発注遅れに伴いダメ工事が多大となる。 以上に加えて、ゼネコンの業者決定の遅れが、問題をもっと大きくしている。	・なるべく早い時期での打合せ。 ・施工計画、要領書の提出打合せ決定。 ・要望事項の打合せ検討決定。	内装
	36	改修工事における仕様や事前処理の企画・計画が不適切な場合がある。特に防水工事においては、保証に影響するので、慎重に願いたいものである。	ケースバイケースであり、対策や取組みが難しい。	防水
	37	施工が一方的な（時には理不尽な）理由によって分断され、複数回の施工となり、生産性の低下と工事費の増大を招く。	事前打合せの密度を濃く、双方納得の上で施工に入る。	防水

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
検討不足	38	現場担当者が施工図を書かなくなっているため、仕事を理解できない人が多くなっている。	後仕事に入る人達も、自分達の仕事以外分らない人が多いので、引き渡しの際、職長が要点を注意している。	防水
	39	3年未満の経験の若年社員が、現場調査・打合せに行く場合は、十分な知識がないため、手戻りになるケースもある。	経験豊富な社員が同行するなど、なるべくフォローする必要がある。	防水
	40	実際に施工出来ない計画がコンサルから上がってくる。	事前に各専門業者に確認を取ってもらう仕組みを作っていただきたい。	基礎
	41	環境対策として提案されている工法で、実際の施工上の問題を全く無視した提案。(実際の施工上の問題を理解していない場合が多い。)	トラブル事例のデータ(実際のデータ)をできるだけ多く収集して、事前対策の資料として活用し、トラブルの防止を図る。	基礎
	42	1. 本来の機能、品質及び形状(景観)にあまり関係ない部分(例:埋設部分の複雑な形状)による生産性の低下。 2. 施工数量の少ない工種でも通常の工法で計画されていることによる施工性の低下及び工事費の増加。 (例:通常の機械で施工可能である工種に特殊工法を指定)	1. 本来の機能・品質を確保した上で、施工性、経済性を考慮した工法の提案・実施。 2. 指定工法以外の品質を確保できる施工方法の提案・実施。	機械土工
	43	下請(3次以降)の工事について、下請が計画上の話合い、打合せに入ることはほとんどない。(専門業種は、頻度は低い打合せに入ることがある。)		カッター
	44	施工方法、内容、変更時の対策に関しての役所、元請業者の意識の低さ。新工法に対する姿勢の低さ。	現地を調査し、その後、元請業者へ赴き、工法、手順の説明、設計変更時の対応法、場合によっては、役所担当者への説明を行っている。	カッター
	45	元請による無理な施工計画が時々ある。		カッター
	46	工程計画に無理があり、業者を詰め込み過ぎるために、効率が非常に悪くなる。	余裕を持った工期の設定をお願いしている。	アンカー
	47	事前調査だけでは十分に調査できない部分があり、施工途中で判明する問題点もかなり多いので、それに対する迅速な対応。	事前調査の確実性を高める。	造園
	48	他業種の工事と複合的に出会いとなる現場では、元請の工程管理は特に重要になる。経験不足と学習不足による工程ミスがしばしば発生する。	直接工事担当者も交えての工程会議の実施。	造園
	49	小規模工種の優先順位が低く扱われ、手待ちや突然の依頼など、他の現場への影響によりロスが多くなっている。	事前打合せを密にし、確認を徹底して行う。	造園

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
計画と実際との不一致 (23件)	50	工事計画通りに進行しない事がたまに発生する。	施工検討会及び周知会の実施。	鳶土工
	51	・役所設計図書（標準断面図）等との差異に対する単価変更、及び工程が明確でなく、元請担当者も弊社にまかせることで、発注者との協議を強いてしようとはしない。 ・作業条件が明らかに見積時と異なった場合、変更計画に対する代価、工程が追従しない状況で作業に入る。	・弊社職員で出来る範囲の作業手順書等で、内容を明確にしていく。（弊社担当者が元請工事経験者であれば、可能なこともある。）	鳶土工
	52	図面と実作業で違いがある。	一部仮設計画図を作成し、社内で打合せををしている。	鳶土工
	53	施工前に計画した内容と現場での施工内容に変更が多い。	施工段階で見直しをして対応している。	鳶土工
	54	施工検討と異なる支保工を施工することによる生産性の低下。	元・下請による綿密な作業検討会の実施。	型枠大工
	55	資材置場など、当初の計画より少なくなる場合が多い。		鉄筋
	56	打合せ着工前と実際の現場乗込み時が異なる。	再三の打合せが必要である。故にコストアップとなる。	クレーン
	57	受注時の納期と設計打合せの納期の違い。		建具
	58	製品搬入経路の現地調査ミスなど。	現地調査の実施。エレベーターサイズの確認。	建具
	59	現場の工程上の遅れによる製品の搬入待ちと取付の手待ち。	図面承認時に、事前の現場調査により、進捗の確認を実施中。	建具
	60	他業者の工期の遅れ。	工程会議等で話し合いをする。	板金
	61	工期の変更による施工期間。	事前の現地調査の徹底。	内装
	62	工期の変更。	元請及び関連下請との工程会議。	内装
	63	先行工事の遅れによるダメ工事。例えば、サッシ未決定のまま、間仕切工事、ボード工事を先に進めて、ダメ部分を多く残す。又は、天井ふところ部分のみ先行して施工するなど。	工程会議で頻繁にアピールする。	内装
	64	1) 工程表（打合せ時）通り現場が進まないことが多発している。 2) 前工程の業者の遅れが多い。 3) 作業指示（品番決定）が遅い。	1) 品番決定の期日指定をする。 2) 前工程の施工完了日を指示して、守ってもらう。（しかしながら、守ってくれるのは約 30%程度である。）	内装
	65	道路敷地内での工事で、地下埋設物等の占有物件の位置の把握が不明確な場合があり、施工中に埋設物に支障を来たすことが生じる。	関係機関で事前調査を実施しても、正確な位置・深さ・寸法が不明確な場合があり、苦慮している。	標識
	66	区画線工事において、舗装完了後、即施工しなければならないが、手待ちは常時発生し、大きなロスが生じている。	施工検討会等々を実施中。	標識
67	工事の中断及び延期、延伸。	技術職員の現場管理費の変更御願い。	機械土工	

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
計画と実際との不一致	68	工事計画書をもらっても、計画通りに工事が出来ない。	事前の現地調査を徹底するようにしている。	カッター
	69	発注者の他、官庁や地元との協議の遅れによる施工の手待ち。工程の変更に伴う乗込み時期変更による手待ち、手戻り。	発注者・注文者に対する打合せを多くする。	アンカー
	70	頻繁な変更、もしくは不十分な設計による手待ち。	事前の調査、協議を頻繁に行う。	造園
	71	発注者より提出された埋設物の図面と工事現場との相違。	掘削作業の工程は、余裕をもった設定とする。	造園
	72	頻繁な設計変更による手待ち。	事前調査を徹底し、監督員へ当社から問題点及び対策を提案する。	造園
計画遅延 (13件)	73	施工図の遅れ	早く上がるようお願いするのみ。	型枠大工
	74	施工図の遅れ	加工、拾い出しの出来る日数がほしいので、「20日前には完全に仕上がった施工図を下さい」とお願いしている。	型枠大工
	75	改善提案の回答が遅い。	改善提案を必ず文書化して提出する。	鉄筋
	76	専門工事業者の意見を聞かないと進まないという理由でゼネコンの指示が遅れ、優先判断の決定が出来ない状況が多い。	ゼネコンに、リーダーシップの欠如と技術的未経験さがあるので、指示事項等の期限を区切り、折衝する。ドキュメントを残し、追加・変更として請求することで、効率低下をカバーする。	鉄骨
	77	図面決定遅れによる工程の逼迫。		鉄骨
	78	工作図の出図遅れ。	・作図能力アップ ・標準化	鉄骨
	79	改善提案の回答が遅い。	改善提案は必ず文書化して提出する。	圧接
	80	図面承認が遅れ、工期が短くなる場合がある。		建具
	81	一般的な住宅ではほとんどないが、色決めが遅くなると全てに影響する。	サンプルの提出と、施工確認証の記入を求めている。	瓦
	82	未決定の図面、仕様を提案しても結論が遅い。		内装
	83	設計変更などの提案について、回答を得られるまで時間がかかりすぎる。	なるべく早く提案を行う。	消防施設
工期不足 (12件)	84	標識工事における板面レイアウト等が、受注時に未確定なことが多く、また請負業者任せの上に、直前での変更が多い。	変更対応が可能なリミットを明確に伝え、都度承諾の記録を残すようにしている。	標識
	85	施工上、問題発生後の工事計画変更の遅延。	事前打合せでの予測を含めた計画変更や対策を早めに処理。	基礎
	86	時々ではあるが、工事計画上、無理な工程の場合、短時間で施工するので無理・無駄が発生し、生産性の低下に繋がる事がある。	事前検討を十分に行い、他職との取合調整を踏まえながら、工法や手順の改善を行う取組みを実施している。	鳶土工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
工期不足	87	当初の工程そのものが適正工期でないもの、または前工程の遅れで短工期になってしまうもの等がある。	工事打合せを綿密に行い、適正工期、適正人員を確保する。	鳶土工
	88	無理な工程による作業人員の増減。	毎日の打合せによる工程の調整、確認。	鳶土工
	89	・工期が短いため、適正人数より多く人を入れるため、生産性は落ちる。 ・繁忙期が重なるため、応援を頼みながら施工するが、効率は悪い。		型枠大工
	90	無理な工事計画（短納期（工期）、夜間工事など）。		建具
	91	不適切な工程短縮。		塗装
	92	・無理な工程計画を組まれる。 ・設計変更が多い。 ・施工検討会で話し合われたことが生かされない。	施工検討会の充実。	塗装
	93	・前工程の遅れにより、工程通り着工出来ず、着工してから増員を要求される。 ・決定事項が遅れ、材料等が納期までに入らない。	・全工種の打合せを行い、遅れが出ないように計画実行する。 ・早め早めの決定。	左官
	94	躯体施工の不出来で工程が延びる。	他の現場へ移動させ調整を取る。	タイル
	95	前工程の工期遅れによる、私どもの工期短縮があり、職人の増員を求められる。	現場にて前工程の期日厳守を徹底してもらう。	タイル
	96	前工程の遅れにより工事予定が狂い、その後の段取りに支障を生じ、結局最終的に、工賃の割高な応援を頼まざるを得なくなる。	常時現場の進捗状況を把握して、対応を準備しておくようにすると同時に、現場との打合せを密にしておく。	内装
	97	工期の短縮を突然要求され、作業が土・日・祝日でも続き、疲労困ぱい状況が続いている。	工程管理の徹底と、オーバーワークに対する費用の精算を求める。	消防施設
図面間違い (6件)	98	施工図間違いによる手戻り。	確実な施工図をもらうよう、事前打合せを行う。	鳶土工
	99	最近の元請の社員の技術の低下により、下請にとっては施工図面に不備な点が多く、手待ちが多く発生している。	工程会議席上では、下請の方から技術提案するよう指導している。	型枠大工
	100	図面間違いによる誤作。	完璧な加工図の作成。	鉄骨
	101	・図面間違いによる手待ち、手戻り。 ・設計変更による手待ち、手戻り。 ・不適切な工程計画による手待ち。	・図面照査を確実に行う。 ・変更内容の確認。 ・密な打合せの実施。	クレーン
	102	設計を発注者がしないでコンサル任せの場合が多く、調査不足や現場との整合性の合わない場合が多々有る。	問9の①～④	管
	103	①図面間違いによる手待ち。 ②不適切な計画による手待ち。	①発注者の対応、結論を督促すること。 ②元請、取合業者との打合せ強化。	造園

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
情報伝達不足 (5件)	104	元請より変更等の情報が入るのが遅い。	出来るだけ早めに連絡をメール等で送ってもらう。	鉄筋
	105	他職種とのコラボレーションの不徹底。	打合せの徹底。	圧接
	106	・設計変更部分の伝達不十分。 ・工程計画のズレ込みによる施工計画の狂い。		タイル
	107	毎月の仕事上の流れを前もって把握していくことをしないと、職人さん等の振り分けが難しいと思う。	現場等が少ないとか、重なるとか事前把握していれば、振り分けや段取りが楽になると思う。	内装
	108	発注段階にて数量・種別が不明確なため、事前に調査の計画が立てられない。	受注後にしか計画出来ない。	標識
その他 (19件)	109	鉄筋工事に於ける配筋ミスによる手戻り工事の発生。	専門の検査員を配属し、配筋ミスを事前に発見し修正する。	鳶土工
	110	例えば、鉄骨建方時（ビル）、一気に5節なら5節建方できる場合と、節毎に建方をする場合。	強度の問題、他職種との問題等々、物件ごとに元請と協議実施中。	鳶土工
	111	・調整（作業の流れを明確にして、その流れによる工法を細分化する） ・スピード①業者確認（できる、できない）、②コストバランス（検証）、①、②等の元請からの回答	先行して計画案を提出して回答をもらい、実施計画をまとめる。	鳶土工
	112	技量不足による能率の低下。	見習工の指導、教育。	型枠大工
	113	省力化を図るための新工法が承認されない。	全国レベルでの資料・パンフレットの作成。	鉄筋
	114	・追加変更の頻発。 ・工作図承認の遅延。 ・短工期施工の常態化。	会社として、工程品質を左右する最大の問題と認識し、最重要課題として取り組んでいるものの、効果はなお十分とは言い難い。	鉄骨
	115	2次下請等で作業を行った場合、元請が1次業者に任せきりになることがある。（1次業者に管理能力がない。）	・元請との直接契約とさせてもらう。 ・最終決定は元請にあるので、元請と打合せをさせてもらう。	圧接
	116	・仮設材の不足。 ・工程が非常に厳しい工事。 ・色決定したが、変更が多い工事。 ・色が原色に近くコストアップ。	事前打合せを十分にして、単価をアップしてもらう。早急に見積書を出す。	塗装
	117	取決め単価の内容と要求との違い。	具体的に材料、仕上程度の明確化。	塗装
	118	コンクリート直押さえの精度を過剰に求めて、それを仕上としたがり、全責任を業者に課す方向がまだにある。	過去の実績から、仕上としての不陸調整及び補修で金がかさむので、コンクリート押さえから、下地塗の工程ならびに工賃をあらかじめ見込んでおく。	左官
	119	工事計画上、急な変更。	急な変更を確認する。	タイル
	120	継続して施工できないのに、着工を強要される。	得意先担当者の説得。	内装
121	改修工事でしばしばある。	・工事経歴を整理する。 ・図面等の管理。	内装	
122		作業計画についての指示徹底。	管	

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
その他	123	元請工事については、施工単価以外の問題は少ないが、下請になった時には、手待ち、手戻り、生産性低下等の諸問題が発生する。解決を図ろうとした場合、下請契約解除という結果になるため、工事計画上の問題とその対策については、一方通行になってしまっているのが現状である。	元請との施工検討会にて、工法・手順の改善提案会の実施を要求し、見積金額に合うようにすることを実施中である。	標識
	124	近隣住民による作業時間の制限、通行車両の規制がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民との友好的な関係をキープする。(例えば朝夕の挨拶等) ・第三者に十分配慮した安全計画を立案する。 	アンカー
	125	発注者が最低価格のものを選定し、業者に品質の責任を持たせる。	機能を重視したものを提案する。	アンカー
	126	環境保全による変更。	施工検討会の着工前の実施。	アンカー
	127	工法比較、工法選定等からの元請計画への参画が多く、計画書作成に労力を要す。	計画に参画した者の労務費の一部を元請に請求している。	アンカー

問 1 4 頻繁に発生する工事管理上の問題とその対策（記述回答）

問 1 4 頻繁に発生する工事管理上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

資料表 2-4 頻繁に発生する工事管理上の問題とその対策（記述回答）

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
工程管理 不足 (26 件)	1	元請社員の工程調整逃避。		鳶土工
	2	頻繁ではないが、着手予定の遅れ、途中の手待ちが発生する。	頻繁に元請と連絡を取り合い、確認をすること。	鳶土工
	3	作業の進行手順が不明で先が見えない。	事前打合せで後作業の内容を知るようにしている。	鳶土工
	4	①工程のずれ。 ②職長の質問に対する職員の回答が遅い。 ③施工図の提示が遅い。工程の直前に渡されることが多く、施工図の間違いも多い。		鉄筋
	5	前工程職種の施工遅延等による問題。	情報交換、連絡の徹底。	圧接
	6	・前工程の未完了による、工期の不適切な短縮。 ・前工程の駄目。	・職長会での調整。 ・工程が充分であれば、前工程業者に元請を通じて改善要求する。 ・工期が無い場合は、下地直しを行い、追加請求する。	塗装
	7	工程管理が出来ていない上に、下地の養生期間を無視するような指示が多い。	前もって下地がいつ出来るのか、養生期間はいつまで必要か、文書で連絡し、監督員のサインをもらうようにして、相互に確認している。	塗装
	8	仕上げ工事業者なので、前工程の遅れが工期内の完了に着いていけず、仕上げ業者が現場内で入れ乱れている。手待ち、手戻りが多く、汚れ、キズも付けられる。	その対価として、追加金額をもらう努力しかない。	塗装
	9	・「元請職員」による工程管理のもとで施工するので、「元請職員」のレベルにより生産性が大きく変わる。 ・コンクリート工事において、本来土工がすべき「コンクリート荒均し」や、ゼネコンがすべき「レベル管理」を、左官がやらざるを得ない現場がとても多い。	・「元請職員」への専門職種に対する施工知識の指導。 ・各職種の「責任範囲」の仕事をキッチリして頂くよう、施工に入る前にゼネコンへお願いしている。	左官
	10	防水紙の施工要求が、午後 1 時とか 3 時、4 時と時間指定されるが、25%位の確率で出来ていない。	現場監督の連絡は間違いが多い。大工と連絡を取るようになっている。	瓦
	11	工程の遅れ。	事前の現場確認の徹底。	内装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
工程管理 不足	12	前工程の遅れにより工事予定が狂い、その後の段取りに支障を生じ、結局最終的に、工賃の割高な応援を頼まざるを得なくなる。	常時現場の進捗状況を把握して、対応を準備しておくようにすると同時に、現場との打合せを密にしておく。	内装
	13	低入札等で工期が少ない場合に、他の職種工事と同時施工など重大な問題のある場合がある。	事前打合せの徹底。	防水
	14	施工部位が他工程職方の通路となる。又は他工程が並行して同一部位での作業を実施する。	事前の工程打合せも大事であるが、現在の作業環境においては、避けられない事情と考える。	防水
	15	・現場乗込み時の施工期日遅れ。 ・施工中の他業種との調整。	・工事着手前の現場確認打合せ。 ・職長会にて他業種との調整。	防水
	16	年度末の繁忙期などには、各現場が、工程を守らせるため、指示間違いや前工程の未完了による工程のずれにより、工期の短縮を余儀なくされる場合がある。	他業種との打合せを密にする必要がある。	防水
	17	・工程の遅延・遅滞による作業員の調整。 ・施工管理以外に要求される書類の量。	必要になる場合の応援体制の充実。	消防施設
	18	深夜作業を求められ、断ると次回の契約はなくなると言われるケースがある。	工程管理の徹底と、生身の作業員に対する労務管理に苦心しながら取り組んでいる。また、深夜に対する割増工賃の折衝をしている。	消防施設
	19	施工予定工期の手待ち。	工事打合せによる実施工程の確認。	基礎
	20	①都市土木では、他職種と輻湊するので手待ちが多い。 ②工事施工時、想定される土質が現状と異なる場合がある。	①工程打合せにて、他職種との調整・情報交換を密に行う。 ②土質調査位置を確認し、施工位置での土質と相違があれば、追加の調査ボーリングを依頼する。	アンカー
	21	逆巻施工を行なう場合の、土工業者との工程調整の問題。	工程会議における調整。	アンカー
	22	混在作業時の当社及び他社の遅延（地質、土質の相違による）等、前工程の遅れによる手待ちが時々発生する。	工程会議、職長会等での調整を綿密に行い、極力手待ちが発生しないよう努めている。	アンカー
	23	他工事の遅れによる手待ち。	事前の打合せを充実させる。	造園
	24	現場においては、毎日のように工事予定の変更が生じる場合もある。	毎朝のKY活動の際、工事内容の確認をしている。	造園
	25	前工程、取合業種の未完、ダメ残し等で、工程が遅れる。	工程協議で調整。	造園
26	元請、下請を含めて、工程引渡し・引継ぎの重要性、工程管理の重要性に対する問題意識の希薄さ・欠如。	事前打合せを密に行い、他の現場を含め、横の連携を強めてから工事を管理する。	造園	
指示連絡 の不都合 (17件)	27	指示間違い・遅れによる問題が結構発生している。	事前に計画を先取りして提案していく。	鳶土工
	28	計画を早く伝えて（周知）理解させる。	乗込み前に周知させる。 ※事前計画に意見を出させる。	鳶土工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
指示連絡の不都合	29	事前協議は幾度となく行うが、担当者が変われば、意見の相違が発生する。責任の所在がつかめず、社員の教育も必要である。(主にJV作業所)	下請にとっては元請が変われば、その会社の方針に従うように指導している。	型枠大工
	30	指示間違いによる手待ち、手戻り。	他職種とのすり合わせ。	鉄骨
	31	・工場内仕掛品の停滞。 ・図面決定の遅れによる工場操業量の変動。	・リードタイムの短縮。 ・出図日程、加工工程の管理の強化。	鉄骨
	32	・工作図承認遅れが製作工程を圧迫。 ・追加変更工事による手戻りと工程遅延。	・期日を決めて工作図打合せを行っているが、実情は期日内に決定していない。 ・追加工事の納期・追加金の交渉をしている。	鉄骨
	33	・追加変更の頻発。 ・工作図承認の遅延。 ・短工期施工の常態化。	会社として、工程品質を左右する最大の問題と認識し、最重要課題として取り組んでいるものの、効果はなお十分とは言い難い。	鉄骨
	34	大きな現場になると、指示する人間が複数になり、意志の統一がない時がある。		圧送
	35	・工事担当者によって指示の違いがあったりする。 ・近年提出書類の増大で効率が低下している。	・相互確認の徹底。 ・法規書類のため省略できない。	圧送
	36	指示間違いによる手待ち、手戻り。	指示は確実に、正確に、適切に行なう。	クレーン
	37	図面承認時の搬入日と、現地での搬入指示の食い違い。	仕掛り前の打合せにより、工場工程変更打合せ。	建具
	38	・指示間違いによる手待ち及び品番誤発注。 ・前工程の遅れによる工程の狂いを未確認。		タイル
	39	前工程の完了確認を行うために、何度も現地確認の必要がある。		消防施設
	40	1. 指示間違いによる手待ち・手戻り。 2. 指示の遅れによる手待ち。 3. 前工程の未完了による手待ち。	1. 文書と口頭での指示。 2. 発注者、元請との連絡を事前に行なう。 3. 別工事ができるように常に用意をしておく。	標識
	41	発注者の位置、数量、種別等の決定に時間がかかりすぎる。	先々にと調査資料等の提出を行い、進捗を早める。	標識
	42	下請の立場にて施工の場合は、元請とのコミュニケーションしかなく、受身となるので自主管理しにくい。	元請工事としてグルーピング工事を施工しているが、問13にある4項目を実施しているため、元請工事に対しての問題はない。	カッター
	43	口頭での説明・指示による間違いが多いので、メモ等による指示が必要。	元請・発注者等の見ると、施工者たる自分達の見る目は異なるので、確実に自分の目で確認する。	造園

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
打合せ・確認不足 (16件)	44	1. 元請職員が現場で立合い確認しないと、作業前ミーティングの中味は自社の考えだけで作業に入るが、互いに詳細について考察する時間的余裕がない。 2. 作業前の元請提出書類は増える一方で、実作業に対する検討・計画が疎かとなっている。	元請工事社員若しくはそれに代わる立場の工事担当が増えないと、両者とも、承認を実施できることとならない。	鳶土工
	45	工事施工内容の確認不足。	元請との確認打合せと、作業前ミーティングの徹底を確実に行う。	鳶土工
	46	発注側と元請側の打合せ調整が不都合にて、乗込み時期が大幅に遅れることがある。	元請側との調整のみの対応。	鳶土工
	47	工事は直接作業所で決めて、契約して作業しているが、直接作業を指揮する職長や作業主任者が、契約内容を掌握せず作業することがある。※元請と契約せず、未決定の場合が多い。	工事着手前に契約して条件を明示して、下請に対しても職長に対しても、契約内容の詳細まで周知して管理を実施させる。	鳶土工
	48	工事単価の低下に伴い、業種間において問題（単価に合わせた人員配置、工程）の発生が頻繁にみられる。多業種が集まり、施工する建築業において、非常に危惧される問題と思われる。		型枠大工
	49	詳しく話し合わないと、話の食い違いが生じてしまう場合がある。	個人、担当者のスキルアップに努めている。	鉄骨
	50	・検査立合い時、会議出席等の理由で、なかなか監督員が来ない。 ・鉄筋屋の配筋ミスによる手待ち。 ・鉄筋屋の材料搬入時における配車ミス。 ・設備等の遅れ。	打合せを密に行う。	圧接
	51	改修工事の場合、管理者と住民とのコミュニケーション不足によるクレームが発生している。	セミナー受講。	塗装
	52	他職種との作業の同時進行時の、打合せ不足による作業内容の変更や、場合によっては作業の中止等がある。また、作業員の体調不良等による突然の休みなどがある。	出来るだけ細かく工程会議を行い、作業の流れをスムーズにすること。現場作業員の技術のレベルアップを常に行うよう心がける。	塗装
	53	作業進行上における問題点を、職長会にて打ち合わせる。	特に、前工程業者と後工程業者の調整は、元請現場社員の判定が必要。	左官
	54		工事着工後に現場進行具合による打合せをよく行ない、手戻りのないようにする。	内装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
打合せ・ 確認不足	55	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼネコンが設計・監理者とタイムリーに打合せを行わずに、やり直し、手直しが発生する。 ・自主検査の頻度が多く、提出する書類も膨大で、現場ごとに異なる。 ・大型現場になると、打合せ、パトロールが多く、職長はほとんど仕事にならない。 ・ゼネコンの組織がはっきりせずに、問題が起きる。 ・工事計画上の問題も重複する。 	対策は非常に難しい。	内装
	56	現場に着くまで、工事業種や内容が末端作業員に周知されていない場合がある。	当社のように交通安全工事の場合、区画線については、施工機械によって判るが、標識、防護柵等の作業については、毎日のミーティング、KY活動を徹底的に実施する。	標識
	57		国交省の現場に関しては、工事管理上についての取組みは頻繁にあり、実施している現場がほとんどと思われるので、問題はないと思う。(下請への参加連絡も徹底している。)	カッター
	58	少量工事の場合、工事前の打合せ等があまりなされない。	元請に、作業前ミーティングの徹底をお願いします。	カッター
	59	他工種との取り合い。	職長会の活性化。	アンカー
管理能力 不足 (11件)	60	元請職員の能力の低下。	専門職としての自主管理の強化。	鳶土工
	61	元請の管理技術の低下。	工程・施工全てに関して元請任せにしない。	鉄筋
	62	現場の工事管理者の能力が落ちてきている(仕事を知らない)と思う。	口頭で説明するが、うまく伝わらない。 全鉄筋として発行できる施工事例集等が欲しい。	鉄筋
	63	ゼネコンの経験不足と指示の不徹底。作業工程・手順の経験不足。	経験者の配備(専門工事業)。	鉄骨
	64	元請の管理能力不足が原因で有る場合が多い。	提案型の打合せの実施(どうしましょうか?はNG)。	鉄骨
	65	工事管理上の問題が頻繁に発生するのであれば、管理体制に関わる場合又は指示する者の能力の問題?	一概に生産性の低下といっても、何を基準に低下と判断するのか、工程上の問題で、単なる時間のロスや手待ちとは限らないと思われる。	瓦
	66	ゼネコン現場管理者の技能、技術、知識が低いことが、工事管理上の問題を引き起こす元だと思う。	職長に基幹技能者教育等を行なって、自立的に工事管理に参加していく。	内装
	67	<ul style="list-style-type: none"> ・元請の管理能力の低下。 ・工期が短く無理な工程を押しつける。 		内装
	68	監理者、元請の監理技術者等、(経費削減で)人手不足のため、専門工事業者の負担が増加している。		内装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
管理能力不足	69	1) 元請の工程管理能力の未熟。 2) 書類及び会議等が多すぎる。元請側の責任回避の為？ 3) 無理な工程管理が多すぎる。 4) 書類上の管理をして喜んでいる。	1) 早めの商品及び品番決定をお願いしている。 2) 前工程の会社及び職長に納期を守るように依頼する。 3) 現場状況（前工程）を把握する。現場実測を行なう。	内装
	70	元請の監督員の知識不足により、前作業が良く出来ていない。	自主管理カードの活用、並びに元請へ監督員の教育のお願い。	防水
会議等の負担増 (7件)	71	・毎日の朝礼がダラダラと長時間になり、実際に仕事にかかるのが8時30分くらいになる現場がある。 ・高層現場ではエレベーターに乗るのに30分以上待たされる。	・朝礼時間の短縮。 ・朝礼会場の分散。	鳶土工
	72	職長会と称して現場パトロールや清掃等を頻繁にさせる現場がある。	特になし	鉄筋
	73	工事前日打合せに、ポンプ車のオペレーターが呼ばれることがあるが、前日も別の現場で作業しているため、現場を休ませて、打合せに行かないといけなくなる。	オペレーターを呼ぶ場合は費用を請求する。費用が出ないのであれば、営業マンで対応する。	圧送
	74	現場によって、職長打合せを30分以上行っている現場があり、生産性の低下につながると思う。		建具
	75	・朝礼が長時間になっている。 ・仕事が16時45分に終了してしまい、コストアップする。17時30分まではやってもらうこと。		塗装
	76	職長の作業時間が確保出来ない。	打合せ時間の短縮。	内装
	77	朝礼後、昼休み又は昼休み明け、夕方等、頻繁に打合せがあり、その都度、労働者の稼働時間が拘束され、1日当たり又はその現場当たりの生産性が低下している。	管理者は非専任ではあるが、現場によっては、常駐させている。	カッター
書類作成の負担増 (7件)	78	書類記入が多い。	KY等、毎日記入する分は職長が記入するが、安全書類は店方が記入点検する。	型枠大工
	79	着工前、形骸化している書類について作成している。	必要のない書類を削除すべきである。	型枠大工
	80	・ゼネコンによって書類の書式が変わってしまう。 ・工程打合せにより、職長が現場に不在になる。	・対応するしかない。極力データ化する。 ・休憩時間帯での開催。	鉄筋
	81	I S O等の膨大な書類等を下請に書かせるため、本来の当社業務に支障が出ることが多い。	極力書類の簡略化を図ってもらうか、又は、当社のI S O書式等へ取り込んで、併用して使用できるようにしているが、客先により書式等がバラバラなため、思うように向上していない。	塗装
	82	提出書類が多すぎる。	建設業界全体で統一していただき、電子書類に変えていただく。	左官

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
書類作成の負担増	83	請負金額の大小に関係なく必要書類は必要なので、請負金額が 1000 万円以下の場合には提出書類に追われることになる。		管
	84	提出書類増大による効率低下。		造園
材料の不都合 (4 件)	85	製品が未完成のため、現地搬入が遅れ、手待ちになる。	製品製作会社との密な工程打合せ、及び手待ち期間の他作業への参加交渉。	鳶土工
	86	時々ではあるが、冬期の除雪の影響による交通機関の不具合で、材料が指定時間に遅れて手待ちが発生する。	事前に天気予報等を検討し、材料の遅れ等が発生した場合の代替作業の段取と、運搬業者に対しての指定時間を踏まえての再検討を実施。	鳶土工
	87	納入材料が寸法違い等で使用出来なく、現場での修正を実施することがある。		鳶土工
	88	材料入荷待ちによる手待ち。	図面を早期に上げて、早く材料を手配する。	鉄骨
設備の不備 (3 件)	89	安全設備等の不備による手待ち。	1. 事前ミーティング等で提案している。 2. 要望書を検討中（記録に残す）。	鉄筋
	90	安全設備等の不備による手待ち。	1. 事前ミーティング等で提案している。 2. 要望書を検討中（記録に残す）。	圧接
	91	元請が安値受注のため、安全管理費をケチり、安全な作業床が確保されず、安全上でも作業効率においても、問題がある現場が多々見受けられる。	安全と作業効率及び品質は比例することを元請職員が知るべし。	圧送
品質管理不足 (3 件)	92	躯体整備の指摘箇所の遅れ。	他の現場へ移動させる。	タイル
	93	①前施工業者による、下地の曲り、垂直の悪い個所の直しによる手待ち。 ②施工図と現場寸法の違いによる手待ち。	①前工程施工者に直させる。 ②前工程施工者に直させる。	タイル
	94	タイル工事について、前工程の不良施工のため、手待ちが時々出る。各現場では一つとして出ない現場がない。	下地の確認をするような監督がいてほしい。	タイル
その他 (13 件)	95	問 1 3 の設問は、行われているが、徹底されていない。	問 1 3 の項目については、効果の検証を行い徹底することが重要。	鳶土工
	96	1. 斫り補修の責任の範囲 2. 型枠数量の差	1. 精度の良い躯体施工 2. 見積数量の確認	型枠大工
	97	現状の工事単価では、全現場に社員の配置は出来ず、職長の負担が増すばかりである。		鉄筋
	98	建築の現場で、配筋等の変更が多い。	連絡をスムーズにするようにしている。	鉄筋
	99	仕様書に述べられていない客先の要求。	事前確認の徹底。	塗装
	100	発注単価の低減により、労働生産性の要求が高くなる。	・受注単価の値上げ。 ・工程の見直し。	塗装

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
その他	101	外注金額の取決めが遅く、取り決める前に工事に着手する結果、予定よりも高い工事金額で発注することとなる。	定額以外の工事を発注する場合は、必ず着手前に契約を結ぶように教育する。	塗装
	102	コストダウンの影響で、熟年工が賃金の低下とともに仕事へのおもしろみを無くし、責任感の無い仕事をしてしまうきらいがある。	細かな作業まで、クレーム処理は施工した職方に最後まで処理させるよう心掛けている。	左官
	103	近隣住民、第三者からのクレームが目立つようになってきている。対応のための工事管理者、施工業者の手間が増加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前告知の徹底。 ・作業前の近隣あいさつ。 	標識
	104	元請工事において、設計図書と違う時が非常に多い。	現地確認の取組み実施中。	標識
	105	最近ではIT化さえすれば工事管理に問題が発生しないと言う風潮だが、PCや管理装置も機械であり、故障してデータが取れない場合もある。その際にどうするのかという詰めた論議がなされていない。	施工手順や写真管理が基本と考え、現場力が施工上大切だと思い教育している。	基礎
	106	施工中での手待ち、段取り替えによる生産性の低下。	工事前の施工検討会等で、起こりうる手待ち、段取り替えになる要素を想定し、対策を立てる。	機械土工
	107	材料・道具置場が工事現場より遠方にありすぎる。(ストックヤードの確保)	借用地など高価でも至近距離のスペースの確保。	造園

問18 頻繁に発生する作業能力上の問題とその対策（記述回答）

問18 頻繁に発生する作業能力上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

資料表 2-5 頻繁に発生する作業能力上の問題とその対策（記述回答）

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
技量不足 (29件)	1	技量不足による手直し及び生産性の低下がたまに発生する。	技能士及び職長の教育を自社で実施。	鳶土工
	2	緊急手配による新規入場者の増員と、未熟練者の入場による工事作業の不具合発生。	事前の適正な工程管理の徹底と、新規入場者（未熟練者共）の送り出し教育、新規入場者教育、作業中の管理の徹底を行う。	鳶土工
	3	解体工事の難易度が上っている事への対応が難しい。	若年職長研修会を実施している。	鳶土工
	4	・段取りの悪さ。 ・周辺環境の整備不良（周辺住民含む）。	・事前打合せで予想される事項を確実に伝え、又確認すること。	鳶土工
	5	技量、知識不足による不具合。	自社協議会等で施工方法検討会議の実施。	鳶土工
	6	未だに無くならない配筋ミス。	・職長以外（第三者）の自主検査の徹底。 ・過去におけるミスの周知。	鉄筋
	7	職長教育、技能検定等で意識改革をしているつもりだが、技能がついて行かない部分が多少ある。	自社独自の勉強会などを月に一度ぐらい開催している。	鉄筋
	8	拾いミスによる手戻り、手待ち。	人事評価による賞与の増減。	鉄筋
	9	技量不足による不良品の発生。	資格取得等で訓練、勉強の機会を積みませ、完璧な作業員の養成を図る。	鉄骨
	10	意匠重視の構造物が多くなり、技量不足により応用対応が乏しい。	実物大の模型を作り、施工順序を決定している。	鉄骨
	11		教育訓練。	圧接
	12	作業者の技量不足による手直しが多く発生している。	熟練者による社内教育を実施している。	建具
	13	技術力不足による問題。	各種講習会への参加や、社内での講習会を、年4回ぐらい実施している。	塗装
	14	①材料、道具等の知識、教育不足。 ②施工方法の未熟、不慣れ。	①材料、道具等の教育。 ②施工方法の知識の教育と指導。	塗装
	15	有能な職人が不足している。技量不足による手直し、高齢化による作業能力の低下がみられる。	若手の人材育成。基幹技能者、資格等の取得を、技術向上のため、会社で支援している。	塗装
	16	・使用材料の間違い。 ・施工手順の間違い。	結果として手直し及び施工やりかえになる。反省会等で全社員で協議する。	左官
	17	技術力の差が、作業能力の差につながる。	専門教育の実施。	タイル

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
技量不足	18	1. 前工程（モルタル仕上、軽鉄下地、ボード貼）の職方の技量、技術力の不足により、下地の精度が悪い。 2. 納期、価格が適正でないため、各現場で無理が多発している状況にある。	1. クロス貼、床仕上等の技術力は十分に有している。 2. 設計者、元請に下地の検査をするように依頼している。 （仕上材施工は下地のボロ隠しに あらず。良い下地ではクレームなく仕上がり、悪い下地では仕上も悪い なりとなる。）	内装
	19		・ 専門技能の教育訓練の充実。（社内マニュアルの充実により、技術者の技術の統一が出来るように） ・ 防水工事での多能工の育成。（どの防水工事でも間違いのない施工が出来るように）	防水
	20	熟練技能者の減少が顕著な工種（アスファルト防水など）では、作業者の技量不足が余儀なくされるケースも出てくると思われる。	自社による技能者の育成（講習会、技能検定の積極的な取組み等）を行い、技量不足をカバーしていく必要がある。	防水
	21	技量不足。	教育訓練。	管
	22	要領の悪さや技量不足になる恐れがある。	施工条件による現場視察、事前検討会、送り出し教育にて周知徹底を図っている。	基礎
	23	作業員・管理者の技量不足による生産性の低下。	個々の経験、技量に合わせた階層別教育の実施。	機械土工
	24	経験不足による。作業内容が、上級者に比べると劣る。	必ず上級者（経験豊富）と作業にあたらせる。	カッター
	25	作業員のレベルの低さ、クレームの発生。	・ 会社又は現地にての指導。 ・ 他同業者とのJV作業による他者との格差の認識。	カッター
	26	社員・職長の技量不足による工程遅延、手直し。	社員・職長教育。	アンカー
	27	技術技能は以前（10年前）と比べ低下している。	職人の高齢化に伴い、体力、気力の低下は避けられない。若手には、技能士（造園）を受験させ、作業能力の向上に務めている。	造園
	28	技量不足による手直し又は能率の悪さ。	技能訓練の実施。	造園
	29	作業員個々の技術力向上への意欲の欠如。	徹底した指導及び不適格作業員の排除。	造園
高齢化 (17件)	30	時々ではあるが、作業員の高齢化に伴う効率の低下と、若輩者による技量不足での生産性の低下。	高齢化に伴い、若輩者への技量継承のOJT実施。	鳶土工
	31	高年齢化で一人の作業能力が低下している。		鳶土工
	32	作業員の高齢化という問題が社会問題として取り上げられ久しい現況であるが、就労希望者が減少しているのがこの業界である。高年齢の作業員の能力低下に対して、その能力と経験を補てんする若手技能者の増員は困難な状況である。		鳶土工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
高齢化	33	高齢化が進んでいる。	若年者の雇用。	鳶土工
	34	1. 作業員の高齢化による能率の衰え。 2. 若年作業員の定着率の悪さ。 3. 多能工育成の取組みを実施しているが、定着しない。		鳶土工
	35	加齢による出力の不均一。	若手技能者の育成。	鉄骨
	36	人材不足及び高齢化で、今後色々な問題が発生する恐れがある。現在、繁忙日は人材派遣を登用しているが、これも安全面で問題がある。		圧送
	37	就労者の年齢層に隔たりがある。若年層の就労者減少が目立つ。		圧送
	38	若手職人の減少。		建具
	39	・ 工事会社の高齢化。 ・ 若手工事員の育成が進まない。(募集しても応募が少ない。)	多能工化の推進。	建具
	40	施工技術者の高齢化。	・ 若く、活力のある技術者の確保。 ・ 熟練工には、特に安全面での再教育徹底。 ・ 多能工化の推進。	建具
	41	施工労務者の高齢化が進行する現在、若年労務者の養成が目下の急務。	①高等学校、中学校との密接な連絡。 ②多能化の育成。	左官
	42	職人の高齢化による作業能力の低下及び視力の低下で技量不足になり、凹凸及び通りが悪く、手直しが多い。	①施工者本人に直させる。 ②工事単価が低いので、手直しが出ないように特に注意している。	タイル
	43	技能工の高年齢化に伴う作業能率の低下。	若年層技能者の育成、取り込み。(業界としての問題)	防水
	44	作業員が高齢化しており、技能を伝承すべき若手作業員が少ない。	技能教育の実施。機械設備の改良・投資。	アンカー
	45	作業員の高齢化と若年作業員の離職、定着率の悪さ。		アンカー
	46	作業員の高齢化で、ベテラン職員が退職し、能率、仕上りの低下が見られる。	次世代の職人を育成中であるが、定着率も低く、思うように進まない。	造園
育成環境の悪化 (13件)	47	・ 請負単価が下がる中で、教育訓練にどこまで時間と金をかけられるか、非常に厳しい時期である。 ・ 作業能力が高く、生産性が上がってきても、受注できる工事が下がってきては、人事評価として金額に反映できない現状である。	・ 仕事が少ない中で、二次下請に出さずに自社の社員で施工する事が、逆に技能の習得に繋がっている面もある。 ・ 少額でも能力に応じた給与支給ができるようにしている。	鳶土工
	48	育成と理解と前向き。	やる気の有る(前向な)人材育成。	鳶土工
	49	作業員の技能向上や安全衛生教育を実施するための講師の数が少ない。	社員をCFTなどの教育者養成機関で養成する。	型枠大工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
育成環境の悪化	50	役所工事では、元請によっても異なるが、基幹技能者のかけもちは出来ないとのことであるが、下請にとっては、経費の問題もあり、改善を要する。	基本的には作業所の方針で実施している。	型枠大工
	51	現在のところ特に問題はないが、今後の課題として、人材、技能の継承（育成）も大切なことであり、新技術の導入も取り入れたいが、そのバランスが難しいと考えられる。	各技能士の資格取得を随時している。 仕事に対する本人の姿勢を、賃金に反映させている。	鉄骨
	52	熟練工の定年退職による技術力の低下及び技術伝承の不足。	定年延長による指導員制度。	鉄骨
	53	人材の適正配置がうまくいかず、工程、品質等に問題が生ずる。	・職業訓練校等に通わせ、専門技能を習得させている。 ・中堅と新人を組み合わせ、現場へ送り込む。	塗装
	54	コストダウンのために、左官工事自体に専門性がなくなり、万能工事的になりつつある。モルタル仕上など、若い職人に技術が伝わっていかないようになりつつある。	見習いから若年層の職方に、出来るだけ専門的・高度技術が必要な作業に携われるよう手配している。	左官
	55	左官工事では、若年労働者が一人前になるのが、昔は3～5年であったが、現在7～10年かかる。作業内容が変化していて当然のことと思うが、現在の受注単価では、若年労働者を育成していくのが難しい。	これからでは、間に合わない。高齢化が進み、これから若年労働者を育成していくには、技能継承が間に合わない！	左官
	56	一級技能士、基幹技能者等の資格を取らせても評価するシステムになっていない。発注する条件には入っていても、保障する賃金体制になっていない。	常に若い人材を入れ、競争意識を高める。	内装
	57	競争激化、指値等で利益が減少し、経費削減で技能向上訓練が不十分。		内装
	58	ほとんどの作業内容に対して、特別教育等の資格が必要とされているが、現場に乗り込むと、他所で実施する場合、受講するのが難しい。	現場内で受講できる体制を希望したい。現場竣工後、次の乗込みの間に受講させたいが、受講させたい資格講習が限られている。	消防施設
59	業界における作業者の地位向上の裏付け。 収入＝能力が評価される社会に。	厚生労働省切実穿孔技士の資格認定→職長教育→基幹技能者育成。	カッター	
対応力不足 (6件)	60	・朝からの作業指示が変更になった場合の対応の遅さ。 ・朝礼の開始時間が遅い。 ・トラック現場入場時間の制限。	・流れに乗っている最中に段取替えるつらさを指摘する。 ・毎日の積み重ねで時間のロスが大きくなることを訴える。 ・資材が入らないので職人が手待ちとなることを訴える。	型枠大工
	61	職長が意見をあまり述べず、現場監督の指示を鵜呑みしてしまう。(改善の提示をしない。)	OJTで都度注意している。	鉄筋

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
対応力不足	62	1. 工程上の問題から時間内施工が難しくなり、パニックによる人的ミスが多い。 2. うっかりミスの多さが目立つ。	1. 工程の事前打合せ及びミーティングにより、作業員に対して要領良くするための指導をする。 2. 確認作業の手順を教育する。	標識
	63	現場において図面等の理解力、判断力に欠ける。	活力及び技能教育の取組み中。	標識
	64	現場の状況が多種多様にわたり、作業計画及び前日の打合せ、改善等が追いつかない。(経費が高くつくため、競争力に限りがある。)	調査の頻度・密度を高め、予想される対策を講ずる。	標識
	65	普通現場作業員の工事現場処理能力。	・朝礼などミーティングの場を利用して、各自の意識の高揚を図る。 ・職長からの徹底した指示事項の伝達。	造園
管理能力不足 (5件)	66	現状の工事単価では、全現場に社員の配置は出来ず、職長の負担が増すばかりである。		鉄筋
	67	元請側の管理能力、技量不足が最大の問題。	コストアップになっている問題を認識してもらい業界としての活動が必要。	鉄骨
	68		社員の施工管理教育。	圧接
	69	・元請職員のレベル低下が著しい。「基幹技能者」により、専門職種と元請との対等な立場での現場施工が実現すれば、良くなると考える。 ・熟練技能工の高齢化により、退職する職人が多い中、現場の乾式化に伴い、技能を現場で磨く場が極端に減っている。 ・若年者の労働に対する意識の低下。学校教育が悪いと思える。他人と同等ばかり求めて競争意識が低い。	市町村等公共工事において、湿式工事導入のお願い(「漆喰」や「聚落」仕上げの導入)。	左官
	70	企画・計画時の不適切な内容への対処で、生産性が無視されている物件が時々ある。上部管理者への働きかけによる変更に伴う価値評価への対応がない。		防水
作業効率低下 (4件)	71	作業能率が悪い。	・若手職長に替える。 ・事前検討を十分する。	塗装
	72	補修工事等の小規模工事に、何職もの人間が関わること。		タイル
	73	効率の悪い職人は、常に効率の悪い仕事をしている。自分のペースが第一で、直す気持ちは少ない。	注意はするが、なかなか直らない。	瓦
	74	慣習、慣例で従来からの作業方法を変更出来ないまま、それに対する問題意識が欠如している。	抜本的な作業方法等の見直しと、PDCAサイクルによる業務管理を行い、改善システムの適用とノウハウの蓄積を行う。	造園
その他 (19件)	75	各職方の工程が決まらなく先が見えない。	各職の事前打合せをするようにしている。	蔦土工

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
その他	76	・作成した足場が勝手に解体されていたり汚されている。 ・コンクリート打設要領や順序が変更されるために、作業員が対応できない。	足場等は使用する業者が決まっているので、事前に注意している。	鳶土工
	77	当日作業に対する予習や、その後の復習がまだ徹底されていない。	事前の注意。また、工事完了反省会での協議。	鉄筋
	78	・検査立合い時、会議出席等の理由で、なかなか監督員が来ない。 ・鉄筋屋の配筋ミスによる手待ち。 ・鉄筋屋の材料搬入時における配車ミス。 ・設備等の遅れ。	打合せを密に行う。	圧接
	79	我々の工種（圧送）は、資格等々があまり評価されないように思われる。		圧送
	80	元請の監督が、コンクリートポンプ車の圧送性と生コンクリートのワーカビリティを理解していないため、何かあるとすぐにポンプ車が悪いと言われる。	もう少し、生コンクリートとポンプ車について、元請の監督は勉強してほしい。同一配合でもポンプ車が圧送出来なければ、工事は出来ない。	圧送
	81	工期短縮による作業員の投入。		塗装
	82		打ち合せ、段取りを密にしている。	タイル
	83	作業期間（工程）の確保。	作業期間（工程）の確保。	内装
	84	製作品（サッシ枠、金物等）が取り付けかない場合、その廻りの作業が残るため二重手間になる。	元請に打合せするがあまり効果がない。	内装
	85		今後は現場の管理者との打合せを徹底させること。	内装
	86		一級技能士の育成又は各講習会への参加。	内装
	87	発注者側のレベル低下のため、問題が発生した時、最初から説明してもなかなか理解できない担当者が特に多く見受けられる。	ある程度現場経験を積ませた人（10年ぐらい）を現場の管理者においた方が、話しが早く解決し、仕事の効率も良い。	管
	88	作業員のマナーが問題となるケースがある。	作業員を入れ替えており、今後の反省も含めて当該作業員を事務所内での作業（図面、機器、工程管理等々）に従事させている。	消防施設
	89	区画線等の工事で、交通量が多く、日中施工が交通制限の関係で困難な場合、夜間作業を実施しなければならない。その場合、翌日は1箇班（7～8名）休むため、作業員の不足が生じる。	従業員を募集中（2名程）であるが、これに見合う切れ間のない受注が必要である。	標識
	90	教育訓練を実施しており、大きな問題はないが、教育は未だ十分ではないと考えている。もっとも100%完了もないだろうが。		基礎

内容分類	No.	記述内容		職種
		頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み	
その他	91		今後、作業者の地位向上に対する資格をもとに作業するようにする。厚生労働者認定切断穿孔技士、職長教育、2級土木施工管理技士、基幹技能者を育成し、責任施工を目指す。	カッター
	92		当社は作業員がいないため、協力業者に作業員の教育を徹底する様指導している。	アンカー
	93	常に作業能力の向上が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会、反省会の実施。 ・上級職員による実地訓練。 	造園

問 2 1 実施中又は実施予定の省力化・効率化の取組み（記述回答）

問 2 1 貴社が実施中又は実施予定の省力化・効率化の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

資料表 2-6 実施中又は実施予定の省力化・効率化の取組み（記述回答）

内容分類	No.	記述内容	職種
工法改善 (22 件)	1	・基礎型枠など、地中にもぐる構造物にはメッシュ型枠を採用し、人員とコストの削減を行っている。 ・平面的で重機が使用できる部位は、大型型枠で組み、システム化し、生産効率を上げている。	型枠大工
	2	高所部の壁つき梁受支保工の、ブラケット施工によるノンサポート化。	型枠大工
	3	・ユニット化。 ・ゴムの結束線の使用。	鉄筋
	4	・鉄筋先組によるユニット化。 ・施工治具、工具の改良。 ・現場への材料搬入について、適時搬入の徹底。	鉄筋
	5	地組の積極採用。	鉄筋
	6	・メッシュ工法 ・先組み工法	鉄筋
	7	・ユニット工法 ・ジャバラユニット工法 ・Tヘッドバー工法	鉄筋
	8	・スポット溶接による、壁差し筋、スタラップ等のユニット化。 ・ジャバラ工法の取組み。	鉄筋
	9	段取筋の仕様化（正確なかぶり厚さの確保及び施工を少しでも容易にするため）。	鉄筋
	10	橋梁工事における柱筋（ハンガー吊込み）・フープ筋（地上組立後吊込み）の効率的な作業の取組み。	鉄筋
	11	独自の技術開発と省力化対策の実施。	鉄骨
	12	・溶接量の低減。 ・大入熱溶接の採用。	鉄骨
	13	極厚材、サブマージド溶接の 2 ラン施工及び開先角度の検討。	鉄骨
	14	天然ガス圧接工法の取入れを予定。	圧接
	15	道具の改善による省力化。	圧接
	16	現場での作業性を考慮し、工場出荷時の製品ユニット化を推進。	建具
	17	・施工工数の多い工法から少ない工法への積極的な提案、変更。 ・湿式工法から乾式工法へ、加熱作業から常温作業への積極的な提案、変更。	防水
	18	各メーカーの省力化工法の中で、品質的・価格的に優れている工法に変更して、施工している。	防水
	19	・使用資材の変更。（鋼管から樹脂管・SUS への変更等。）作業性は良くなると思われるが、基準コスト・変更箇所に対応に難点がある。 ・新規工法に用いる新たな専用機・工具類の購入に経費がかかる。（新工法に使用できる機械のリース品がない。）	消防施設
	20	使用機材の改良、手順の見直し、社員教育。	基礎
	21	新工法の提案・使用。	カッター
	22	新工法（省力化工法）の導入。	アンカー
施工検討 の徹底 (20 件)	23	現場条件が個々に多少異なるので、その都度、条件にあった効率化に取り組んでいる。	鳶土工
	24	事前計画と実施工がイコールとなるよう、計画力及び提案力の向上。	鳶土工
	25	施工事前検討会を開催して手順の検討を実施し、省力化、効率化を企図している。	鳶土工

内容分類	No.	記述内容	職種	
施工検討 の徹底	26	1. 基礎工事の着工前会議で、鳶・土工・鉄筋・型枠・設備業者で省力化を考えたVE案の検討を行っている。 2. 節目節目で鳶・土工・鉄筋・型枠・設備業者で上記と同様な検討を行っている。	鳶土工	
	27	現在、作業の計画段階から打合せを行い、図面や施工要領書を作成して事前検討している。	鳶土工	
	28	完了現場担当者からの施工方法等の反省、報告を行い、他職長等で検討会を開き、より良い方法を考え、それを水平展開していく。	鳶土工	
	29	事前計画とその計画の理解。	鳶土工	
	30	月1回の工務会（職長会）にて色々な意見交換を実施している。	型枠大工	
	31	工事着手前に、人員配置を極力少なく出来る打合せと施工計画の提案。	圧送	
	32	見積り、積算時に設計内容の事前把握、現況の確認。	塗装	
	33	施工能力の均一化。作業性の向上。	タイル	
	34	・切断機及び切断を少なくするための割付に注意を払っている。 ・仕事の内容に応じて人数を変更する。	瓦	
	35	・現場工事（施工）前における図面、仕様書等の打合せの徹底等。 ・作業分化による責任体制、役割の明確化。	瓦	
	36	工程を確保し、作業人数のバラつきをなくす。	内装	
	37	・工期に応じた施工手順の提案。 ・変更による発生リスクの提案。	内装	
	38	・現場の事前打合せの徹底と、職人一人当たりの効率を上げることに、会社を上げて取り組んでいる。 ・現場の管理と職人の意識を変えることにより、効率が上がっている。	内装	
	39	総合打合せ会や安全大会等の会議で、テーマを決めて徐々に具体的に取り組んでいる。テーマは工法、使用材料、工具・治具、資材のデリバリー・保管など。	防水	
	40	施工前施工検討会を実施。	管	
	41	・事前検討会による施工効率化。 ・機械器具の改善による省力化。	基礎	
	42	事前検討会を実施し、効率の上がる施工方法を考え、元請に提案・実施する。	機械土工	
	機械化・ 自動化 (17件)	43	出来るだけ機械化を進めている。	鳶土工
		44	機械施工が重要な要素となる場合に、メーカー等と協力して効率的作業となるように機械を改良することを実施することがある。	鳶土工
		45	解体工事に於ける大型解体機の導入。	鳶土工
46		機械化の推進。	鉄骨	
47		自動化ラインの設置、拡充による効率化の取り組みを継続中。	鉄骨	
48		機械化の推進により省力化を図り、かつ、高性能機械導入で、効率化の促進と元請の評価と信頼度の向上を図る。	圧送	
49		機械化を実施し、省力化を図る。	クレーン	
50		加工機械の自動化による効率化を実施中。	建具	
51		従来の工法をベースに、出来るだけ機械化して効率を高める。	塗装	
52		・工場生産できる物を増やす。 ・施工方法や工具の開発。	内装	
53		壁紙の張り機、はがし機があれば効率化すると思う。	内装	
54		スピードアップを図るための工具の機械化を推進中。（ドリルでの穴あけ、ビス留め作業を、空気銃で一発で留める。）	防水	
55		機械化の導入（将来はロボットの採用）を図り、作業員の省力化を図る予定である。	消防施設	
56		現場の状況、施工性に合った特殊機械の保有及び開発。	機械土工	
57		プラントなどは従来手動式の機械が多いが、自動プラントなどの設備投資を行っている。	アンカー	

内容分類	No.	記述内容	職種
機械化・自動化	58	各作業の機械化のため、資格を取らせている。また、機器材を増やしている。	造園
	59	機械化。特に新機能を有する改良機械（芝生管理機）の導入促進。	造園
IT化 (7件)	60	図面及び施工計画書のデータ化。	鳶土工
	61	パソコンの活用。	鳶土工
	62	監視カメラを利用した施工管理。	塗装
	63	LANの構築。	塗装
	64	・IT活用（図面、工事書類、工程管理等々について、アプリケーションソフトの利用）。 ・区画線材料等、フォークリフトによる機械化。自走式機械（区画線）の利用。	標識
	65	見積、契約等の電子化。電子化による現場との情報交換を行い、省力化、効率化に努めている。	アンカー
	66	ITは、調査事項の整理、実施した記録の作成等においてはたいへん有効であるが、ITはツールであるから、人と人との心の通うものが必要であることを念頭に置いている。	造園
教育訓練 (7件)	67	省力化、効率化は何より熟練工の育成にある。教育、訓練を繰り返し、人材育成第一と考える。	型枠大工
	68	・個々のスキルアップ教育訓練。 ・CAD-CAM化の推進。	鉄骨
	69	施工品質の向上。（教育方法、工事研修の見直し）	建具
	70	建設業では省力化、機械化にはある程度限界がある。とにかく、ヒューマンエラーを少なくするのが最大の省力化、効率化か？	塗装
	71	前・後工程の理解度を深める。	塗装
	72	職長クラスの技能向上、計数管理の向上が、省力化・効率化につながると思われるので、教育を実施している。	塗装
	73	勉強会の実施。	造園
ムダの排除 (4件)	74	各現場ごとに、ムダなく機械を稼働できるか、いかに人員を最小限におさえることができるか、常に思案取組み中である。	鳶土工
	75	運搬搬入時に、残材・不要材を少しであっても搬出する。	型枠大工
	76	納入材の一枚、一本拾い。	内装
	77	・省力化については、個々の責任においてムダを省くよう指導し、管理者がチェックする体制を作っている。 ・効率化については、上級者の経験と知恵を借りながら、工期の短縮に少しでも協力出来るよう、頻繁に話し合いをするようにしている。	カッター
適切な人員配置 (3件)	78	状況に応じた人員配置。作業者同志の自覚、意思確認コミュニケーションの必要性を感じる。	カッター
	79	作業現場における、人員の適材適所に努める。	カッター
	80	適材適所の労働配分と、費用対効果を考えた機械の導入。作業方法、手順のゼロベースでの見直しによる効率化。	造園
多能工化 (2件)	81	・構内協力会社方式の取りやめ。社員化に移行中。 ・多能工への移行。	鉄骨
	82	同一機械と人員で多工程の作業をすること。	基礎
作業環境改善 (2件)	83	設備機器のリプレイスにより、効率化を図っている。	鉄骨
	84	休憩時間を多めにとり、各自のストレス解消を図る。	造園
その他 (7件)	85	・「省力化・効率化」が工事費用の提言のみに走ると、安全設備の場合、安衛法等法的に欠ける場合が発生するので、特に安全については、原点にかえり見直す様になっている。	鳶土工
	86	現在やっている事が2～3あるが、今の処コメント出来ない。	塗装
	87	左官工事の機械化、工法の省力化については、ほぼ限界と感じている。	左官
	88	毎日の施工数量の個人計画を実施する。	タイル

内容分類	No.	記述内容	職種
その他	89	1) 技能者の若返りを進めること。 2) 受注単価のアップを図ること。 3) 必要な納期を確保すること。	内装
	90	手作業が主なため、あまり取り組めない。	防水
	91	当社はエコアクション21を取り入れている。	機械土工

問2 2 労働生産性の向上に有効な取組み（記述回答）

問2 2 これまでの質問で取り上げた事項以外で、労働生産性の向上に有効な取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

資料表 2-7 労働生産性の向上に有効な取組み（記述回答）

内容分類	No.	記述内容	職種
工法改善 (12件)	1	・昨今、求められる完成度の高さと、コスト削減による構造の複雑化という相反する両面間の矛盾。 ・設計段階から簡素化すべき。	鉄筋
	2	加工形状に対する元請の理解が必要。(基準法改正により難しいが、なんでもかんでも図面通りでは施工コストが掛かり過ぎる。)	鉄筋
	3	加工等、難易度が高いものの簡素化により、生産性の向上に努めたりしている。	鉄骨
	4	・器具、機材の軽量化と耐久性のアップ。 ・操作操縦性の簡素化。	圧送
	5	・天候に左右されない工法、技術、材料等の開発。 ・工程の簡素化材料の採用。	塗装
	6	塗装業の場合、労働生産性向上は非常に困難(機械化が不可能であるため)。労働生産性の向上は、製品の工程数が省略出来る材料の選定で実施する。人件費の比率が高いので、材料価格が高くなっても、工程の省略が一番良い生産性の向上になる。	塗装
	7	左官において、個人の作業能力の向上を考えれば、「工業化」は望ましくないが、作業全体の効率化を考えれば、「工業化」が有効である。	左官
	8	新しい機械化の導入だが、予算的な問題もある。	瓦
	9	1. 大型現場であればフォークリフトを導入してもらおう。 2. 材料の揚重はレッカーで、ステージは階高とフラットで作ってもらおう。 3. 作業足場はセイフティベースを導入してもらおう。	内装
	10	他産業と比べて最も遅れている業界であり、ロボットや工具の開発に取り組む必要がある。	内装
	11	扱う素材自体は熟成の域に達したものと推測される。今後は他業種のような機械化と、その機械化に対応可能な素材の出現が必要と思われる。労働生産性については、マンパワーには限界があり、今後は生産性の向上に付加するものとして、適正な労働対価の対人評価がポイントと考える。	防水
	12	1. 施工性をもっと考慮した設計。 2. 管理能力を上げることによる実質的な生産労働時間の増加。(全体的な打合せは管理者に委ね、全体朝礼の時間を減少させる。)	機械土工
適正な人事管理 (9件)	13	技能労働者のやる気を起こさせるため、個人別評価表を示し、技能の向上と賃金の見直しを実施している。	鳶土工
	14	・作業密度を如何に高めて労働生産性を高めるかについては、時間管理を良くする、適正な人員配置、着手前の目標設定と周知徹底。 ・元請に対しては、段取りの良さと作業環境整備。	鳶土工
	15	弍工及び土工で資格を保有している作業員と保有していない作業員の手当に差をつける(資格手当を明確化)。現状では資格者と一般作業員の単価の差はない。	鳶土工
	16	休憩時間等、きちっと守らせること。それが出来ないと、現場の片付け、安全等も全てがダメ。まずは基本を身につけさせる。社員のしつけ次第だと思う。	鉄筋
	17	技能士資格を活用して、モチベーションを高める。	塗装
	18	技術労働者の現場での5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰(マナー))の徹底。	内装

内容分類	No.	記述内容	職種
適正な人事管理	19	・作業員に魅力ある仕事とするには賃金のアップが必要である。 ・土木業界の社会的地位向上を図る。 ・仕事に対する責任感とプライドを認識する。	アンカー
	20	各作業員に合った工程を組む。(含材料発注等)	造園
	21	・人材の適材適所配置。 ・作業、手順のゼロベースでの見直し。 ・P D C Aサイクルによる蓄積と体系化による改善。	造園
人材育成 (7件)	22	技術、技能の向上に努めてはいるが、現状の社会環境では、後継者、若年者の育成にも限りがある。	型枠大工
	23	何よりも優秀で行動力のある職長を育成できれば、すべて解決できると思っている。	型枠大工
	24	人材教育あるのみ。社内勉強会を全員参加で定期的に行っている。	圧接
	25	コミュニケーション能力のアップ。	塗装
	26	基幹技能者を育成し、中心となっていただき、ケースバイケースの勉強会の開催。チームワークの再確認。	カッター
	27	各資格の取得。施工完了後のデータ化。資料を作成し次現場への資料としての活用。	カッター
	28	基幹技能者の育成をもとに、自社内での勉強会を中心に、労働生産性を高めるように努める。	カッター
施工検討の徹底 (6件)	29	各職の施工前検討会を実施し、各々問題点を話し合い検討している。	鳶土工
	30	事前計画に参画(自分達だけで無い)提案させて、周知理解させることから、生産性向上につながるように、各段階で実施していくこと。	鳶土工
	31	事前の施工検討を確実に言い、変更のない施工図で加工することが、労働生産性向上の大きなポイントだと思う。	型枠大工
	32	・職人、親方、職長と良く打合せし、事前検討が大切。 ・職人のランク付けをして、給料も上下させること。	塗装
	33	現場工事着工時には、意匠図、施工図を落しのないように整備する事が肝要と思う。意匠図は、確認申請を取るための図面と思われる(設計事務所)。また現場ゼネコンも施工図をなるべく減らす傾向にある。また、業者に対して図面を描く費用等は認めてもらえない。	内装
	34	現場調査、打合せを密にする。	カッター
適正工期の確保 (4件)	35	工程が厳しすぎる。予算、品質、生産性を損ねている。	型枠大工
	36	コスト減のため、工程が短いので、多めの人数が入る。これは一人当たりの生産性にはマイナスになるので、適正工期があれば向上する。	型枠大工
	37	・適切な単価、工期。 ・要求品質の把握。	塗装
	38	施工に必要な適正工期を下請(専門工事業者)に与えること。	内装
責任の明確化 (2件)	39	少人数の班編成による管理責任の明確化と不良職人の排除。	鉄筋
	40	グループ制による現場作業請負制度を実施している。	タイル
雇用改善 (2件)	41	労働者の雇用形態を日雇い・季節工から常用に改める。	塗装
	42	業界全体で、他産業が行っている福利厚生に取り組み、若年労働者の雇用に積極的になり、技能の継承を図らなければならない。	左官
元請の能力向上 (2件)	43	元請社員の計画力、工程調整能力の向上。	鳶土工
	44	管理する人がもう少し柔軟な考えを持たねばならない。マニュアルも大事だが、現場を知らない人が多い。	圧送
その他 (10件)	45	外国人労働者の採用。若年労働者の確保。	鳶土工
	46	本アンケートの設問事項以外には、有効な取り組みはないと思われる。また、設問事項については、取り組みは行っているが、徹底されていないのが現状である。	鳶土工
	47	生産性向上の独自手法で効率を上げる。	鉄骨

内容分類	No.	記述内容	職種
その他	48	安定的工事受注を確保すること。(負荷山積の平準化により、生産性が向上する。)	鉄骨
	49	リードタイム短縮。	鉄骨
	50	書類の簡素化。(書類が多すぎる。)	クレーン
	51	朝夕の高速料金が安い時間に移動する。運転者の疲労も違うし、現場に早く入れ、一日の仕事量が伸びる。	タイル
	52	費用、経費をかけてする取組みであれば、様々考えられることがあるが、実際、工事単価のアップ等になれば、逆効果になりかねない。	瓦
	53	作業場の休憩所・詰所の分煙化により、衛生環境を改善し、健康に働ける場所となることを期待する。	消防施設
	54	公共工事の専門業者には一定の資格要件を持たせ、不良業者排除をお願いしたい。	基礎

問23 建設専門工事における労働生産性についての意見（記述回答）

問23 建設専門工事における労働生産性について、ご意見があればご自由にお書き下さい。

資料表 2-8 建設専門工事における労働生産性についての意見（記述回答）

内容分類	No.	記述内容	職種
人材 (16件)	1	若者の専門工事業への増員。	鳶土工
	2	若年労働者の入職をもっと促進し、技能の伝承を実行していかななくてはと考えている。	鳶土工
	3	・職人の現場でのやる気をいかに出させるか、やる気にさせるかが問題。 ・仕事で稼げる環境を作り出すこと。	鳶土工
	4	1. 若年層の定着化のため、行政やゼネコンと一体となり検討を行う。 2. 技能訓練を定期的実施。	鳶土工
	5	・労務の生産性では高齢化、若年技能者不足、低単価でほぼ限界にきている。これ以上のコストダウンは賃金カットしかないが、すでに低賃金になっている。 ・安全管理、技術者育成、福利厚生などに取り組む会社がつらく、4~5人で何の整備もしていない（コストをかけていない）グループが有利になる。何くれ見れば、業界内の生産性はどんどん低下することになりそう。	型枠大工
	6	今の専門工事会社の賃金水準では、優秀な人材は入って来ない。他の仕事で勤まらない者が集まっても、生産性の向上なんて期待できるはずもない。まずは、社会保険も掛けず技能者もないような会社を、制度として排除すべき。	鉄筋
	7	鉄筋工の地位向上を考えると、生産性の向上に少しはつながるのではないかと思う。	鉄筋
	8	下請も管理責任者の常駐を求められ、中小企業の下請は人員配置に困っている。また、下請の社員は工事経歴に反映されていない。	クレーン
	9	「労働生産性＝魅力ある業界・職場」が大前提であると思うので、省力化・効率化を図り、若者が率先して希望する職業となるように、努力して行く。	クレーン
	10	人材確保、育成が大きな問題となると思う。単純作業等には、今後外国人労働者も大幅に使っていかねばと思うが、現状はなかなか厳しいと思われる。	塗装
	11	作業員一人一人の意識を高める工夫が重要と考える。	塗装
	12	現在、職人の高齢化が進み、若い者で職人のなり手がなかなかいない。それも請負単価が非常に低く、十分な手間賃を支払う事が出来ないからである。早く正常な施工単価に戻って、若い者が職人として誇れるような手間賃を払いたいと思っている。この様な状態が続けば、高齢化はさらに進み、建築関係の将来はなくなると思う。	タイル
	13	上述（問22）の通り、労働の価値を業界として物心両面で適正評価出来るフレームを作ることが目標と考える。このフレームが出来ない限り、労働生産性の原点とも云える労働供与者は、減少が加速するように思われる。	防水
	14	消防設備士の資格取得を進めているが、建設業での評価が低いと思慮している。是非検討をお願いしたい。	消防施設
	15	技能労働者の高齢化、確保の困難さから、今後労働生産性の低下が危惧される。	基礎
	16	若い世代が入職して来ないので、高齢化が進み、技術の伝承が出来ない。北海道の積算労務単価は実情に合っておらず、工事量・施工単価の下落で、安定思考の若者は業界に魅力を感じていない。賃金や生活の安定が確保されれば、仕事にも前向きに取り組めるので、生産性も上がると思う。	基礎

内容分類	No.	記述内容	職種
施工体制 (14件)	17	今のゼネコン（元請）主体の建設業界では限度がある。厳しいことを言わせてもらえば、ゼネコンではなく、現在の下請会社が直接注文をもらえるように変われば、社会や地域に貢献できるようになるのではないかと。	鉄骨
	18	専門工事業者として労働生産性の向上を図るための努力は必然であるが、元請工事業者及び関連他専門工事業者の理解と協力が無ければ実施していけない現状を痛感している。	圧接
	19	工事着手前の打合せを密に実施するとともに、店社管理スタッフの現場確認とフォローを随時行うことが大切であると思う。	クレーン
	20	ブローカーの排除。	塗装
	21	元・下間の双方向の情報交換を更に密にする。	塗装
	22	一人親方を集めて現場の作業員を賄う、派遣に類似した形で雇用されている労働者が多いようである。この形態を改めなければ、生産性は上らないと思う。	塗装
	23	専門工事業者間の責任施工範囲を明確にする。（元請現場社員の判定）	左官
	24	元請の工程管理のもとで施工を続ける限り、専門職種の取組みだけでは、今後も生産性は大きく上がるとは思えない。元請職員の実施工に対する知識の向上とともに、専門工事業者の意見を広く取り入れる姿勢がほしい。	左官
	25	・コストの問題だが、廃材処理費は元請（ゼネコン）の負担としてほしい。 ・荷揚費に関しても、スムーズでない現場は元請（ゼネコン）の負担として頂きたい。	内装
	26	元請の改善（改革）なくして、下請業者の生産性向上などない。今日の各現場は金なし、納期なし、検査が厳しい、と三悪が揃っている。誇れる現場無し。	内装
	27	下請における労働生産性は、自社の問題でもあるが、元請であるゼネコンの影響が大きいため、元請との調整が第一だと思う。	防水
	28	国土交通省の認知した基幹技能者制度の誕生により、専門工事業者の意見がその道のプロの意見として通用し、適正価格施工が可能な元請下請関係が築かれることを望む。	カッター
	29	専門工事業者の労働生産性を上げるには、分離発注が多く実現出来れば、作業の効率はかなり高くなると思う。専門工事業者といえども4～5次下請では、元請や発注者まで話が届かない。（問22にも同じことが言える。）	カッター
	30	基幹技能者の育成により、専門工事業者の声を聞き入れてもらい、適正価格にて作業できるようにしてほしい。	カッター
技術力・ 技能力 (13件)	31	業者としては技術、技能力アップと社員教育（技能職含む）。	鳶土工
	32	元請は技術力、下請は技能力の向上を目指し、現場力のレベルアップを図らなければ、労働生産性は向上しない。	鳶土工
	33	・難易度の高い建造物が多くなってきている。 ・経営が非常に厳しく、職種の分業化を推進してはいるが、工程手配の遅れで、現場によっては作業効率が悪い。 ・現在の給与体制（1日の賃金）の安定化が必要である。	型枠大工
	34	元請監督の管理能力に労働生産性は大きく依存している。特に派遣社員の監督は知識も責任感も乏しく、問題が大きだと思う。	鉄筋
	35	土木工事は技術、技能提案型で実施されているが、建築工事は改正建築基準法のおかげで、提案等を受け付けてくれない。	鉄筋
	36	元請の管理能力のアップと設計図の精度アップ。取合い等の標準化（無理やり多品種にしている）。 専門工事業者（メーカーも含め）が、自社の工事の標準化を進めることが、今後必要になる。	鉄骨

内容分類	No.	記述内容	職種
技術力・ 技能力	37	問 19、20 での、②③④は、現況の人材、所有機械の中では無理である。また、我業界は手作業の部分が多いと思うので、習慣性と施工手順で考えていかなければと思う。	板金
	38	元請のゼネコンの能力不足が目立つ。墨出しが出来ない担当者が多い。	塗装
	39	我々左官工事は、ここ 20 年間施工内訳が変わってきて、技術の発揮できる場所が少なくなった。(以前は、壁・床・巾木・階段などで、鏝で塗り、定木を当てて仕上げたり、漆喰、プラスター、人造研出しなど腕の見せ場があった。) 吹付の下地処理、クロスの下地処理と、下地処理屋になってしまっている。これでは生産性などあったものではない。	左官
	40	元請を含め 1 次、2 次下請の質の低下 (派遣社員の増大等)。	タイル
	41	特殊技能を活かすと生産効率が落ちるので、難しい仕事をあまりしないことと思うが、技術を見せないと差別化できないので、難しい。	瓦
	42	労働生産性、安全性及び品質の向上には、労働者の技能力、管理者の管理能力等、個々の技量に委ねる部分が多い。技術の向上、技能の継承の面からも、教育・研究費用を、工事費とは別枠で捻出できるシステムの構築ができればと思う。	機械土工
	43	年々受注単価が厳しくなり、一つの作業、一人の能力等、細部について労働生産性を高める必要がある。	造園
工事価格 (7 件)	44	生産性向上＝労働者の対価だと思うが、現況をみると非常に険しいと思う。総合的な底上げが必要なのではないか。	鳶土工
	45	発注者側 (役所、施主) に、労働生産性が高いから安く受注していると言う認識があるとは思えない。提案型入札により、今迄以上に作業が増えて安く受注する中で、元請業者が、ほんとうの意味 (生産性の向上→利潤) で請負業が成立つ仕組作りをしていかないと、専門工事業者がついていけない。	鳶土工
	46	品質基準が上っているにもかかわらず、請負単価に品質管理等の項目も無く、単価が上らないことが大きな問題である。	鳶土工
	47	工場製作がヨーイドンではじめられないため、ある程度の遊び分を能率に見込む必要があるが、現実には受注価格に 100%反映できていない。	鉄骨
	48	労働生産性を無理に上げすぎても、事故に繋がりがかねないため、単価で上げていくことが一番大事だと思われる。	圧送
	49	単価の低い工事と、元請による押し付け単価で、専門職は大変な目に遭っている。これでは技術の伝承等は全く出来ない。特にマスコミによる安ければ正しく、高ければ悪いと言うような風潮は、正してもらいたい。	圧送
	50	市場単価導入が、労働生産性の足枷になっている。	塗装
品質管理 (4 件)	51	我々が製作している建築鉄骨は、自動車や家電品とは違い、受注生産で一品一品違う物を組み立てており、労働生産性を高めるだけが良策ではないと思う。リコールの出来ない物を作っていることを自覚して、製作に当たることが重要である。	鉄骨
	52	労働生産性の向上ばかり考えていると、施工品質の悪化を招く恐れがある。両立して始めて労働生産性の向上と言える。	瓦
	53	何故、生産性や効率ばかり追求するのか？高層ビル・マンション等は別としても、一般住宅 (公共的な物も含め) については、本来の住居性である住み良い、安心できる、快適な空間を追求すべきで、文化的にも、技術の継承という面がなおざりにされている感がある。手間や時間をかけて造りだしたものは、長持ちもするが、最近の分譲住宅のように 2～3 ヶ月で完成する建物は、本来の日本の住宅様式にそぐわないと思われる。建設における専門技術は、生産性が全てではないと考える！	瓦
	54	建物とは、快適に生活できる環境でなければならない。そのためには、無理な作業工程を打破して、建築と各設備業者が協力し合うことが必要。完工後の不具合等も、突貫工事で施工した場合よりも、はるかに少なくなるはずである。	消防施設

内容分類	No.	記述内容	職種
施工計画 (3件)	55	まず安全を考えた計画を出して、生産性を向上させること。コスト内で作業員に余裕を持たせる。	鳶土工
	56	手直しの無い施工図があれば、作業所は順調に流れると思う。	型枠大工
	57	図面の不備が年々ひどくなっているようだ。設計コストの縮減によるものかと感じる。	造園
工程管理 (2件)	58	現場の工期が短時間であるため、前後の段取に時間がかかりすぎる。その費用が捻出できない。	瓦
	59	これまでのすべての質問に関係することだが、当社のような内装仕上職種において労働生産性が向上しないのは、なんと言っても前工程職種の遅れによることが一番の原因と考えられる。各ゼネコンの一層の現場工程管理を求めたい。また、異常な価格競争によって職人の賃金が下がり、それにより職人をやめる者も多く、労働者不足に陥ることが懸念される。	内装
その他 (11件)	60	作業員の健康診断について、毎年1年に1回実施しているが、作業員の中には3ヶ月前に受診しても診断結果が無いために、新規で受診する作業員も多い。(健康診断手帳の一元化)	鳶土工
	61	トップによる意識が作業員の労働生産性に大きく影響すると思うので、確実な教育等を実施する。	型枠大工
	62	共同住宅施工時のベランダスラブのPC化。	型枠大工
	63	省力化を含めた生産性の向上要因は、ある程度出尽くしたと思われ、劇的な向上は望めない状況下にある。反比例してコストは下がる一方なので、悪循環に陥っている。	鉄筋
	64	生産性向上は各社各様の方法と、今までの経験によるべきものであると思う。企業の発展のポイントである。	鉄骨
	65	労働生産性の向上=やる気×技能(能力)×やり方。 それぞれの条件を整える(アップする)ことが、建設専門工事業の管理者の役割。	内装
	66	過去に多数の機械が出たが、高すぎて導入までいかない。そのために売れなくて生産中止となったものが多数有る。補助金等があれば、導入し、さらに進んだ方向に行ける。	内装
	67	年間を通じた切れ間の無い受注が必要である。	標識
	68	「生き残るために何をすべきか？」など、各々の企業が自分で考えることである。	基礎
	69	作業工程を計画どおり進めつつも、“安全第一”の気持ちを忘れないようにする。	造園
70	当社はISO9001:2000を取得しているが、その運用に伴う書類を施主(役所)への提出書類として、代用できるようにしてもらいたい。	造園	

3. アンケート調査票

建設専門工事業の労働生産性に関するアンケート調査

(社)建設産業専門団体連合会 (建専連)

◆ご記入の前に◆

○趣旨・目的…これは建設専門工事における労働生産性の実態を把握するための調査です。記入された内容については、調査目的以外に用いることはありませんので、ご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

○回答締切日：平成 21 年 1 月 21 日(水)まで

○返送先：この調査票を配付した専門工事業団体(御社が所属している団体)にご提出ください。

○お問合せ先：建専連 道用、長谷川

TEL:03-5425-6805 FAX:3-5425-6806 E-MAIL→hasegawa@kensenren.or.jp

貴社についてお聞きします。(欄内にご記入、又は該当する番号を○で囲んで下さい。以下同じ)

貴社名		主な職種				
資本金	円	従業員数※	人			
最も多い 請負階層	1. 元請	2. 1次下請	3. 2次下請	4. 3次以下の下請		
直近の完工高 ()年度	1. 1億円未満	2. 1～3億円未満	3. 3～5億円未満	4. 5～10億円未満	5. 10～30億円未満	6. 30億円以上

※従業員には、役員及び雇用者(事務、技術、技能)すべてを含めてください。

★以下の質問では、「労働者一人当たりの施工数量」を“労働生産性”と定義します。

◆ 貴社の労働生産性について

問1 貴社が直接雇用している(社員又は直用の)技能労働者は何人ですか。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|----------|------------|----------|
| 1. 0人(いない) | 2. 1人～9人 | 3. 10人～29人 | 4. 30人以上 |
|------------|----------|------------|----------|

問2 貴社の技能労働者の現状の労働生産性について、最も近い考えはどれですか。

- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------|
| 1. 労働生産性は十分に高く、これ以上高くすることは困難である | 2. 労働生産性は低くはないと思うが、さらに高める余地はある | 3. 労働生産性が低いので、高める努力が必要である | 4. その他(具体的に) |
|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------|

◆ 工事請負契約上の問題とその対策について

問3 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。(それぞれ○は1つ)

	頻繁にある	時々ある	ほとんどない
①工事対象物(図面等)が不明確	1.	2.	3.
②施工条件・範囲(見積条件)が不明確	1.	2.	3.
③追加変更処理がなされない	1.	2.	3.

問4 貴社は、問3の対策として、以下の取組みを実施していますか。(それぞれ○は1つ)

	実施中	一部実施中	今後実施する予定	実施するつもりはない
①図面等の精査と不明点の確認	1.	2.	3.	4.
②詳細な施工条件・範囲の文書化	1.	2.	3.	4.
③契約内容に関する注文者との協議	1.	2.	3.	4.
④追加変更時の処理方法の事前取決め	1.	2.	3.	4.

問5 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	非常に有効	まあまあ有効	有効でない
①図面等の精査と不明点の確認	1.	2.	3.
②詳細な施工条件・範囲の文書化	1.	2.	3.
③契約内容に関する注文者との協議	1.	2.	3.
④追加変更時の処理方法の事前取決め	1.	2.	3.

問6 頻繁に発生する工事請負契約上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

頻繁に発生する工事請負契約上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み

◆ 工事計画上の問題とその対策について

問7 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。(それぞれ○は1つ)

	頻繁にある	時々ある	ほとんどない
①事前調査不足による手待ち・手戻り	1.	2.	3.
②図面間違いによる手待ち・手戻り	1.	2.	3.
③頻繁な設計変更による手待ち・手戻り	1.	2.	3.
④不適切な工程計画による手待ち	1.	2.	3.
⑤作業の細分化による効率低下	1.	2.	3.

問8 貴社は、問7の対策として、以下の取組みを実施していますか。(それぞれ○は1つ)

	実施中	一部実施中	今後実施する予定	実施するつもりはない
①事前の現地調査の徹底	1.	2.	3.	4.
②元請と下請による施工検討会での工法・手順の改善提案	1.	2.	3.	4.
③施工検討会での設計変更提案	1.	2.	3.	4.
④発注者、設計者、元請、下請の四者による施工会議等の開催	1.	2.	3.	4.

問9 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	非常に有効	まあまあ有効	有効でない
①事前の現地調査の徹底	1.	2.	3.
②元請と下請による施工検討会での工法・手順の改善提案	1.	2.	3.
③施工検討会での設計変更提案	1.	2.	3.
④発注者、設計者、元請、下請の四者による施工会議等の開催	1.	2.	3.

問10 頻繁に発生する工事計画上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

頻繁に発生する工事計画上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み

◆ 工事管理上の問題とその対策について

問 1 1 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。(それぞれ○は1つ)

	頻繁にある	時々ある	ほとんどない
①指示間違いによる手待ち・手戻り	1.	2.	3.
②指示の遅れによる手待ち	1.	2.	3.
③前工程の未完了による手待ち	1.	2.	3.
④材料到着の遅れによる手待ち	1.	2.	3.
⑤会議等の増大による効率低下	1.	2.	3.
⑥提出書類の増大による効率低下	1.	2.	3.

問 1 2 貴社は、問 1 1 の対策として、以下の取組みを実施していますか。(それぞれ○は1つ)

	実施中	一部実施中	今後実施する予定	実施するつもりはない
①工事着手前日の現地確認の徹底	1.	2.	3.	4.
②作業前ミーティング実施の徹底	1.	2.	3.	4.
③職長会等での他職種との調整・情報交換	1.	2.	3.	4.
④工程打合せ等の時間短縮	1.	2.	3.	4.

問 1 3 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	非常に有効	まあまあ有効	有効でない
①工事着手前日の現地確認の徹底	1.	2.	3.
②作業前ミーティング実施の徹底	1.	2.	3.
③職長会等での他職種との調整・情報交換	1.	2.	3.
④工程打合せ等の時間短縮	1.	2.	3.

問 1 4 頻繁に発生する工事管理上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

頻繁に発生する工事管理上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み

◆ 作業能力上の問題とその対策について

問 1 5 貴社が関係する工事で、以下の問題はどの程度発生していますか。(それぞれ○は1つ)

	頻繁にある	時々ある	ほとんどない
①作業者の要領の悪さによる工程遅延	1.	2.	3.
②作業者の技量不足による手直し	1.	2.	3.

問 1 6 貴社は、問 1 5 の対策として、以下の取組みを実施していますか。(それぞれ○は1つ)

	実施中	一部実施中	今後実施する予定	実施するつもりはない
①専門技能の教育訓練の充実	1.	2.	3.	4.
②目標管理による人事評価	1.	2.	3.	4.
③多能工の育成	1.	2.	3.	4.
④上級職長、基幹技能者の育成・活用	1.	2.	3.	4.
⑤工事反省会等での改善活動	1.	2.	3.	4.

問 1 7 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	非常に有効	まあまあ有効	有効でない
①専門技能の教育訓練の充実	1.	2.	3.
②目標管理による人事評価	1.	2.	3.
③多能工の育成	1.	2.	3.
④上級職長、基幹技能者の育成	1.	2.	3.
⑤工事反省会等での改善活動	1.	2.	3.

問 1 8 頻繁に発生する作業能力上の問題で、労働生産性の低下につながる事項があれば、具体的に記入して下さい。また、その対策として貴社が実施中又は実施予定の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

頻繁に発生する作業能力上の問題	対策として実施中又は実施予定の取組み

◆ 省力化・効率化の取組みについて

問 19 貴社は、以下の取組みを実施していますか。(それぞれ○は1つ)

	実施中	一部実施中	今後実施する予定	実施するつもりはない
①施工手順の変更による効率化	1.	2.	3.	4.
②省力化工法・機械化工法の積極的採用	1.	2.	3.	4.
③省力化・効率化のための技術開発	1.	2.	3.	4.
④ITを活用した状況確認と人員配置	1.	2.	3.	4.

問 20 以下の取組みは、労働生産性の向上に有効だと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	非常に有効	まあまあ有効	有効でない
①施工手順の変更による効率化	1.	2.	3.
②省力化工法・機械化工法の積極的採用	1.	2.	3.
③省力化・効率化のための技術開発	1.	2.	3.
④ITを活用した状況確認と人員配置	1.	2.	3.

問 21 貴社が実施中又は実施予定の省力化・効率化の取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

◆ その他

問 22 これまでの質問で取り上げた事項以外で、労働生産性の向上に有効な取組みがあれば、具体的に記入して下さい。

問 23 建設専門工事における労働生産性について、ご意見があればご自由にお書き下さい。

ご質問は以上です。ご協力ありがとうございました。